

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和6年度

2025年3月

京都市文化市民局

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和6年度

2025年3月

京都市文化市民局

例 言

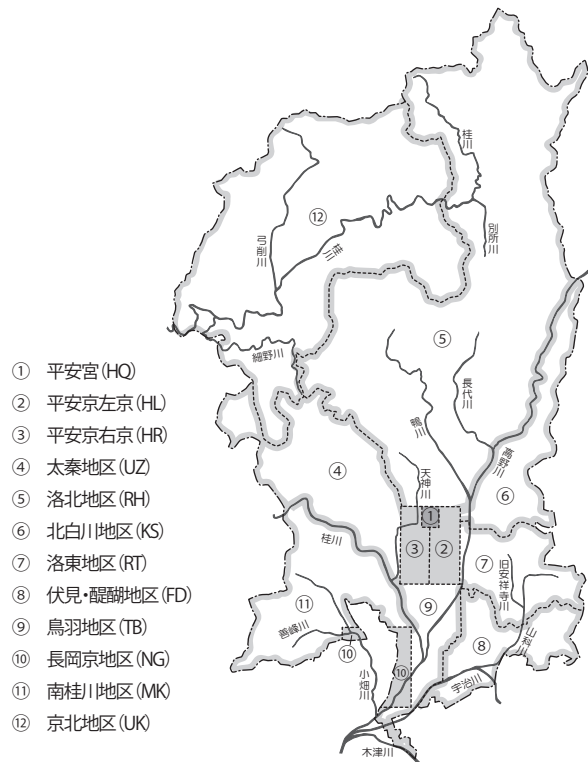
1. 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和6年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。令和6年1月から令和6年12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果があったものを本文で報告し、その他のものを一覧表に列記している。
2. 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
3. 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。
4. 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1／2,500）と一部京都市公共物GISを調整し、作成したものである。このほか、巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1／8,000、図版14～31 1／10,000

5. 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、平尾政幸「土師器再考」（『洛史』研究紀要第12号、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2019年）に準拠する。

750	840	930	1020	1110	1170	1260	1350	1410	1500	1590	1680	1740	1800	1860
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	

6. 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じる。
7. 調査一覧表では各時代の「時代」は省略し、調査日も簡略に記している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。西暦も年を省略している。
8. 調査及び整理にあたっては、飯沼 俊哉、上茶谷 美保、上別府 亜紀、早川 仁志、林 友紀、松本 和子、吉本 健吾の協力を得た。
9. 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

本文目次

I 調査概要	1
II 平安京左京	6
1 平安京左京五条一坊八町跡、本隆寺の構え跡 (23H522・23H548)	6
2 平安京左京五条二坊七町跡 (24H172)	12
3 平安京左京六条三坊七町跡、烏丸綾小路遺跡 (23H523)	15
4 平安京左京八条四坊九町跡 (24H078)	19
III その他の遺跡	25
1 市指定史跡 妙光寺境内 (23A010)	25
2 植物園北遺跡 (24S026)	28
3 室町殿跡 (花の御所) (24S236)	31
4 北白川麿寺 (24S135)	34
5 寺町旧域 (24S054)	39
IV 調査一覧表	44

報告書抄録

挿図目次

地区設定概念図	i
I 調査概要	
図1 詳細分布調査の年間件数推移	2
II - 1 平安京左京五条一坊八町跡、本隆寺の構え跡	
図2 調査位置図	6
図3 23H522 No.2 地点全景 (南東から)	7
図4 23H522 調査区配置図	7
図5 23H522 調査区平面図・断面図	8
図6 23H548 調査区配置図	9
図7 23H548 No.1 地点北壁断面 (南から)	9

図 8	23H548	No.1 地点東壁断面（西から）	9
図 9	23H548	No.1 地点平面図・断面図	10
図 10	23H548	No.2・3 地点断面図	10

II - 2 平安京左京五条二坊七町跡

図 11	調査位置図	12
図 12	調査区配置図	12
図 13	調査区断面図	13
図 14	溝 1 検出状況（No.3 地点、南西から）	13
図 15	出土遺物実測図	14

II - 3 平安京左京六条三坊七町跡、烏丸綾小路遺跡

図 16	調査位置図	15
図 17	調査区配置図	15
図 18	No.5 地点断面（北西から）	16
図 19	出土遺物実測図	16
図 20	調査区断面図	16
図 21	町内の既往の調査	17

II - 4 平安京左京八条四坊九町跡

図 22	調査位置図	19
図 23	高瀬川再整備前【写真中央は旧吾妻橋】（南から）	19
図 24	A 地点 高瀬川洗い場 平面図・立面図	20
図 25	高瀬川東岸石垣立面図【七条通～旧吾妻橋間】	21
図 26	高瀬川西岸石垣立面図【旧吾妻橋～船鉾橋間】	22
図 27	B 地点 高瀬川洗い場 平面図・立面図	23
図 28	C 地点 高瀬川東岸石垣断面図	23
図 29	高瀬川変遷図	24

III - 1 市指定史跡 妙光寺境内

図 30	調査位置図	25
図 31	印金堂跡・平成 22 年測量図	26
図 32	後堂清掃状況（南東から）	27

Ⅲ - 2 植物園北遺跡

図 33 調査位置図	28
図 34 周辺調査状況	28
図 35 調査区位置図	29
図 36 調査区断面図	29
図 37 調査区平面図	29
図 38 調査地周辺の竪穴建物検出状況	30

Ⅲ - 3 室町殿跡（花の御所）

図 39 調査位置図	31
図 40 調査区配置図	31
図 41 No. 1 地点遺構検出状況（北東から）	31
図 42 調査区断面図	32
図 43 出土遺物実測図	33

Ⅲ - 4 北白川廃寺

図 44 調査位置図	34
図 45 調査区配置図	34
図 46 No. 1 地点北壁オルソ写真	35
図 47 No. 2 地点北壁（南西から）	35
図 48 No. 1・2・4 地点断面図	36
図 49 No. 3・5 地点断面図	37

Ⅲ - 5 寺町旧域

図 50 調査位置図	39
図 51 No. 1 地点東壁断面図・No. 3 地点南壁断面図	40
図 52 No. 3 地点 石垣検出状況（北から）	40
図 53 No. 2 地点平面図・石垣立面図・南壁断面図	41
図 54 No. 4 地点平面図・石垣立面図・南壁断面図	41
図 55 No. 2 地点石垣（北西から）	42
図 56 No. 4 地点石垣（北東から）	42
図 57 調査地点と妙満寺跡復原図	43

表 目 次

表 1	令和 6 年の詳細分布調査件数	1
表 2	出土遺物概要表	5
表 3	平安京左京六条三坊七町跡調査一覧	18

図 版 目 次

図版 1 ～ 31 調査位置図

図版 1	平安宮
図版 2	平安京左京北辺～三条一・二坊
図版 3	平安京左京北辺～三条三・四坊
図版 4	平安京左京四～六条一・二坊
図版 5	平安京左京四～六条三・四坊
図版 6	平安京左京七～九条一・二坊
図版 7	平安京左京七～九条三・四坊
図版 8	平安京右京北辺～三条三・四坊
図版 9	平安京右京北辺～三条一・二坊
図版 10	平安京右京四～六条三・四坊
図版 11	平安京右京四～六条一・二坊
図版 12	平安京右京七～九条三・四坊
図版 13	平安京右京七～九条一・二坊
図版 14	伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、指月城跡、太閤堤（小倉堤、槇島堤）
図版 15	伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、木幡ノ関跡、黄金塚 1 号墳
図版 16	御土居跡、今宮神社、大徳寺旧境内、雲林院跡、寺ノ内旧域、大報恩寺境内、 北野鳥居前町遺跡、北野天満宮、北野遺跡、北野廃寺、北野製鉄遺跡、上京遺跡
図版 17	1 鞍馬山経塚群 2 妙見堂遺跡、醍醐ノ森瓦窯跡 3 雲林院跡、寺ノ内旧域、上京遺跡、上御霊遺跡、相国寺旧境内、寺町旧域、 室町殿跡（花の御所）、公家町遺跡
図版 18	下津林遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡、長岡京跡
図版 19	長岡京跡、曆田遺跡、長黒遺跡、羽束師志水町遺跡、久我殿遺跡、神川神社、 久我東町遺跡、桂川関連遺跡
図版 20	長岡京跡、桂川関連遺跡、水垂築山城跡、淀水垂大下津町遺跡、與杼神社旧境内、

淀城跡

- 図版 21 市指定史跡妙光寺境内、鳴滝藤ノ木町古墳、円宗寺跡、円乗寺跡、仁和寺院家跡、常盤柏ノ木古墳群、村ノ内町遺跡、常盤東ノ町古墳群、太秦馬塚町遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内、森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡、西野町遺跡
- 図版 22 大雲院跡、岩倉忠在地遺跡、栗栖野瓦窯跡、松ヶ崎廃寺、芝本瓦窯跡、植物園北遺跡
- 図版 23 北白川廃寺、上終町遺跡、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡、白河街区跡、岡崎遺跡、白河北殿跡、白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、法勝寺跡
- 図版 24 寺町旧域、御土居跡、祇園遺跡、建仁寺旧境内、六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡、清閑寺境内、鳥部（辺）野、法性寺跡
- 図版 25 1 嵯峨遺跡、嵯峨折戸町遺跡、臨川寺境内、嵯峨北堀町遺跡、南野古墳群、上ノ段町遺跡 2 植物園北遺跡、芝本瓦窯跡
- 図版 26 1 中臣遺跡、中臣十三塚 2 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡
- 図版 27 1 山田車塚古墳、革嶋館跡、檜原廃寺瓦窯跡、檜原廃寺跡、檜原遺跡、下津林遺跡 2 周山城跡
- 図版 28 1 公家町遺跡、法成寺跡、寺町旧域 2 北花山遺跡、鳥部（辺）野、清閑寺境内 3 四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡 4 上鳥羽岩ノ本城跡
- 図版 29 1 西野町遺跡、嵯峨野高田町遺跡 2 一乗寺向畑町遺跡、一乗寺西野町遺跡、一乗寺跡 3 修学院雲母坂城跡隣接地 4 如意寺跡 5 寺町旧域 6 西野山遺跡群（西野山古墓） 7 泉涌寺境内、本多山古墳群、法性寺跡、鳥部（辺）野 8 人康親王山莊跡
- 図版 30 1 山科本願寺南殿跡 2 稲荷山坊崖遺跡、稲荷山古墳群、伏見稲荷大社境内 3 深草遺跡、安楽行院跡、深草坊町遺跡、貞観寺跡、西飯食町遺跡 4 谷口遺跡、がんせんだう廃寺 5 法界寺旧境内 6 唐橋遺跡 7 富ノ森城跡 8 長岡京跡、上里遺跡
- 図版 31 1 松室遺跡 2 芝古墳群、史跡乙訓古墳群（芝古墳） 3 福西古墳群 4 八幡宮古墳群
- 図版 32 III - 4 北白川廃寺 遺構
- 図版 32 No.5 北壁断面オルソ写真

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和6年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では令和6年1月4日から3月29日までの令和5年度分157件、令和6年4月1日から令和6年12月27日までの令和6年度分321件、計478件を報告する(表1)。

アルバイトのAが上司から連絡を受けたのは5月の若葉が色づく頃だった。「あなたが以前Bという組織に所属していた頃に詳細分布調査し、出土した遺物がネットオークションに出品されている可能性がある。何か覚えていないか」ということだった。この「ネットオークション出品事件」は国民共有の財産である文化財の保管管理体制がどうなっているのかとSNSを賑わせた。その真相は、京都市内のとある工事中に出土した遺物を調査組織Cが文化財保護課に相談なく回収し、その後も無断で保管していたものの、組織Cが解散の憂き目にあい、遺物が流出、古物商によってネットオークションに出品された、というものであった。当該遺物の保管袋に書かれた日付と地点が奇しくも組織Bに所属していたアルバイトAが詳細分布調査をおこなった日付・地点と一致していたのである。因果関係は不明であるが疑われたAはその後体調を崩し入院した。なお、この遺物は文化財保護課が古物商から引き取り、適正な管理の下に置くこととなった。

事件の意味するものは何だったのだろうか。それは発掘調査組織に対する文化財保護課による管理不徹底をあげることができるだろう。Bという組織では過去の詳細分布調査出土遺物の管理が出来ておらず、さらに文化財保護課にその統括ができていなかった。また、Cという組織が勝手に遺物の回収・保管を行っていた事も把握できていなかった。

これらの状況が起こっている原因は、ひとえに人員の不足といえるだろう。人員の不足は調査体制、資料の管理体制、活用体制を機能不全に陥らせている。「文化首都京都」を自任する本市において、その文化的資質の裏付けとなり、都市の新たな魅力を掘り起こす潜在性を持った埋蔵文化財に対し、人員不足で管理不全に陥り、活用されないという状況は誠に由々しきことである。人員を確保し管理体制を強化して埋蔵文化財の保存・活用をもっと充実させ、名実ともに「文化首都」とならねばならない。

表1 令和6年の詳細分布調査件数

地 区	5年度1~3月	6年度4月~12月	小計	地 区	5年度1~3月	6年度4月~12月	小計
平安宮 (HQ)	18	40	58	洛東地区 (RT)	17	29	46
平安京左京 (HL)	27	58	85	伏見・醍醐地区 (FD)	10	27	37
平安京右京 (HR)	15	47	62	鳥羽地区 (TB)	5	18	23
太秦地区 (UZ)	14	23	37	長岡京地区 (NG)	11	12	23
洛北地区 (RH)	25	29	54	南桂川地区 (MK)	6	11	17
北白川地区 (KS)	10	26	36	京北地区 (UK)	1	0	1
				合 計	159	320	479

というわけで人員不足の中、今年も頑張って調査を行った。総件数は前年に比べて17件微増した(図1)。令和元年からの減少傾向が去年で底を打ったのかもしれない。地区ごとの増減では、平安京域では宮・左京・右京地区全てが減少(43件減)している。しかし、平安京外の南桂川地区を除く全ての地区で増加(81件増)がみられた。特に太秦地区だけで35件の増加がみられている。太秦地区は一大観光地である嵐山エリアを含み、かつては映画撮影所が軒を連ね、時代劇ロケ地の名所であった。観光開発が周縁地域にも及んできた可能性がある。

詳細分布調査によって検出できた遺構、遺物は多数ある。以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮(HQ)

平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡、二条城北遺跡の5遺跡で58件の調査を行った。

嶋左近の墓伝承地とされる大蔵庁跡の調査(24K109)では墓中央部の土坑に江戸時代の甕が据えられているのを確認した。右近衛府跡、鳳瑞遺跡の調査(23K546)で近世の土師器を含む土坑を検出した。内舎人跡、聚楽遺跡の調査(23K594)では近世と時期不明の遺物包含層を検出している。宴松原跡の調査(23K598)でも近世の遺物包含層を検出している。南所・西雅院跡の調査(24K298)では近世のピットを検出している。

②平安京左京(HL)

左京域では、平安京跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、京都新城跡、旧二条城跡、二条城北遺跡、高陽院跡、烏丸丸太町遺跡、二条殿御池城跡、烏丸御池遺跡、烏丸綾小路遺跡、妙覚寺城跡、三条

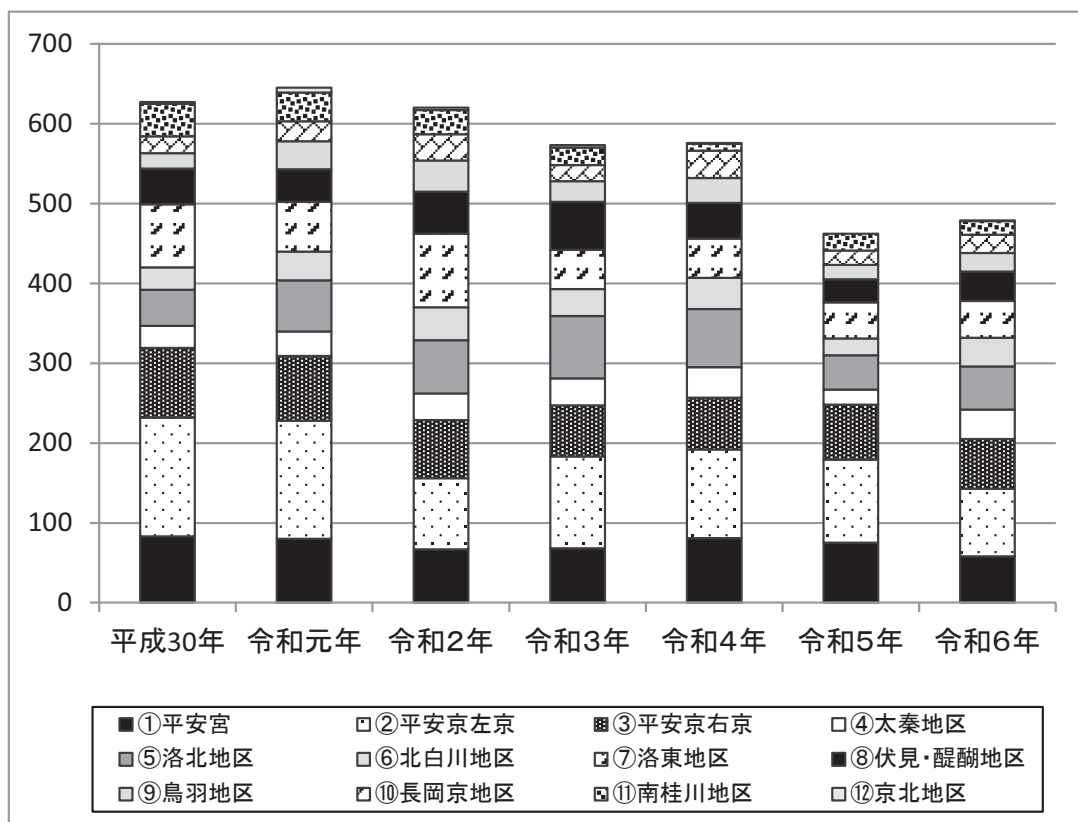


図1 詳細分布調査の年間件数推移

せと物や町遺跡、本隆寺の構え跡、妙満寺の構え跡、御土居跡、東本願寺前古墓群、烏丸町遺跡の18遺跡で85件の調査を行った。

五条一坊八町跡、本隆寺の構え跡の調査(23H522・23H548)で平安時代前期～鎌倉時代のピット群と平安時代中期～鎌倉時代の溝・土坑、五条二坊七町跡の調査(24H172)で平安時代の整地層と条坊関連遺構、六条三坊七町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(23H523)で平安時代中期～後期のピットを検出した。八条四坊九町跡の調査(24H078)では高瀬川護岸石垣の構築方法を解明したので、本書ではこれら5件の調査を報告する。

この他平安時代の遺構としては、四条一坊三町跡の調査(20H249)で中期の整地層を切って後期の土坑・ピット、六条二坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(23H389)では平安時代の土坑3基、八条二坊九町跡の調査(23H490)では末期～鎌倉時代の遺物包含層、九条三坊十五町跡、烏丸町遺跡の調査(23H514)では後期の土坑と末期～鎌倉時代の土坑を多数検出している。鎌倉時代の遺構は、五条四坊十一・十四町跡の調査(23H296)で遺物包含層、六条二坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(23H389)で整地層と多数の土坑を検出している。室町時代の遺構は、五条二坊八町跡、妙満寺の構え跡の調査(24H253)で整地層、六条二坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(23H389)で土坑、八条二坊九町跡の調査(23H490)では遺物包含層を検出している。江戸時代の遺構は、北辺四坊六町跡、二条四坊一町跡、公家町遺跡、烏丸丸太町遺跡の調査(23H483)で遺物包含層、四条四坊五町跡の調査(23H443)で土坑、五条三坊十二町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(24H059)と九条二坊八町跡の調査(24H189)では遺物包含層を検出した。

③平安京右京(HR)

右京域では、平安京跡、御土居跡、法金剛院境内、西ノ京遺跡、壬生遺跡、山ノ内遺跡、西院城跡(小泉城)、西院遺跡、堂ノ口町遺跡、西京極遺跡、衣田町遺跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡、羅城門跡の15遺跡で62件の調査を行った。

平安時代の遺構は、北辺二坊一町跡の調査(23H226)でピット、三条一坊五町跡の調査(23H438)で遺物包含層、五条三坊四町跡、六条三坊一町跡、西院遺跡の調査(23H589)と九条一坊十一町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の調査(5N064)では土坑を検出している。中世の遺構は、四条二坊五町跡、壬生遺跡の調査(23H448)と六条二坊四・五町跡の調査(24H064)では遺物包含層を検出した。

④太秦地区(UZ)

嵯峨遺跡、臨川寺境内、嵯峨折戸町遺跡、嵯峨北堀町遺跡、南野古墳群、上ノ段町遺跡、市指定史跡妙光寺境内、鳴滝藤ノ木町古墳、円乗寺跡、円宗寺跡、仁和寺院家跡、常盤柏ノ木古墳群、村ノ内町遺跡、常盤東ノ町古墳群、常盤仲之町遺跡、森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡、太秦馬塚町遺跡、広隆寺旧境内、西野町遺跡、嵯峨高田町遺跡の21遺跡で54件の調査を行った。

市指定史跡妙光寺境内の調査(23A010)では開山堂跡の後堂(印金堂)で新たに礎石1石を検出したので報告する。嵯峨高田町遺跡の調査(22S603)では試掘調査後の調査で古墳時代～飛鳥時代の土坑・ピットを検出したので試掘調査結果と共に『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』

に報告する。

広隆寺旧境内の調査（24S041）では平安時代以前のピットを検出した。常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内の調査（23S454）では時期不明であるが遺物包含層とピットを検出している。仁和寺院家跡の調査（23S515）では中世の遺物包含層を検出している。

⑤洛北地区（RH）

鞍馬山経塚群、大雲寺跡、岩倉忠在地遺跡、醍醐ノ森瓦窯跡、妙見堂遺跡、栗栖野瓦窯跡、植物園北遺跡、芝本瓦窯跡、松ヶ崎廃寺、今宮神社、大徳寺旧境内、御土居跡、大報恩寺境内、北野鳥居前遺跡、北野天満宮、北野製鉄遺跡、北野廃寺、北野遺跡、雲林院跡、寺ノ内旧域、上京遺跡、室町殿跡、上御霊遺跡、相国寺旧境内、公家町遺跡、寺町旧域の26遺跡で54件の調査を行った。

植物園北遺跡の調査（24S026）で弥生時代～古墳時代の竪穴建物の可能性をもつ土坑、室町殿跡、上京遺跡の調査（24S236）で室町時代遺物包含層とピットを検出したので2件を報告する。

妙見堂遺跡の調査（24A007）では3箇所平坦面を確認した。また付近には巨石が存在し磐座と考えられる。平安時代前期の遺物を確認している。相国寺旧境内の調査（23S397）では室町時代の遺物包含層を検出している。また、北野天満宮の調査（23S260）では御土居の構築土と考えられる堆積層や時期不明の土坑・溝を検出した。

⑥北白川地区（KS）

修学院雲母城跡隣接地（水飲遺跡）、一乗寺向畑町遺跡、一乗寺西浦畑町遺跡、一乗寺跡、上終町遺跡、北白川廃寺、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、如意寺跡、公家町遺跡、寺町旧域、法成寺跡の19遺跡と1遺跡隣接地で36件の調査を行った。

北白川廃寺の調査（24S135）では金堂の基壇盛土及び掘込地業を検出したので報告する。

北白川廃寺、上終町遺跡の調査（23S533）は発掘調査後の調査であるが、奈良時代の瓦を多量に含む溝や包含層を検出した。白河街区跡の調査（24S116）では室町時代の遺物包含層と南北方向の溝を検出した。修学院雲母城跡隣接地（水飲遺跡）の調査（23A006）では平坦面を確認、平安時代の遺物を採集しており、今後の更なる調査によって埋蔵文化財包蔵地として周知したい。

⑦洛東地区（RT）

寺町旧域、御土居跡、祇園遺跡、建仁寺旧境内、六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡、北花山遺跡、鳥部（辺）野、清閑寺境内、泉涌寺境内、本多山古墳群、法性寺跡、西野山遺跡群（西野山古墓）、人康親王山荘跡、四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡、山科本願寺南殿跡、中臣遺跡、中臣十三塚の21遺跡で46件の調査を行った。

寺町旧域の調査（24S054）で妙満寺の西境界と考えられる南北溝を検出したので報告する。

法住寺殿跡の調査（23S049）で平安時代後期の造成土を検出した。隣接する同じ法住寺殿跡の調査（23S581）では眞仁親王墓の石室の天井石と考えられる石材を検出した。この他、御土居跡、寺町旧域（23S508）では桃山時代～江戸時代初頭の遺物包含層を検出している。

⑧伏見・醍醐地区（FD）

伏見稲荷大社境内、稲荷山古墳群、稲荷山坊崖遺跡、深草坊町遺跡、安楽行院跡、貞観寺跡、がんぜんどう廃寺、谷口遺跡、伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、指月城跡、黄金塚1号墳、木幡ノ関跡、太閤堤、法界寺旧境内の15遺跡で37件の調査を行った。

伏見城跡の調査（23F424）では伏見城期以前の鎌倉時代～室町時代の遺物包含層を検出した。伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）の調査（24F200）で伏見城期の遺物を伴った造成土を検出している。

⑨鳥羽地区（TB）

唐橋遺跡、上鳥羽岩ノ本城跡隣接地、深草遺跡、西飯食町遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、久我殿遺跡、神川神社、久我東町遺跡、富ノ森城跡、淀城跡の10遺跡と1遺跡隣接地で23件の調査を行った。

鳥羽離宮跡の調査（24T274）で時期は不明であるが遺物包含層を検出している。上鳥羽岩ノ本城跡隣接地の調査（23S285）では鎌倉時代の遺物包含層を検出した。遺跡範囲外での遺物包含層の検出なので、今後遺跡の拡がりを考えなくてはならない。

⑩長岡京地区（NG）

長岡京跡、大藪遺跡、歴田遺跡、羽束師志水町遺跡、長黒遺跡、淀水垂下津町遺跡、與杼神社旧境内、水垂築山城跡、桂川関連遺跡、淀城跡、上里遺跡の11遺跡で23件の調査を行った。

左京二条四坊五・十二町跡の調査（24NG009）では弥生時代～古墳時代の遺物包含層、左京二条四坊十二町跡の調査（20NG084）では長岡京期の柱穴、右京一条三坊六・十一町跡、上里遺跡の調査（22NG662）で弥生時代以前の遺物包含層を検出している。

⑪南桂川地区（MK）

松室遺跡、山田車塚古墳、草嶋館跡、下津林遺跡、檜原遺跡、檜原廃寺跡、檜原廃寺瓦窯跡、史跡乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群、福西古墳群、中久世遺跡、大藪遺跡の13遺跡で17件の調査をおこなった。

下津林遺跡の調査（24S128）では試掘調査後の調査で弥生時代後期のピットや中世の溝を検出したので試掘調査結果と共に『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』に報告する。

⑫京北地区（UK）

周山城跡で1件の調査をおこなった。

（吉本 健吾・新田 和央）

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク 箱数	Cランク 箱数	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	30点 (1箱)	土師器 30点	1箱	4箱	6箱

Ⅱ-1 平安京左京五条一坊八町跡、 本隆寺の構え跡（23H522・23H548）

1. はじめに

本件は、中京区壬生賀陽御所町内で実施した詳細分布調査2件の報告である。調査地は四条通と壬生川通の交差点南西側で京福電気鉄道嵐山本線の南側に位置する。ともに南北に長い敷地で、南側が綾小路通に面する。「平安京跡」及び「本隆寺の構え跡」に該当し、平安京の復元では左京五条一坊八町跡の南半部に比定される。このうち調査地1（23H522）は町域の東半部に、調査地2（23H548）は西半部にあたる（図2）。

今回、調査地1及び調査地2において共同住宅建設が計画されたため、それぞれ詳細分布調査を実施した。以下、調査対象地の歴史的環境を整理した後、各担当者より章を変えて調査成果を報告する。なお本文の執筆は、「3 調査成果1（23H522）」を八軒が、他を黒須が担当した。

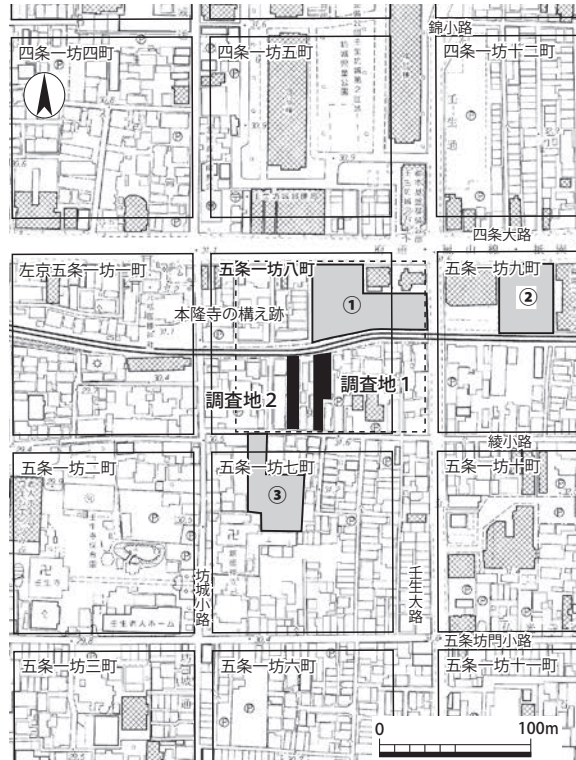


図2 調査位置図（1：5,000）

2. 遺跡

歴史的環境

この町域では、平安時代に遡る地歴は確認できていない。ただし、仁安元年（1166）に町内が焼亡したとする記事があることから、複数の建物が存在していたとみられる（『清辨眼抄』¹⁾）。

室町時代になると、法華宗総本山である本隆寺が建立されたとされる（『中昔京師絵図』（1467～1592）²⁾）。本隆寺（現在は上京区紋屋町に所在）の寺伝によると、開山の祖である僧日真は、はじめ妙顕寺の日具に師事したが、法華宗の解釈について論争があり、妙顕寺を出寺した。長享2年（1488）、四条大宮（当地）に本隆寺を開き、やがて後柏原天皇などの支援を得て隆盛した。しかし、天文5年（1536）におこった法難（天文法華の乱）によって伽藍は焼失し、僧らは堺へと避難した。天文11年（1542）、後奈良天皇が法華宗帰洛の綸旨を下したことから、本隆寺は上京に寺地を得ることが適い、現在地へ移転したとされる。

他方、江戸時代の当地には、徳川家譜代大名である永井直勝が京屋敷を置いた（『元禄九年京都大絵図』（1696）³⁾、『京図名所鑑』（1778）⁴⁾など）。永井家の屋敷は19世紀前半まで存続し、

後に藤堂家へ所有が移る（『洛中洛外町々大成細見絵図』（1864）⁵⁾。明治維新後、永井氏、藤堂氏はそれぞれ華族として継続したが、京屋敷は消滅した。以後、町内には寺地としての記録が残るのみとなった。

周辺の既往調査

当町内では、京福本線を隔てた北東で1996年度に試掘調査が行われており、GL-1.5 mの深度において中世～近世の柱穴と土坑が確認されている（図2①）⁶⁾。また、壬生大路を隔てた東側の町域では1980年度に発掘調査が行われ、GL-0.7 mの深度において、平安時代後期～江戸時代の遺構面が確認された（同②）⁷⁾。このうち特筆されるのは室町時代後期の大型遺構で、南北方向に通る大型溝や石垣を備える屈曲溝が発見されている。これらの遺構は、『晴富宿禰記』文明10年（1498）1月14日条に見られる「壬生構」に相当すると考えられ、本隆寺に隣接した立本寺の構えの一部と推定されている。このほか、綾小路通を隔てた南の五条一坊七町内で2003年度に行われた試掘調査では、GL-0.6～0.7 mで中世整地層が、-0.8～-0.9 mで中世遺構面（地山上面）が確認されている（同③）⁸⁾。江戸時代以後の削平を広く受けていたことから本調査は実施されなかったものの、遺構面の目安を知ることができる。

3. 調査成果 1（23H522）

調査は、令和6年5月23日から6月5日までで、掘削状況に応じてNo.1～5地点で実施した（図4）。No.1～4地点の層序はGL-0.74～-1.13 mで黄橙色粘質土の地山、No.5地点の層序は-0.65 mで黒褐色砂礫、-1.17 mで明黄褐色シルトの地山となる。地山は安定した地盤であった。No.2地点の地山上面で面的に調査を行い、溝1条と土坑6基を確認した（図3・5）。以下、主要なものについて説明する。

SD 1は、検出長3.6 m以上、幅0.5 mの東西方向の溝で、埋土は暗灰黄色礫混じり粘質土である。西側へ続き、東側は調査区外へ延びていく。平安時代



図3 23H522 No.2地点全景（南東から）

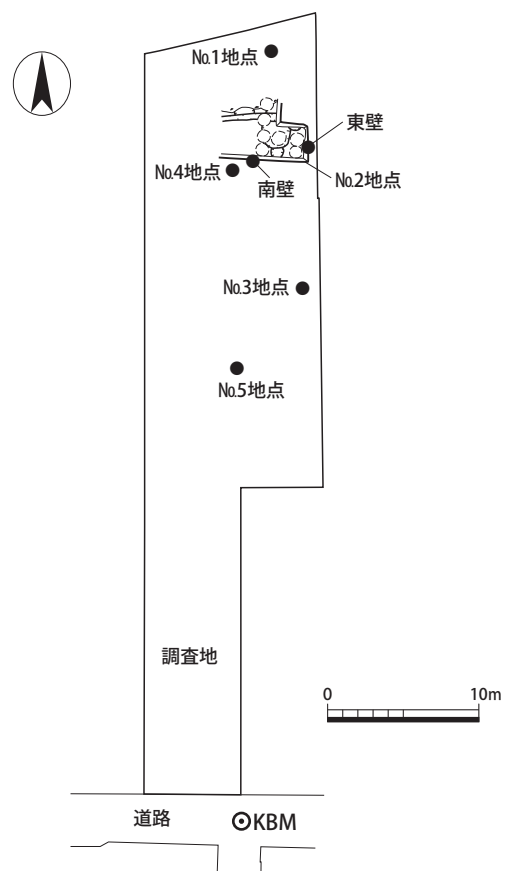
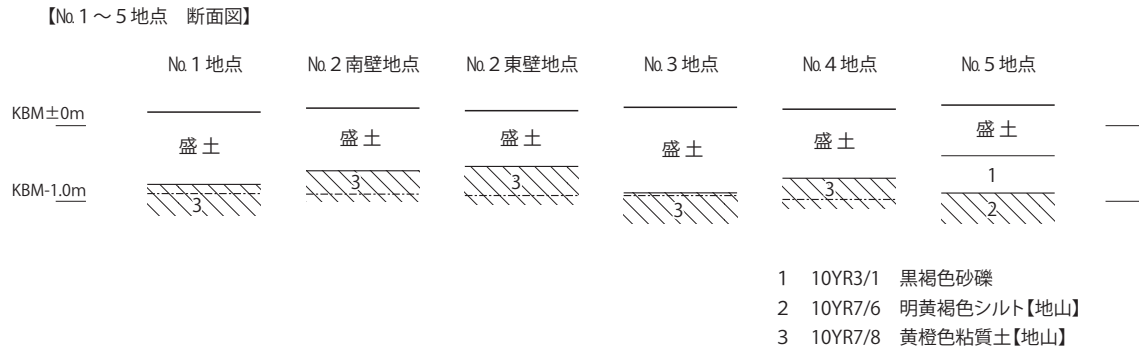


図4 23H522 調査区配置図（1：500）



【No.2地点 平面図】

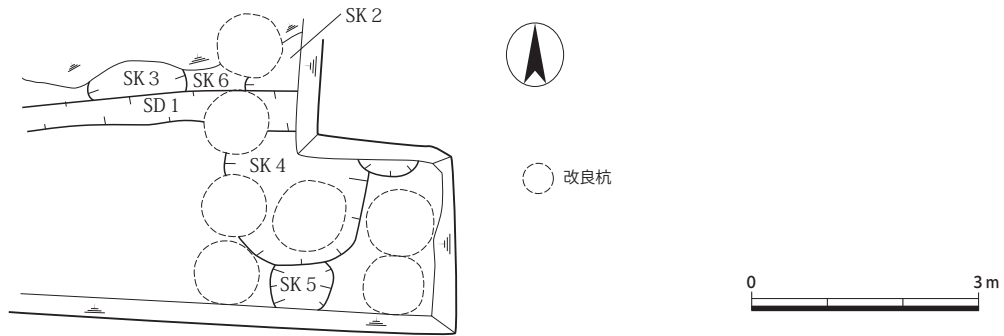


図5 23H522 調査区平面図・断面図（1：100）

後期から鎌倉時代の土師器や青磁が出土した。SK 2は、東西0.7 m以上、南北0.8 m以上の土坑で、SD 1に切られている。埋土は黄灰色砂質土である。平安時代中期～後期の土師器が出土した。SK 3は、東西1.3 m、南北0.6 m以上の土坑で、SD 1に切られている。埋土は灰色礫混じり砂質土である。SK 4は、東西1.90 m、南北1.85 m以上の円形土坑で、埋土は黄灰色粘質土である。SK 5は、東西0.9 m、南北0.6 m以上の円形土坑で、埋土は黒褐色粘質土で炭を含んでいる。SK 6は、SD 1及びSK 3・4に切られているため全体像は不明であるが、SK 3から平安時代中期～後期の土師器や青磁が出土していることから、それ以前の土坑であると考えられる。埋土は黄灰色粘質土である。

この調査で遺物は、SD 1から平安時代後期～鎌倉時代の土師器片、SK 2から平安時代中期～後期の土師器皿や青磁が出土したが、全て細片であり図化に耐えうるものはなかった。

4. 調査成果2（23H548）

調査は、令和6年4月4日から10日まで実施した。調査対象面積は193.46 m²であるが、既存建物の解体攪乱が著しく、遺構面を確認したのは建物計画範囲の北端と東辺の一部にとどまる（図6）。以下、調査地点ごとに報告する。

No.1地点

北壁と東壁の断面観察と遺構面の平面検出を行った（図7～9）。北壁断面では、GL-0.4 mで黒褐色粗砂混じりシルトに暗褐色シルトブロックが混じる近世堆積層（図9-1層）、-0.7 mで黒褐色粗砂混じりシルトに黄褐色細砂混じり粘土質シルト（地山）ブロックが混じる近世前期包含層（同

3層)、-0.9 mで黄褐色細砂混じり粘土質シルトの地山(同9層)となる。この地山上面では、溝やピット等の遺構が成立する(後述)。なお、調査区東辺では地山上面がやや高く、その上位にはにぶい黄褐色の砂礫層(同7層)が堆積する。地山ではないが、無遺物層であることから、遺構面基盤層の一部として認識した。近世堆積層(同1層)からは平瓦が、近世前期包含層(同3層)からは肥前焼椀、瀬戸美濃焼皿、青磁椀、備前焼甕等の陶磁器片が多量に出土した。

東壁断面では、GL-0.6 mでオリーブ褐色微砂混じりシルトに暗灰黄色シルトブロックが混じる整地層(同8層)、-0.75 mで黄褐色細砂混じり粘土質シルトの地山を確認した。地山上面で遺構検出を行ったところ、溝2条とピット1基を検出した。

ピット1は調査区北西隅で検出した遺構で、平面形状は一辺0.7 mの隅丸方形を呈する。埋土は暗褐色粗砂混じりシルトを主体とする。遺構内から土師器の細片及び炭化物が少量出土した。

溝2はNo.1地点の中央で確認した南北方向にのびる遺構である。検出長1.5 m、最大幅は2.35 mを測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とし、褐灰色シルトブロックが混じる。遺構内からは、須恵器杯B、土師器甕、椀の小片が出土した。平安時代前期の遺構である。直線的にのびる形状から区画溝の可能性が高いが、四行八門の区画には該当しない。

溝3はNo.1地点の北辺を東西方向にのびる遺構で、溝2に切られる関係にある。埋土は暗褐色粗砂混じりシルトを主体とする。遺構の性格は不明であるが、調査区西壁までは続かず、調査区内で南方向へ屈曲するものと見られる。遺構内から遺物の出土は確認できなかった。

なお、遺構面検出時に、ての字状口縁をもつ土師器皿(11～12世紀)の破片が出土した。

No.2地点

調査区中央東壁で確認した土層断面である(図10左)。GL-0.5

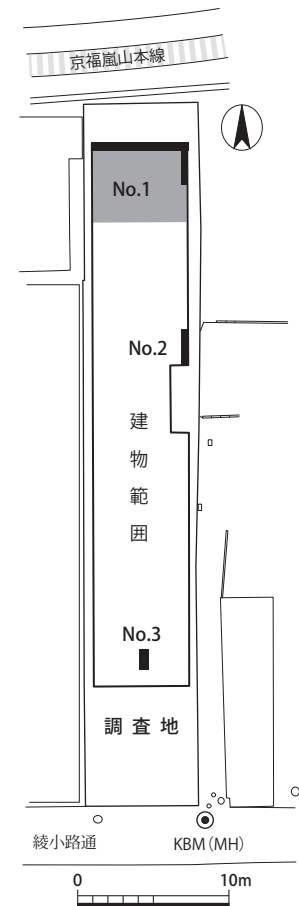


図6 23H548 調査区配置図 (1:500)

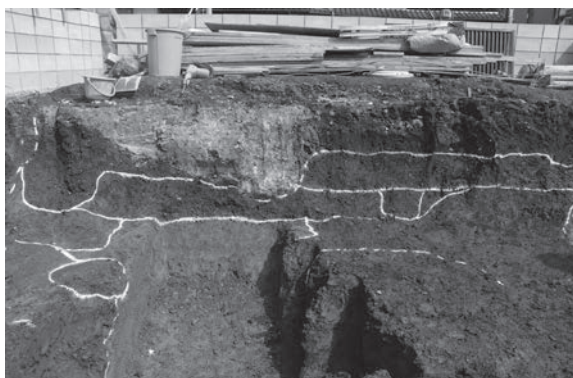


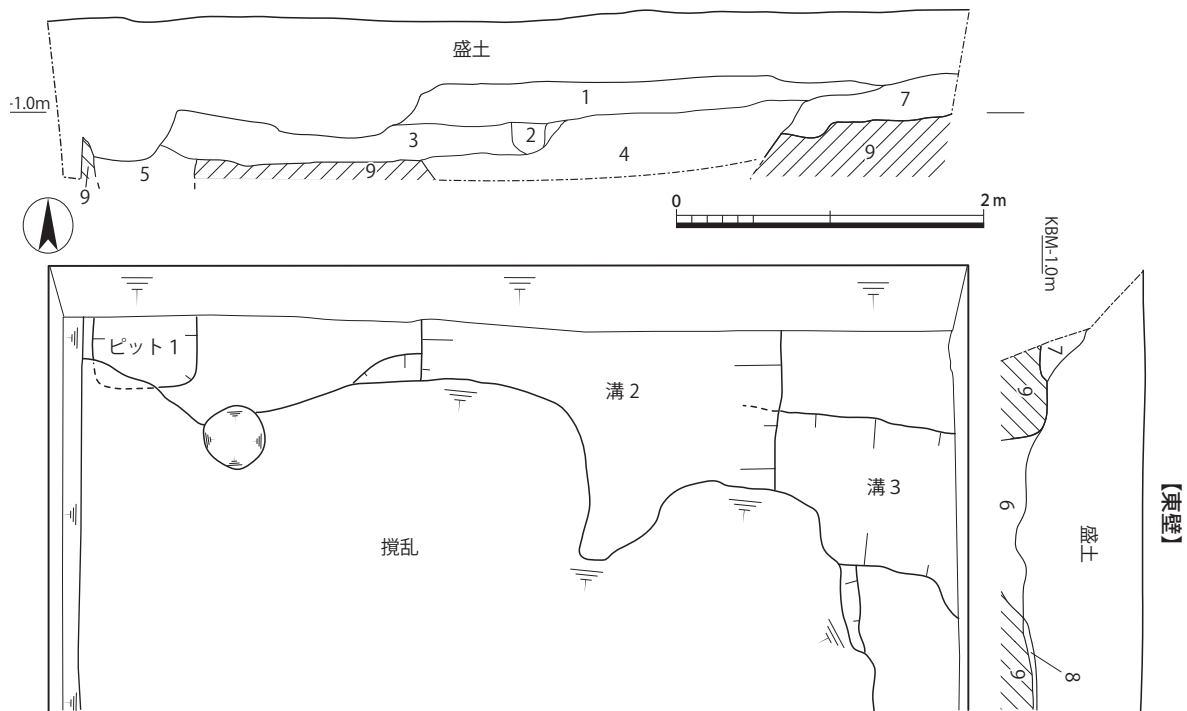
図7 23H548 No.1地点北壁断面(南から)



図8 23H548 No.1地点東壁断面(西から)

KBM±0m

【北壁】

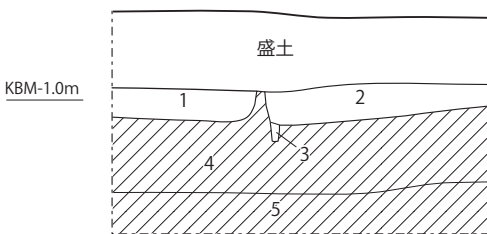


- 1 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR3/3 暗褐色シルトブロック 30% 程度入る (炭化物少量入る、径 2cm 未満の礫多量入る、締まり悪い) 【近世堆積層】
- 2 10YR3/1 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック 10% 程度入る (径 1cm 未満の礫少量入る、やや軟質) 【近世ピット】
- 3 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR5/8 黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック 2% 程度入る (径 1cm 未満の礫少量入る、土器片・炭化物入る、やや締まり悪い) 【近世前期包含層】
- 4 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルトに 10YR4/1 褐灰色シルトブロック 30% 程度入る (土器片多量入る、やや締まり悪い) 【溝】
- 5 10YR3/3 暗褐色細砂混じりシルトに 10YR5/8 黄褐色細砂混じり粘土質シルトブロック 10% 程度入る (土器片・炭化物入る、径 1cm 未満の礫少量入る)
- 6 10YR2/3 暗褐色粗砂混じりシルトに 10YR2/1 黒色シルトブロック 10% 程度入る (径 2cm 未満の礫少量入る、やや締まり悪い)
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂～砂礫 (径 2cm 未満の礫多量入る、締まり悪い) 【無遺物層】
- 8 2.5Y4/3 オリーブ褐色微砂混じりシルトに 2.5Y4/2 暗灰黄色シルトブロック 30% 程度入る (土器細片・炭化物入る) 【整地層】
- 9 10YR5/8 黄褐色細砂混じり粘土質シルト 【地山】

図9 23H548 No.1 地点平面図・断面図 (1:50)

KBM±0m

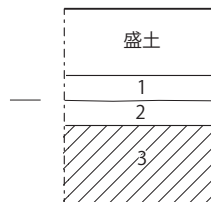
【No.2地点東壁】



- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂 土師器細片入る 【土坑】
- 2 10YR5/2 灰黄褐色泥砂 土師器細片入る 【土坑】
- 3 10YR5/1 褐灰色粘土 【ピット】
- 4 10YR5/6 黄褐色シルト 【地山】
- 5 10YR5/1 褐灰色粗砂 【地山】

【No.3地点西壁】

KBM±0m



- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 【近世堆積層】
- 2 10YR4/1 褐灰色砂質土 【近世堆積層】
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粗砂 【地山】



図10 23H548 No.2・3 地点断面図 (1:50)

mで、既に黄褐色シルトを主体とする地山に達する。地山上面では土坑を2基確認した。また土坑に切られる小ピットも確認した。土坑内からは土師器皿（12～13世紀）の細片がまとまって出土した。

No.3 地点

調査区の南辺中央で確認した土層断面である（図10右）。GL-0.42 mで黒褐色シルトの近世堆積層、-0.6 mで褐灰色砂質土の近世堆積層、-0.75 mで灰黄褐色粗砂の地山となる。No.1地点と比べて20cm程度、地山上面のレベルが低い。遺物の出土は確認できなかった。

5. まとめ

以上、左京五条一坊八町跡における詳細分布調査2件の成果を報告した。

今回の調査では、ごく限られた範囲ながら一定の調査成果を得ることができた。町域の東半部で実施した調査1では、平安時代中期から鎌倉時代の土坑や溝などを確認することができた。また西半部で実施した調査2では、平安時代前期に遡る溝、ピット等の遺構のほか、近世前期の包含層を確認した。この町域ではこれまで本調査が行われておらず、当該地域の成立を明らかにする上で希少な情報となろう。

なお、今回の調査では、室町時代に建立された本隆寺の存在を直接示す資料は確認できなかったものの、その後続く近世前期の包含層より多数の遺物を得た。古地図が示すとおり、この町域に大名屋敷が存在したことを示唆する資料として評価できる。

（黒須亜希子・八軒かほり）

註

- 1) 池田正一郎 2004年 『日本災変通史』 新人物往来社
- 2)～5) 国際日本文化研究センター 所蔵地図データベース <http://lapis.nichibun.ac.jp> 2024年12月6日現在
- 6) 京都市文化市民局 1998年「表3 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』
- 7) 京都市文化市民局 2021年「VI 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』
- 8) (財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年「22 平安京左京五条一坊九町」『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和55年度』

II - 2 平安京左京五条二坊七町跡 (24H172)

1. 調査の経緯

本件は、共同住宅建設に伴う詳細分布調査である。調査地は下京区妙満寺町に所在する。平安京左京五条二坊七町跡に該当し、敷地北側で綾小路南築地が想定されている。同町では試掘・発掘調査の履歴はなく、複数回の立会調査が行われているのみである。隣接町に目を向けると、二町で行われた立会調査（調査1）では平安時代中期から室町時代の遺構群を¹⁾、八町で行われた立会調査（調査2）では平安時代後期頃の井戸が検出されている²⁾。

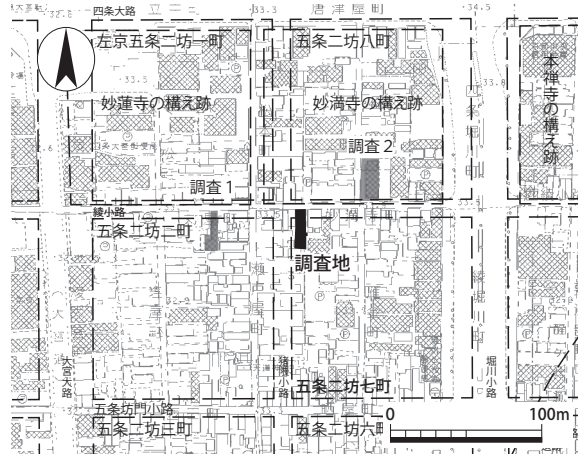


図 11 調査位置図 (1 : 5,000)

調査は、令和6年9月18日から10月2日まで行った。

2. 遺跡

調査は、土留工事時 (No.1・2)、本体工事時 (No.3~5) の大きく2回に分けて行った。No.1ではGL-0.3mでオリーブ褐色砂泥の中世包含層、-0.53mで黄灰色砂泥、-0.93mで黒褐色砂泥が堆積する。同様の層序はNo.2でも確認しているが、これらの層序はNo.3~5では近現代に攪乱されていた。No.3ではGL-1.05mで褐色砂泥の整地土①、-1.38mで黄褐色シルトの整地土②を、No.5では-1.74mで黄橙色粗砂混じり粘質土の地山を確認している。No.3で整地土①・②を、No.5で整地土②を切り込んで成立する遺構を検出した。

溝1 No.3で検出した。綾小路南築地想定ラインから3m南側に位置する。直上まで近現代に攪乱されているが、検出状況から整地土①を切り込んで成立するものと判断した。検出した深さは0.3m、幅1.3mを測る。断面形は緩やかなU字形を呈する。埋土は黒褐色粘性中砂の単層で、平安時代後期の土師器皿が出土した。

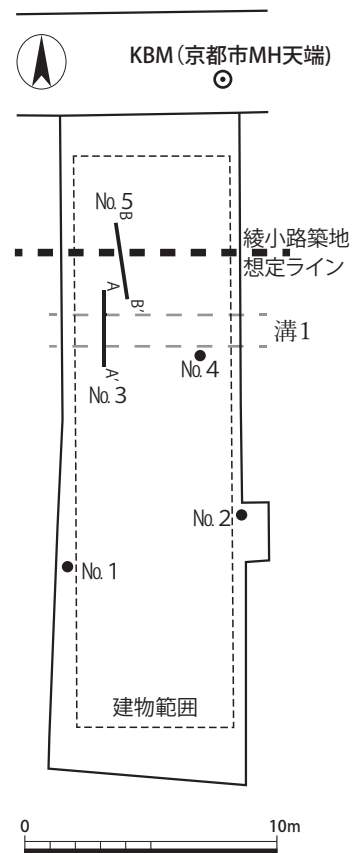


図 12 調査区配置図 (1 : 300)

3. 出土遺物

整地土② 1・2は土師器皿Nである。いずれも口縁部のみが

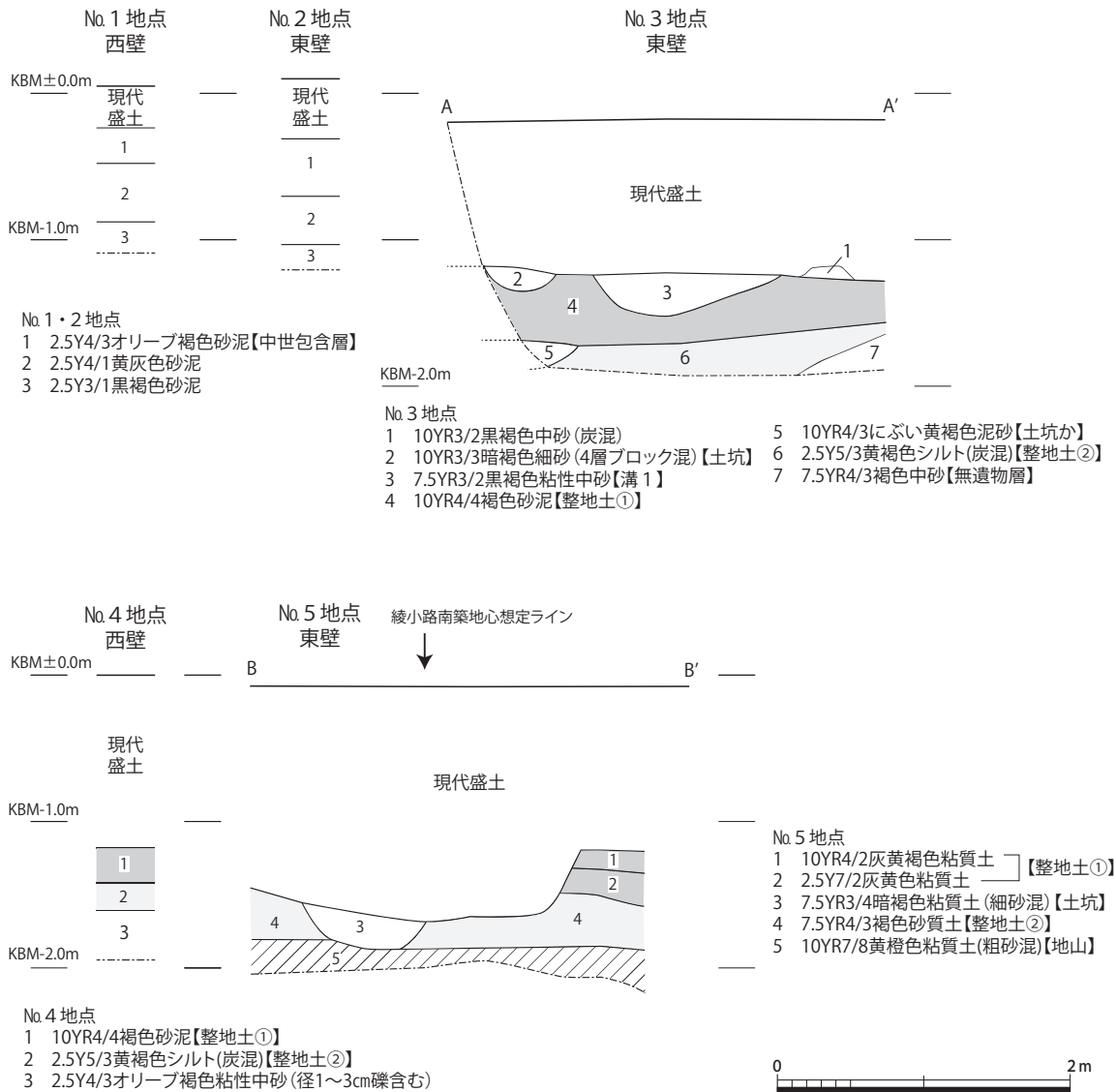


図13 調査区断面図(1:50)

のこる。1は器高3.0cm、2は器高2.3cmを測る。4～5段階の特徴を持つ。平安時代中～後期頃の製品か。

整地土① 3～5は土師器皿Nである。5は口径9.5cm、器高1.7cmを測る。6は土師器皿Acである。口縁部のみがのこる。器高1.4cmを測る。5段階の特徴を持ち、平安時代後期に属する。

溝1 7～14は土師器皿Nである。7～12は口径9.6～10.2cm、器高1.4～1.9cmを測る。7・8は完形でのこる。いずれも体部に横ナデを施した後、口縁端部に横ナデを施す。7・8・11は2度目の横ナデが内面下半



図14 溝1検出状況(No.3地点、南西から)

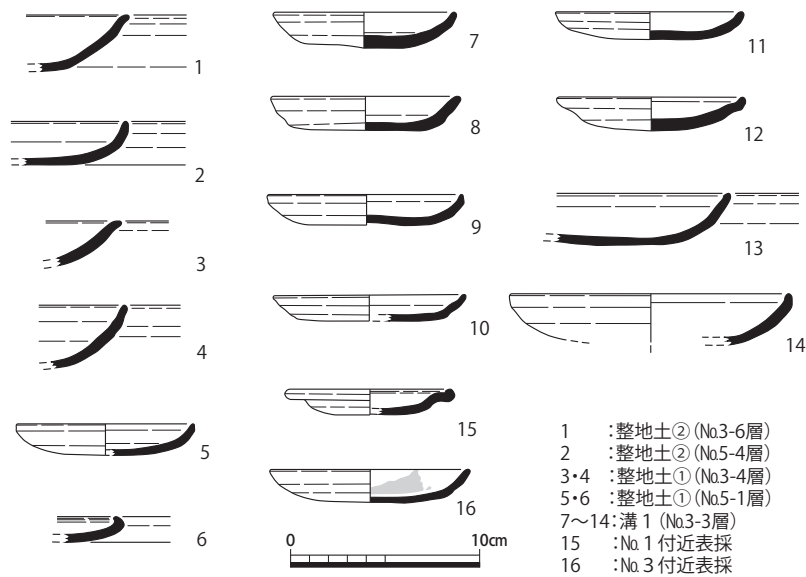


図 15 出土遺物実測図 (1 : 4)

にまで達する。14 は口径 15.0 cm、器高 2.7 cm を測る。13 も同様の規格とみられる。5 段階の特徴を持ち、平安時代後期に属する。

表採 15 は土師器皿 A である。口径 9.0 cm、器高 1.4 cm を測る。口縁端部を丸くすぼめるように横ナデを施す。平安時代中期に属する。16 は完形の土師器皿 N である。口径 10.5 cm、器高 1.75 cm を測る。内面に煤が付着する。平安時代後期に属する。

4. まとめ

本調査では、平安時代中～後期と平安時代後期の整地土及び、それぞれを切り込んで成立する遺構を検出した。溝 1 は平面検出に至らず断面観察に留まるが、断面形と検出位置の関係から、綾小路南築地内溝の可能性を指摘できる。溝 1 からは平安時代後期の土師器皿が出土した。今調査の大きな成果は、時期の確定できる条坊関連の遺構を確認できたことである。ただ、今調査地では比較的短時間で複数回の整地が行われている。さらに、溝 1 と整地土①は出土遺物から時期差が殆ど見られないことから、溝 1 が開削されてから短時間で埋没している状況が推定できる。調査事例の少ない左京五条二坊七町における土地利用のあり方を考えるうえで、重要な成果と位置付けられる。今後、周辺の調査事例の増加を期待したい。

(佐藤 拓)

註

- 1) 長戸満男「2 平安京左京五条二坊二町 (96HL145)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 8 年度』京都市文化市民局、1997 年
- 2) 吉村正親「5 左京五条二坊八町 (93HL39)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成 5 年度』京都市文化観光局、1994 年

Ⅱ - 3 平安京左京六条三坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡 (23H523)

1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、五条通と新町通の交差点北東に位置する（図 16）。平安京の条坊復元では左京六条三坊七町跡の南西角に相当し、敷地の西辺は町尻小路に、南辺は六条坊門小路にかかる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

工事掘削は、対象地の周囲に簡易土留めを設置しながら GL-3.08 m まで総掘りを行う工法で進められた。調査はその施工中に現地を確認する方法で行い、計 5 地点において断面観察を実施した。本文ではその成果を報告するとともに、これまで当該町域において行われた調査成果との関連について記述する。

2. 周辺の歴史的環境

平安時代中期、この町域には村上天皇の第七皇子である中務卿具平親王の邸宅「千種殿」の別棟が存在した（千種殿は西側の三坊二町内に所在）。親王亡き後、大江匡房が千種殿の西半部を購入して「江家文庫」を設立したが、仁平 3 年（1153）におこった火災により焼失した。火災は左京六条三坊全域を焼き尽くすほどの大規模なものであったという（『兵範記』『本朝世紀』）。1991 年度に同町内で行われた発掘調査（図 16 ①）では 12 世紀の火災処理土坑が検出されており、この火災に関連する遺構であると推測されている。

また室町時代には、町域東の室町小路が幹線道路として発達し、当町域は商工業の町「下京」の一部として栄えた。図 1 ①の調査では 15 世紀後葉～ 16 世紀初頭に使用された鑄造関係遺物が出土しており、当地に手工業者が居住した可能性が示されている。

このほか、2000 年度に調査地の東隣で実施した詳細分布調査（図 16 ②）では、五条通に

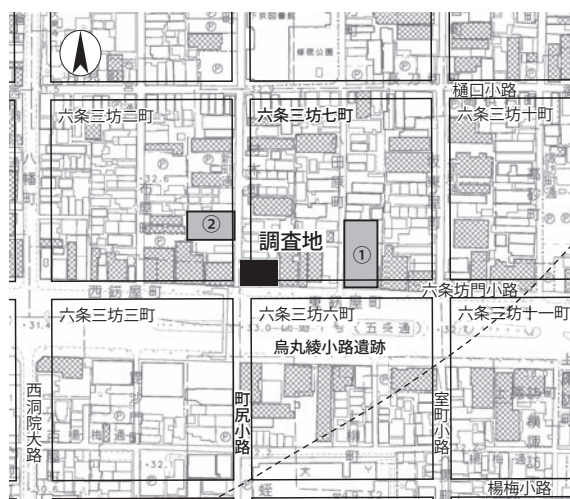


図 16 調査位置図 (1 : 5,000)

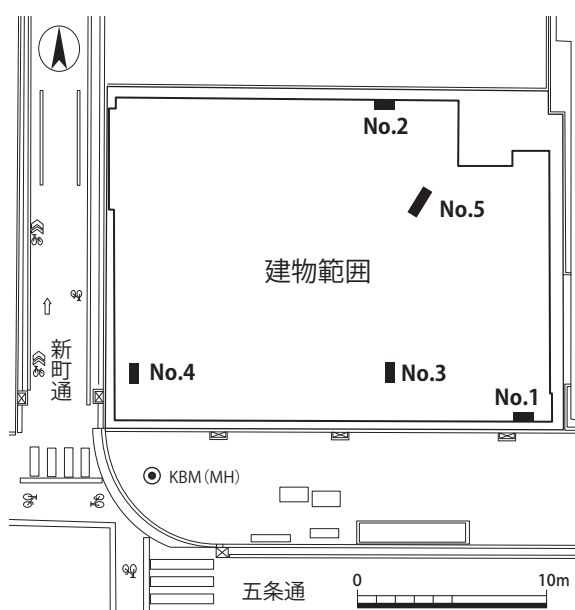


図 17 調査区配置図 (1 : 400)

近い敷地南辺において平安時代中期～室町時代の東西溝が検出されており、六条坊門小路の北側溝として報告されている。

3. 調査成果

調査は、令和6年4月15日から6月20日まで実施した。調査対象地の地表面はほぼ平坦で、南に向かってわずかに傾斜する。今回の調査では計5箇所で断面観察を行った（No.1～5）。

No.1～4地点では既存建物の解体攪乱が地山以深まで及んでおり、盛土以下、シルト質の無遺物層や細砂や砂礫を主体とする氾濫堆積となる（図20）。No.1地点ではKBM-1.36mで灰色シルト～細砂、-1.56mでにぶい黄褐色細砂～中砂を確認した。No.2地点ではKBM-1.0mまで盛土を確認したにとどまる（図示は省略）。No.3地点ではKBM-1.92mでにぶい黄色細砂、-2.48m～2.76mで灰黄褐色砂礫を確認した。No.4地点では-1.62mで明黄褐色細砂、-1.94～-2.14mで浅黄色粘質土を確認した。



図18 No.5地点断面（北西から）

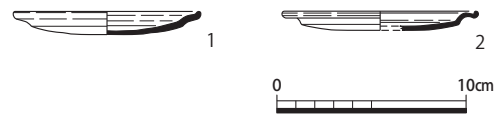


図19 出土遺物実測図（1：4）

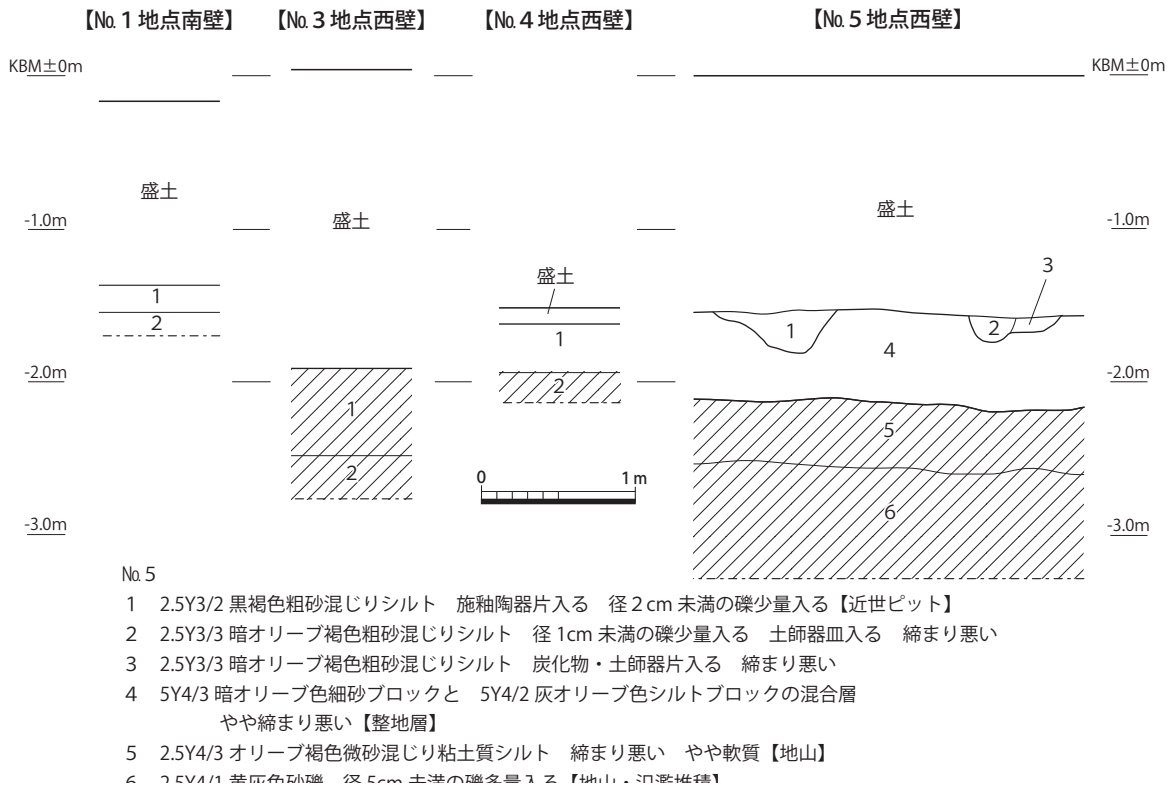


図20 調査区断面図（1：50）

一方、対象地の東側中央付近にあたるNo.5地点では、平安時代後期の遺構面とこれ以前に遡る整地層の残存を検出した(図18・20)。KBM-1.54 mで暗オリーブ色細砂ブロックと灰オリーブ色シルトブロックの混合層を主体とする整地層、-0.7 mでオリーブ褐色微砂混じり粘土質シルトの基盤層、-0.87 ~ -1.17 mで黄灰色砂礫の氾濫堆積となる。整地層の上面では、ピットを2基検出した。本来ならば、この遺構を覆う包含層が存在したと推測されるが、すべて削平されていた。

検出したピットからは土師器が2点出土した(図19)。ともに口縁部を断面「て」字状にする製品である。1は、端部を上方へゆるくつまみあげる。2は強いナデを施した後、口縁端部を丸く作る。10世紀末~11世紀初頭の製品である。

4. まとめ

以上、左京六条三坊七町跡における詳細分布調査の成果を報告した。

これまでに左京六条三坊七町内では、計4件の試掘調査・発掘調査が実施されており、施工時に行った詳細分布調査は今回の調査を含めて20回以上を数える。これらの調査成果のうち、町域復元の指標となるのは、町域の南を通る六条坊門小路とその北側溝の検出位置である。(図21)。

調査①の報文では、六条坊門小路の路面と北側溝と目される溝状遺構が、平安時代中期、同後期、鎌倉時代、室町時代前期、同後期の5時期にわたって検出されている。北側溝は時代とともに北へ移動しており、これに伴い小路路面も北へ広がる傾向にある。平安時代後期~室町時代前期の北側溝はほぼ同位置を保つが、室町時代後期には大きく北へ動くようである。調査②でも同じく、室町時代後半に従来の側溝を埋めて路面を拡張したことが確認されている。

他方、調査③・④では、平安時代後期と推定される側溝がより北側で検出されており、調査①・②とは約1 mの開きがある。また今回の調査のNo.3トレンチも側溝推定ライン上にあるが、特に遺

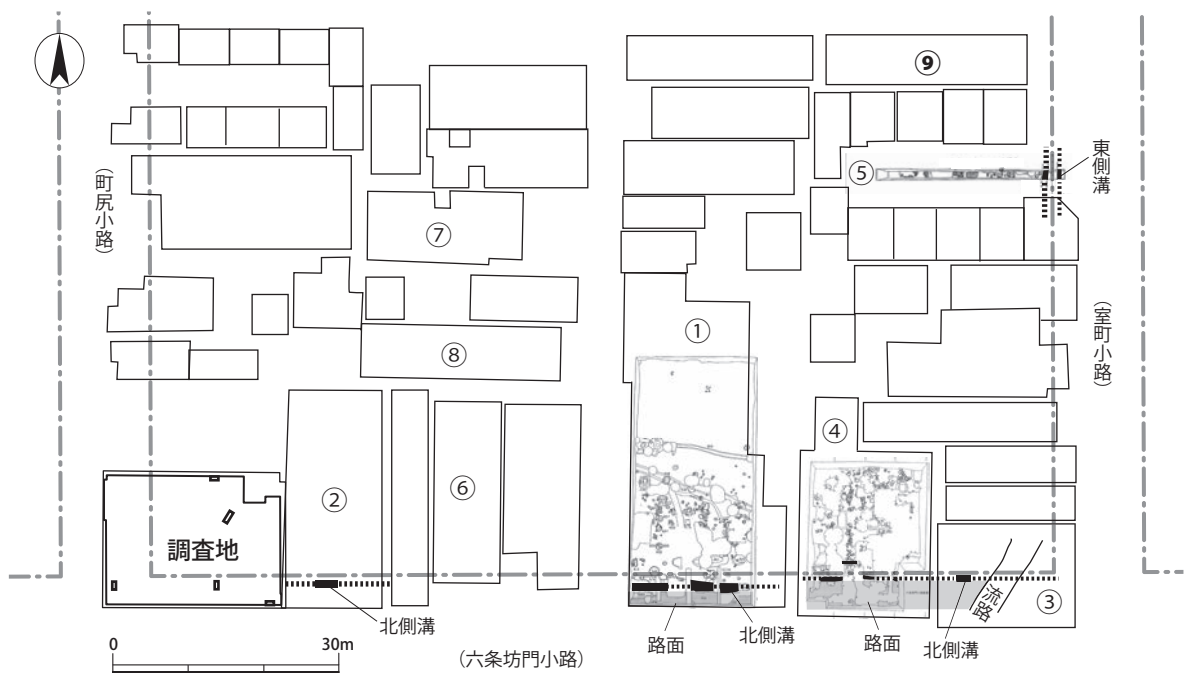


図21 町内の既往の調査(1:1,000)

表3 平安京左京六条三坊七町跡調査一覧

No.	調査種類	所在地	遺構・出土遺物	調査機関	文献	市番号
①	試掘発掘	下京区室町と新町の間の通五条上る小田原町 244	GL-07m で江戸時代整地層、-0.9 m で平安時代～室町時代の六条坊門小路北側溝と路面、柱穴、井戸。	埋文研	京都市文化市民局 1992 埋蔵文化財研究所 1994	91H277
②	立会	下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 他	GL-1.56 m で平安時代中期の六条坊門小路北側溝、室町時代中～後期の土坑、溝、路面。	埋文研	京都市文化市民局 2002	00H530
③	立会	下京区室町通五条上る坂東屋町 285、東鋸屋町 189	GL-1.23 m で平安時代後期の六条坊門小路北側溝。	埋文研	京都市文化市民局 1994	93H393
④	試掘発掘	下京区五条通室町西入東鋸屋町 186	GL-0.9 ～ 1.0m で平安時代～室町時代の六条坊門小路と路面、-1.3 m で平安時代の井戸、柱穴、土坑。	埋文研 文博	京都市文化市民局 1991 京都文化博物館 1995	89H703
⑤	試掘	下京区室町通五条上る坂東屋町 270 他	GL-1.1 m で室町時代中期の土器埋納遺構、室町時代後期の室町小路側溝、宅地内内溝、土坑墓2基、ピット。	埋文研	京都市文化市民局 2002	01H145
⑥	試掘	下京区五条通新町東入東鋸屋町 173	GL-1.1 m で鎌倉～室町時代の土坑7基、ピット7基。	埋文研	京都市文化観光局 1982	80H694
⑦	立会	下京区室町通五条上る坂東屋町 267	GL-1.65 m で古墳時代の包含層。	埋文研	京都市文化市民局 1988	86H1088
⑧	詳細分布	下京区新町通五条上る小田原町 240	GL-1.5 m で時期不明土坑、-1.6 m で鎌倉時代土坑、-1.7 m で時期不明土坑2基、弥生時代包含層。	京都市	京都市文化市民局 2018	17H440
⑨	立会	下京区室町通五条上る坂東屋町 269	GL-0.25 m で平安時代後期～江戸時代包含層、GL-1.5 m で弥生時代包含層。	埋文研	京都市文化市民局 1988	87H518
⑩	立会	下京区室町と新町の間の通五条上る小田原町 234	GL-1.25 m で平安～室町時代の包含層。	埋文研	京都市文化市民局 1995	93H661

埋文研…(財)京都市埋蔵文化財研究所・(公財)京都市埋蔵文化財研究所
 文博…京都府京都文化博物館 京都市…京都市文化市民局文化財保護課

構は確認できなかった。側溝の時期的変遷と形状の理解には、今後とも継続的な情報収集が必要であろう。

開発が多い平安京左京域では、施工時立会による詳細分布調査が多数実施されており、点的な情報が日々蓄積されている。これらを面的情報へと昇華させることは、今後の課題といえよう。

(黒須亜希子)

引用文献

調査①：京都文化博物館 1995 『平安京左京六条三坊七町 京都市下京区小田原町・東鋸屋町』京都文化博物館調査研究報告 第11集

調査②：京都市文化市民局 2002 「4 平安京左京六条三坊七町、烏丸綾小路遺跡」『京都市内遺跡立会調査報告 平成13年度』

調査③：京都市文化市民局 1994 「7 左京六条三坊七町跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』

調査④：(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994 「12 平安京左京六条三坊2」『京都市埋蔵文化財調査概要』平成2年度

調査⑤：京都市文化市民局 2002 「Ⅲ-4 平安京左京六条三坊七町跡」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成13年度』

調査⑥：京都市文化観光局 1982 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和56年度』

調査⑦：京都市文化市民局 1988 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』

調査⑧：京都市文化市民局 2018 「Ⅵ調査一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』

調査⑨：京都市文化市民局 1988 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』

Ⅱ - 4 平安京左京八条四坊九町跡 (24H078)

1. 調査の経緯 (図22・29)

本件は、下京区上之町他地内において実施した高瀬川改修工事に伴う調査である。工事対象地は、平安京左京八条四坊九町跡に含まれるが、当町の平安時代の占有状況は不明である。

また、工事対象である「高瀬川」は、慶長16年(1611)に角倉了以が幕府に申請し、翌年から了以の子の素庵によって着工され、慶長19年(1614)に伏見まで開通した舟運運河である¹⁾。高瀬川舟運の最盛期は幕末から明治時代前期であるが、早くも明治10年(1877)に官設鉄道の七条停車場完成により高瀬川の付け替えがあり、大正元年(1912)には七条内浜が埋め立てられている²⁾。明治10年の付け替えについては、明治25年、大正元年の地図に反映されておらず、大正11年の都市計画図にはじめて現れるため、計画年度と実施年度の差の可能性がある。明治27年(1894)の鴨川運河の完成や、翌28年の京都電気鉄道木屋町線の軌道敷拡張工事などにより、舟運機能が低下し、大正9年(1920)6月についに舟運が廃止された。しかし、高瀬川は京都市街地における貴重な水辺空間・景観要素として現在でも機能し続けている。

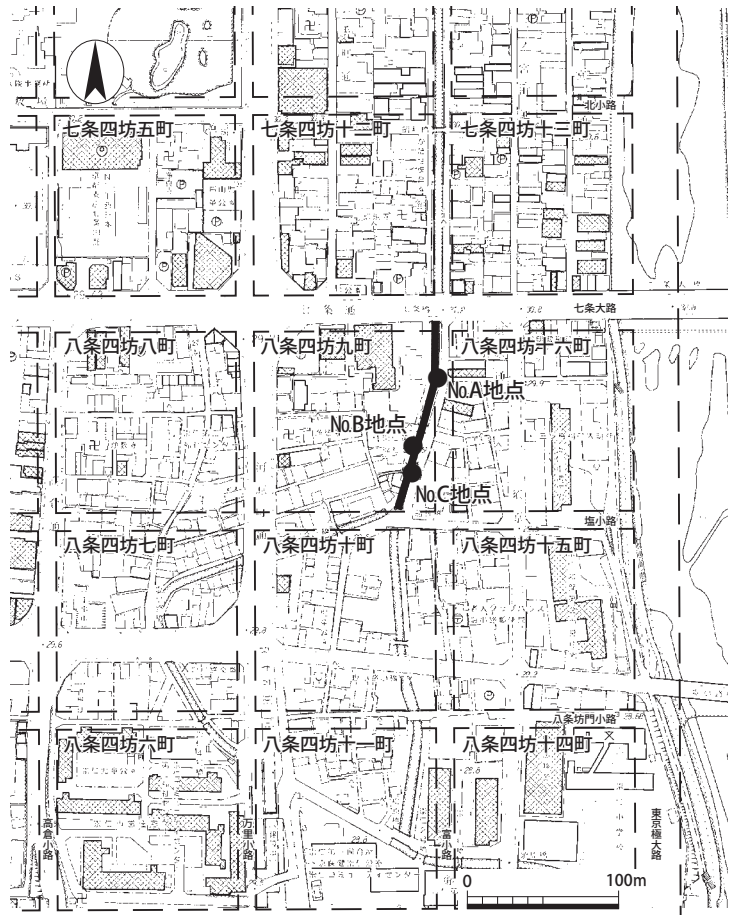


図22 調査位置図 (1:5,000)



図23 高瀬川再整備前【写真中央は旧吾妻橋】(南から)

今回、近世から近代にかけての京と伏見・大阪を結ぶ舟運の大動脈であった高瀬川の記録作成と石垣構築方法の解明を主目的に、令和6年6月14日から10月16日にかけて調査を行った。その結果、高瀬川護岸石垣の構築方法について、新たな知見を得ることができた。

2. 遺構

調査は、工事工区内の8箇所で行ったが、No.8地点を除き、石垣石材や裏込めも除却され、高瀬川に関する十分な成果が得られなかった。そこで8箇所とは別に護岸石垣とは異なる積み方をしている洗い場に注目し、便宜的に旧吾妻橋北側の洗い場をA地点、同橋の南側の洗い場をB地点、唯一石垣断面を観察できたNo.8地点をC地点として報告する。

高瀬川東岸石垣【七条橋～旧吾妻橋】(図25) 七条橋側で高く(約1.9m)、洗い場付近で最も低く(約0.8m)なっている。石垣は水面より上方で3段から8段積まれている。積み方は一辺約30cmの方形石材(間知石)を用いて、下石2石の上端がV字形(谷部)になるように並べ、その谷部に上石の一角をはめていく「谷積み」という工法が用いられている³⁾。ただし、図中の31～38m付近では3段積みの中段に短辺約20cm、長辺約50cmの長方形の石材を右下がりに連続してはめていく「谷積み」が用いられている。また、48～54m付近では石材を水平に積み上げる工法が用いられているが、54m付近の水平積み端部が谷積みの上部に載っており、水平積みは後出の石垣と考えられる。また、A地点北隅角及び旧吾妻橋橋脚北端部は隅角部として石材が水平に積み上げられているが、算木積みのような丁寧な工法は用いられていない。

高瀬川西岸石垣【旧吾妻橋～船鉾橋】(図26)

高低差があまりなく(0.8～1.0m)、水面より上方で4段積まれている。積み方は東岸石垣と同様、「谷積み」工法が用いられており、部分的に短辺約20cm、長辺約50cmの長方形の石材が使用されているが、東岸のように連続してはめ込まれていない。東岸と同様、B地点の洗い場の北隅角部は水平積み、南隅角部は谷積みである。

A地点(図22・24・25) 東岸石垣の37.8m～39.8mの部分に設置された洗い場である。幅2m、奥行0.65mの長方形の空間で、川に面した部分の石垣は水面より上方で水平に1～2段積み上げられている。北側2石分は1段であり、川水へのアクセスを容易にしている。水平に置かれた石材の下部及び南隅角部で谷積みの工法が認められることから、護岸とし

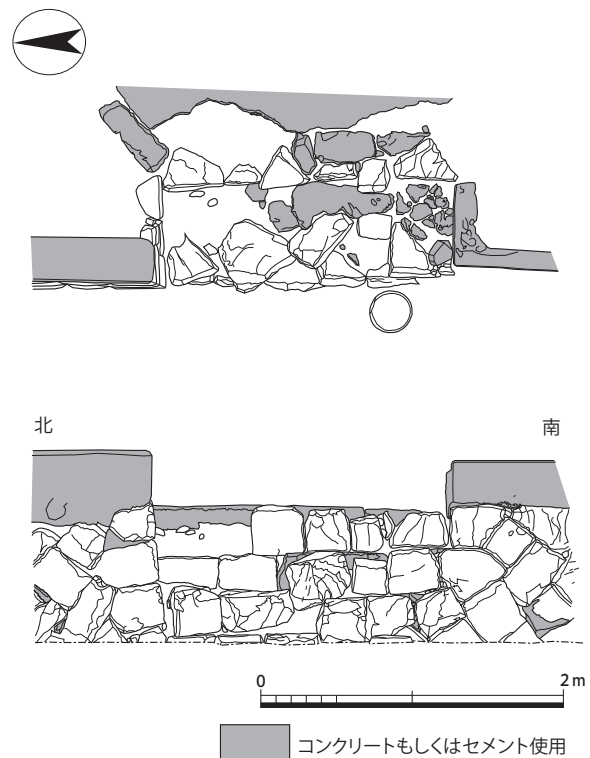


図24 A地点 高瀬川洗い場 平面図・立面図 (1:50)

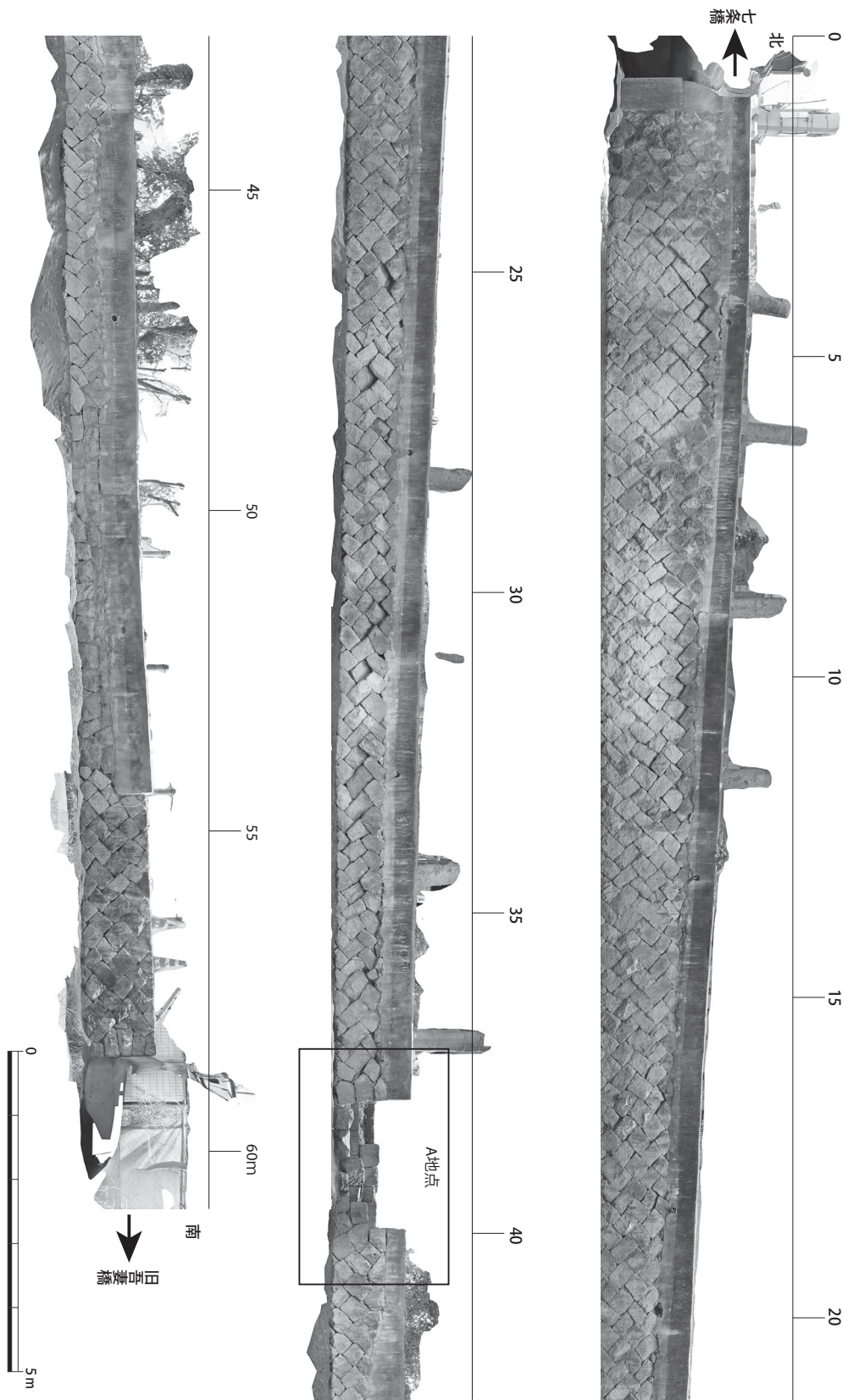


図 25 高瀬川東岸石垣立面図【七条通～旧吾妻橋間】（1：100）

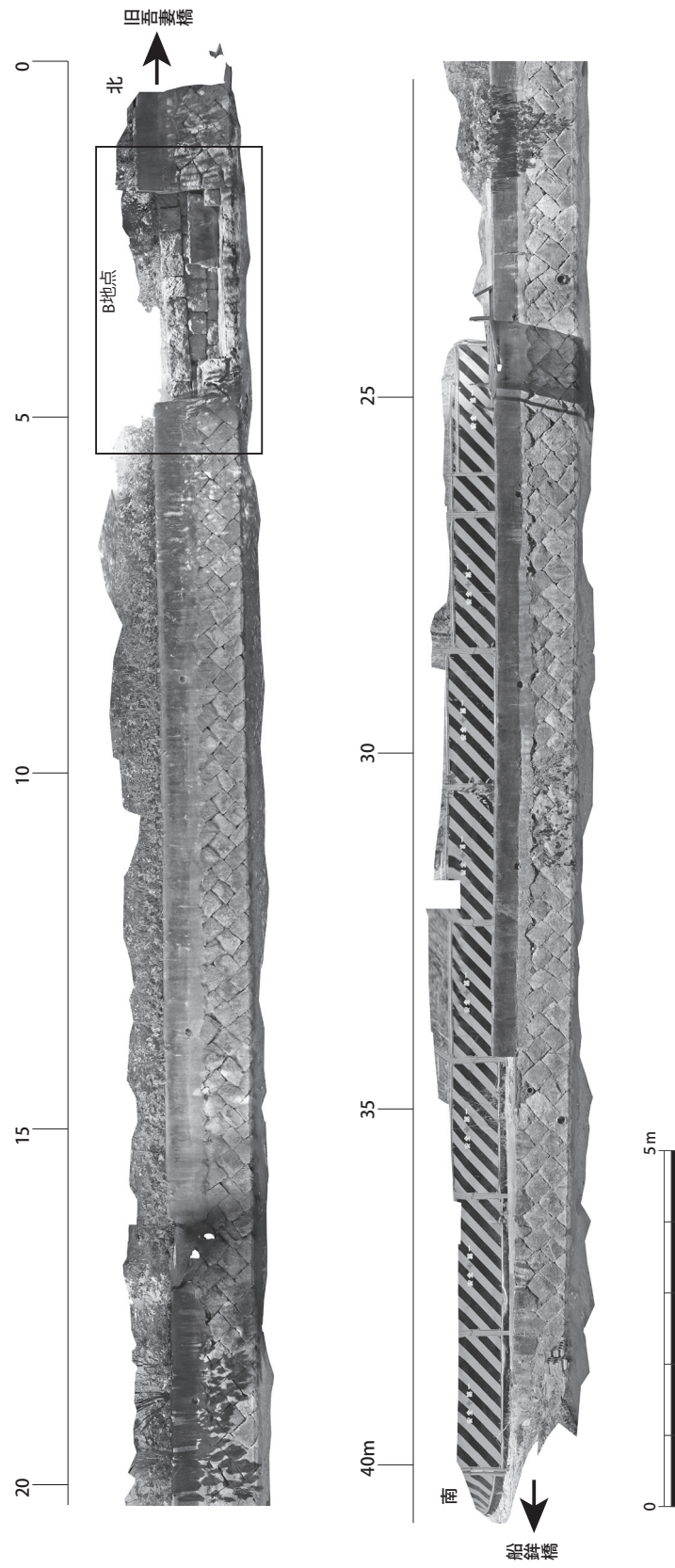


图 26 高瀬川西岸石垣立面图【旧吾妻橋～船鉾橋間】（1：100）

て谷積みがまず行われ、洗い場として活用する部分だけ利便性を考えて水平積みにした可能性が高い。

B地点(図22・26・27) 旧吾妻橋の下流の西側護岸、北端から1.8m～4.8mの部分に造られた洗い場である。幅3m、奥行0.8mの長方形の空間で、南端から0.6m幅だけ1段高い平坦面を作り出している。川に面した部分は水平に1段、奥は水平に3段積まれている。A地点よりも大きく、丁寧に造られているが、ここでも谷積みの上に水平積みの石材が置かれている。

C地点(図22・28) 七条橋南端から南へ約100mの東岸石垣部分である。GL-1.6mまで、褐灰色細砂や明黄褐色砂礫といった河川堆積を掘り込んだ後、最下段に不同沈下を防ぐための胴木を水平に置き、その上に奥行部分を三角形に加工した間知石を谷積みで積み上げていく工法である。間知石の後方には拳大の礫を含む黒褐色粘質土を裏込めとして充填していることも明らかとなった。

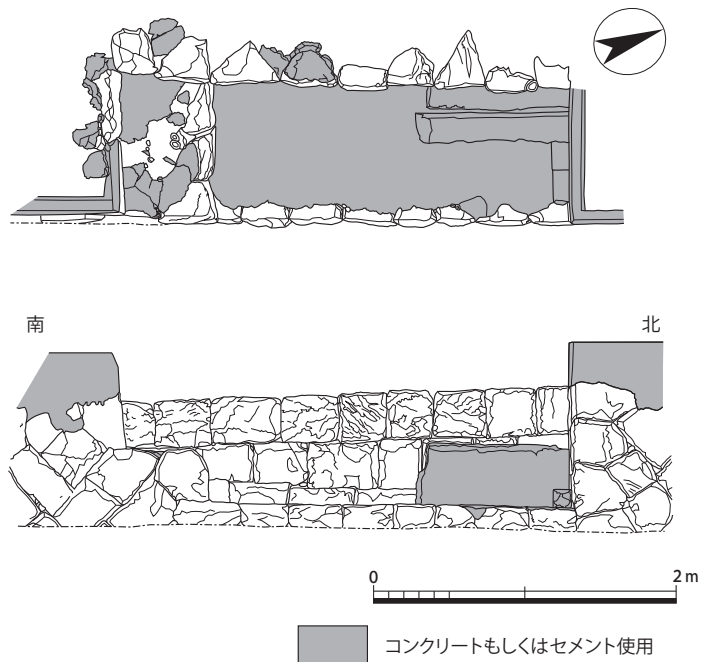


図27 B地点 高瀬川洗い場 平面図・立面図(1:50)

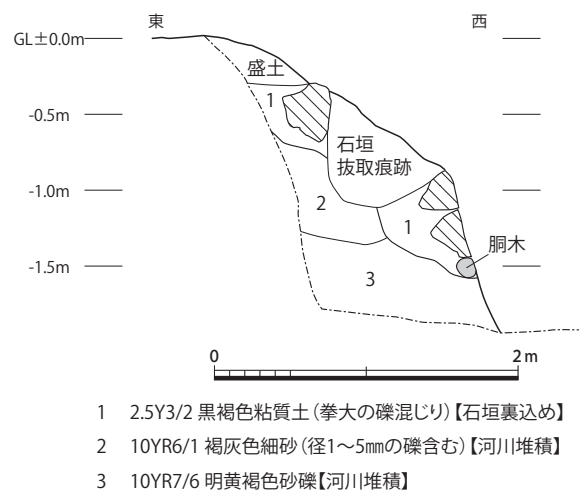


図28 C地点 高瀬川東岸石垣断面図(1:50)

3. まとめ

今回の対象地は平安京内には含まれるものの、中世以前に遡る遺構を認めることができなかった。

一方、高瀬川の護岸石垣について新たな知見を得ることができた。一之船入付近から五条通以北の高瀬川再整備工事では、要所要所で両端を鉛筆様に尖らせた木杭を垂直に2列立て並べ、その間に水平方向の梁材を通した上に間知石を谷積みしていく工法が確認されている⁴⁾。高瀬川で唯一発掘調査されている左京八条四坊七町跡(図29の2003年発掘)では、2時期の変遷が認められ、河道南端部に石垣、肩口を木杭と板材で護岸した工法が確認されている⁵⁾。しかし、今回は胴木の上に直接間知石が積み上げられており、工区ごとに施工方法が変えられていた可能性がある。こ

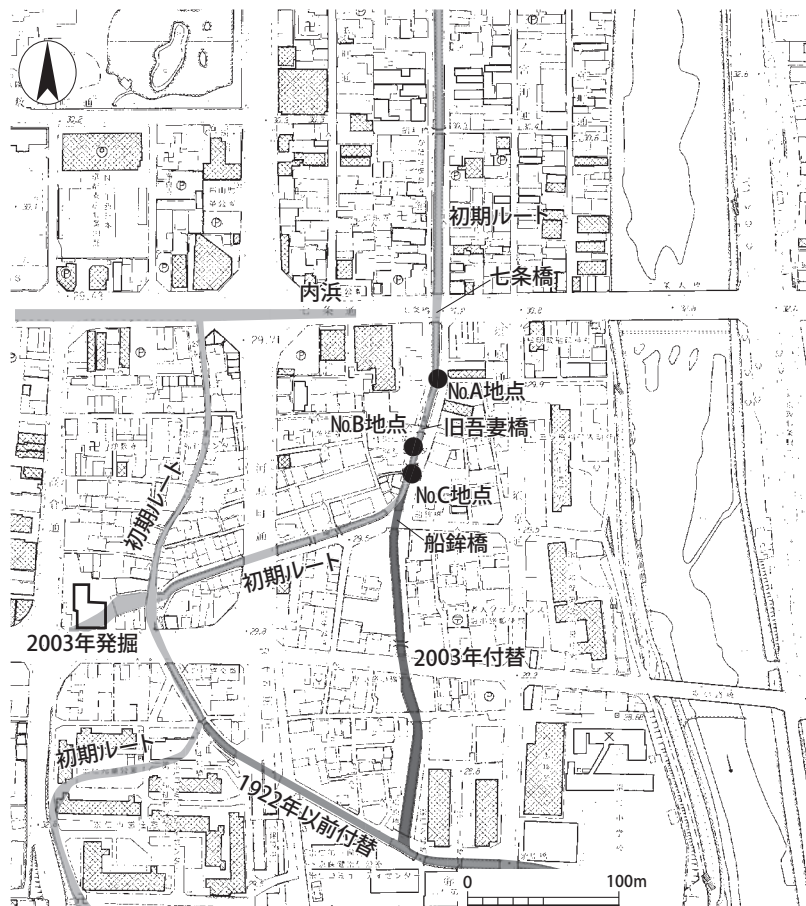


図 29 高瀬川変遷図 (1 : 5,000)

の護岸工事の時期については、裏込めから遺物が出土しておらず明瞭ではないが、一之船入付近から本件まで、ほとんどの工区で間知石による谷積みが認められることから、図 29 に示した改修履歴とは異なる時期、高瀬川沿いに大名屋敷が次々と造られていく幕末を考えてみたい。また、河道変更されていない部分でのオルソ画像による記録作成を実施できたことは、近世、近代の重要な物流拠点であった高瀬川の変遷を明らかにする上で重要である。

(馬瀬 智光)

註

- 1) 福本和正「高瀬川」『角倉一族とその時代』(森洋久編、思文閣出版、2015年)
- 2) 田中尚人・川崎雅史・鶴川登紀久「舟運を基軸とした京都高瀬川沿川の都市形成に関する研究」『土木計画学研究・論文集』No.17 (土木学会、2000年)
- 3) 田淵実夫『ものと人間の文化史 15 石垣』(法政大学出版局、1975年)
- 4) 註1文献に同じ。
- 5) 加納敬二『平安京左京八条四坊七町』(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2003-11』、(財)京都市埋蔵文化財研究所、2004)、鈴木久男「高瀬川の発掘調査成果」『角倉一族とその時代』(森洋久編、思文閣出版、2015)

Ⅲ - 1 市指定史跡 妙光寺境内 (23A010)

1. 調査の経緯

調査地は双ヶ岡の北方、右京区宇多野上ノ谷町 20、正覚山妙光寺の境内にある印金堂跡である。

妙光寺は臨済宗建仁寺派の寺院で、寺伝によれば、花山院師繼（1222-81）の別業であったものをその遺志により寺とし、弘安 8 年（1285）無本覚心を開山として迎え伽藍が整えられたという。室町時代の五山十刹制においては京都十刹の第八位¹⁾とされ、幕府の庇護を受けたことが窺えるが、他の多くの寺院と同様、中世末期には衰微荒廃していたようである。



図 30 調査位置図 (1 : 5,000)

江戸時代となり、寛永 14 年（1637）から寛文 6 年（1666）頃にかけて、荒廃した妙光寺を再興したのが京の豪商打它公軌^{うだきんのり} (?-1647)・景軌^{かげのり} (?-1670) 父子である。父公軌は和歌や書を能くし、特に歌道は初め松永貞徳に学び、その後木下長嘯子の門下で重きを成した数寄者であった²⁾。子の景軌も歌道をはじめとして諸芸を嗜み、当代の文化人と親しく交わったという。

打它父子は単に禅寺としての妙光寺を再興しただけでなく、自らの数寄者としての表現も存分に行ったようで、再興が概ね成った頃当寺を訪れた冷泉為景（1612-52）は、境内の様子について「五歩に一樓、十歩に一閣」「移し植えける桜もみぢも稍千本に近し」と記している³⁾。安永 9 年（1780）の『都名所図会』には、山腹を雛壇状に造成した敷地に建物が配されている様子が描かれており、それぞれに「山門」、「妙光寺本堂」、「鐘樓」、「方丈」、「厨」、「茶屋」、「印金堂」、「数寄屋」と書き添えられている。これらのうち現在残る建造物は方丈のみであるが、境内は近世の様子をよく残しており、本堂（法堂）や印金堂の基壇を見ることができる。このような状況から京都市では、平成 23 年に方丈を市指定有形文化財に、24 年に境内を市指定史跡に指定している。

本件調査の対象である印金堂は、太平洋戦争後までかろうじて残っていたがいつしか倒壊し、近年まで瓦や木片が散乱する状況で放置されていた。岡田孝男の記録によれば、建物は 2 間四方の前堂（拜堂）と 2 間四方の後堂（厳密にはこれが印金堂）、それらをつなぐ短い廊から成り⁴⁾、後堂の内部壁面が印金裂⁵⁾で荘厳されていたことからその名がある。明治 3 年（1870）の『寺地画図』では「開山堂」とされているが、本来は打它父子が柿本人麻呂を祀った歌聖堂であったようである。方丈の背後の斜面を北西に 10 m ほど登った場所にあり、標高は約 105 m で、現在は樹木に遮られているが、当時は常盤野越しに乙訓方面を見晴らすことができたと思われる。市史跡指定に

先立つ平成 22 年に本市が基壇の測量と部分的な発掘調査を行っており、基壇の石材や礎石、階段、石敷参道などが良好に残っていることを確認している⁶⁾。

平成 22 年調査時は最小限の清掃にとどめて現状維持としていたが、近年、背後の斜面からの流入土に加え、実生木がこれを覆いつつあり、このままでは堂跡の所在自体が分からなくなるおそれがあった。これを案じた寺の関係者から、樹木や覆土を除去したいとの相談が文化財保護課へ寄せられ、遺構面を傷つけないよう作業は当課調査員と共同で行うこととなった。実施日は令和 5 年 9 月 26 日である。

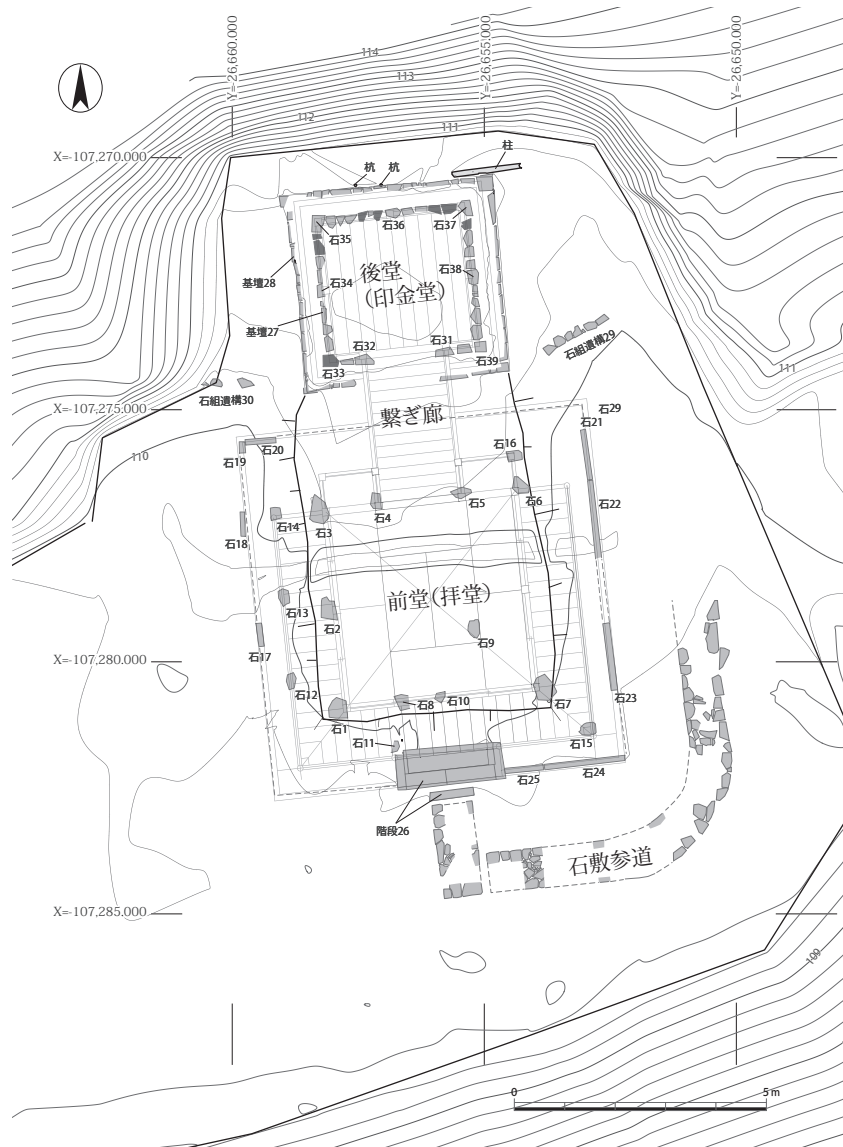


図 31 印金堂跡・平成 22 年測量図 (1 : 150、註 6 文献より転載・改変)
(石材中濃い網掛けは今回欠失していたもの)

2. 覆土と遺構の状況

作業は、前堂と後堂のうち、埋没がより進行している後堂を対象に行った。後堂基壇は、平成 22 年調査で報告されているとおり、4.0m 四方の基壇上に、地覆石と礎石を一边 3.0m の方形に並べているものである。平成 22 年の調査時はこれらが四辺ともに地表で確認できる状態であったが、今回は背後の斜面に近い北辺を中心に、半埋没状態となっていた。今回作業ではこれらを慎重に除去するとともに、前回は存置した基壇中央部の覆土も除去し、遺構面を全て検出した。

中央部覆土中には、倒壊時のままの状況が残っていることが期待されたが、残念ながら全て二次的な堆積であった。遺物にも注意を払ったが、瓦以外に目立ったものは認められなかった。しかしこれらを除去すると、基壇中央で原位置を保った 25×35 cm 程度の東石 1 石を検出した。この東石は前回調査では確認できていなかったもので、保存状態が良好であることがあらためて確認できた。一方で、前回調査で図化した地覆石等の中で、今回確認できなかったものもあった。平成 22 年測量図と比較すると、地覆石列のうち北辺 10 石中 4 石、東辺 9 石中 1 石、西辺 8 石中 2



図 32 後堂清掃状況（南東から）

石と南西隅の礎石（石 33）が欠失していた。基壇化粧は無事であった。欠失箇所多くには樹根が入りこんでいたため、これによって転落したものと思われる。

3. まとめ

今回の作業は清掃を主目的とするものであったため、基本的に平成 22 年調査の成果を再確認するにとどまり、顕著な遺物も確認できなかったが、新たに後堂中央の束石 1 石を確認した。作業後は再び実生木が覆うのを防止するため、基壇全体をビニールシートで覆って養生した。

（堀 大輔）

註

- 1) 至徳3年（1386）の改訂による。
- 2) 小高敏郎「打它公軌とその子孫」『近世初期文壇の研究』、明治書院、1964年
- 3) 『嵯峨遊覧記』。なお、「五歩一樓十歩一閣」は晩唐の詩人杜牧の「阿房宮賦」が出典。
- 4) 岡田孝男「妙光寺の印金堂と驚月庵」『新住宅』第7号3月号、1952年
- 5) 紗・綾・羅などの織物に型紙を置き、糊で金箔を貼った後に余分な箔を除いて紋様を表したもの。
- 6) 馬瀬智光「史跡妙光寺境内調査報告」『京都市文化財保護課研究紀要』第2号、2019年
(<https://kyoto-bunkaisan.city.kyoto.lg.jp/report/kiyou02.html>)

Ⅲ-2 植物園北遺跡 (24S026)

1. 調査に至る経緯

本件は、個人住宅建設に伴う詳細分布調査である。調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地「植物園北遺跡」の中央東よりに位置する。前面道路を挟んだ北側で行われた京都府下鴨北芝町公舎建設に伴う発掘調査¹⁾(図34 - 調査1・2)や、その西側で行われた発掘調査²⁾(同調査3)では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物をはじめとする遺構を、北東の左京キリスト教会建替に伴う試掘調査³⁾(同調査4)では、古墳時代前期の竪穴建物や掘立柱建物を検出しており、調査地一帯に弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が展開していることが明らかとなっている。

周辺の調査成果から、調査地にも遺構が展開する状況が想定された。このため事前に事業者と協議を行い、特に深く掘削が及ぶ範囲について事業者の協力のもと、工事着工前に調査を行った。調査は令和6年5月14日に行い、調査面積は7㎡である。

2. 遺跡 (図35～37)

基本層序は、GL-0.18～-0.4mで径1～2cmの礫を含む黄灰色細砂の旧耕作土、-0.46mで黒褐色泥砂の時期不明包含層、-0.6mで褐色砂泥の地山に至る。地山上面で複数の遺構を検出した。

竪穴建物1 西端を調査区の東側で検出した。南北長0.4m以上、東西長4.0m以上を測る。検出した西辺が直線状であることから、平面形は方形と思われる。北・東・南辺は調査区外にのびる。埋土の最上層は黒色泥砂で、検出中に弥

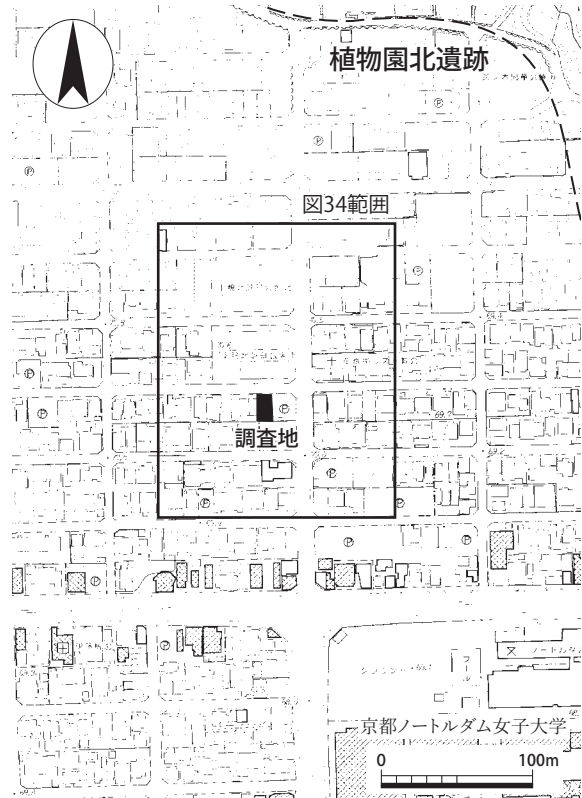


図33 調査位置図 (1 : 5,000)

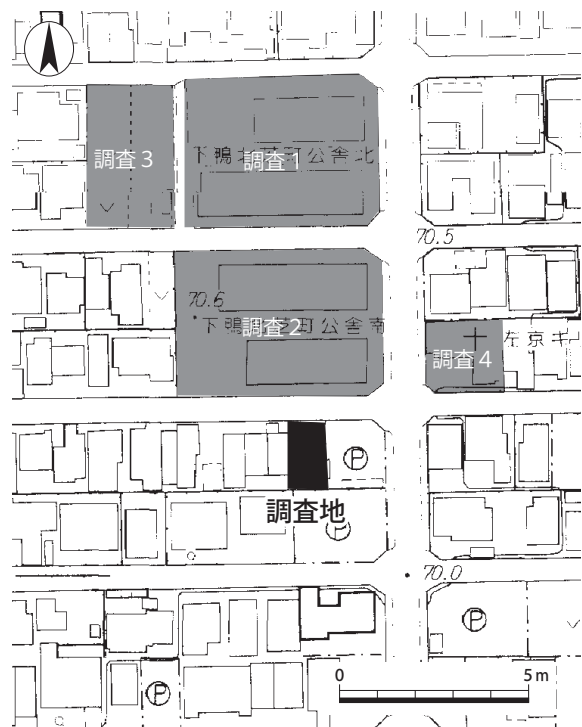


図34 周辺調査状況 (1 : 2,000)

生土器、もしくは古式土師器と思われる土器の細片が出土した。

土坑2 調査区の西端で、東辺のみ検出した。南北長0.9m、東西長0.45mを測る。埋土の最上層は黒褐色泥砂である。検出範囲が狭少であることから断定は難しいが、東辺が直線状であることから、方形の竪穴建物である可能性がある。遺物は出土しなかった。

この他に、複数の土坑やピットを検出した。いずれも図化に耐えられなかったが、弥生土器、もしくは古式土師器と思われる土器の細片が出土した。

3. まとめ

本調査で検出した遺構は、工事掘削深までに掘削を収めたため、遺構掘削を行わず検出に留めた。そのため、正確な時期の確定には至っていない。ただし、竪穴建物1は出土した遺物から弥生時代～古墳時代前期のものと考えられる。周辺の調査でも同時期の竪穴建物を多数確認していることから、調査地一帯に多数の建物が展開している状況の復元に一資料を加えたと言えよう(図38)。今後、周辺一帯における開発計画を注視したい。

なお、計画範囲の大部分において遺構面まで工事掘削が及ばないため、遺構は地中保存される。
(佐藤 拓)

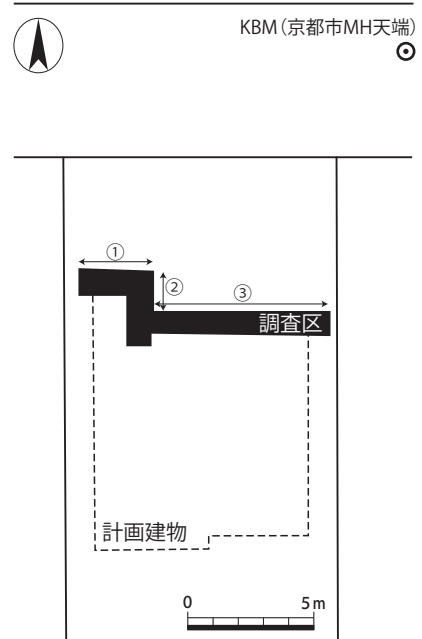


図35 調査区位置図(1:300)

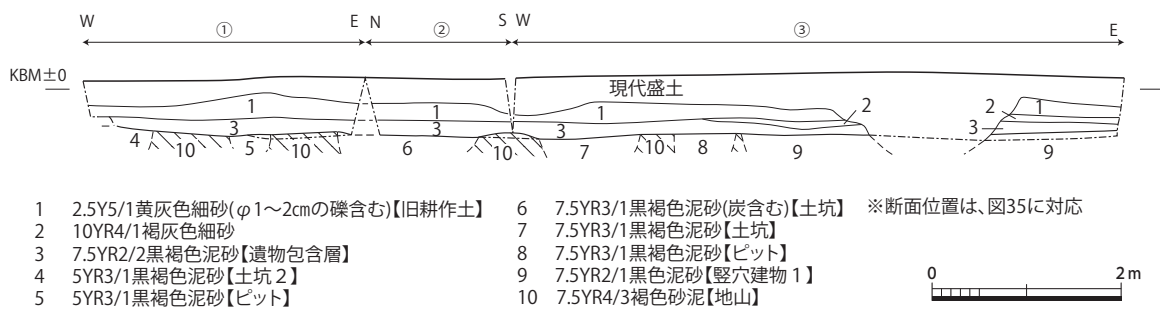


図36 調査区断面図(1:80)

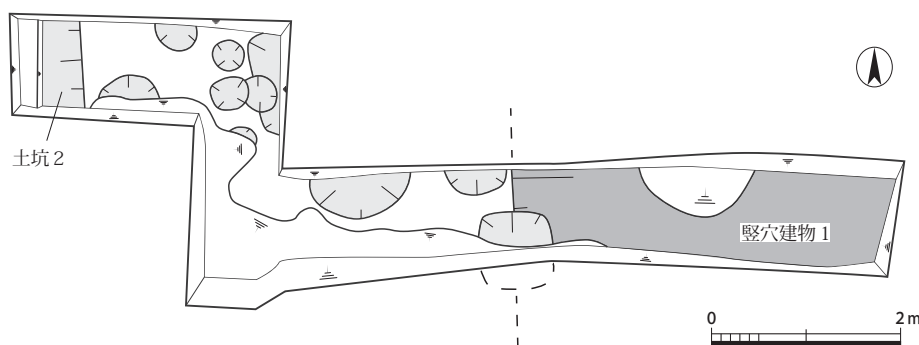


図37 調査区平面図(1:80)

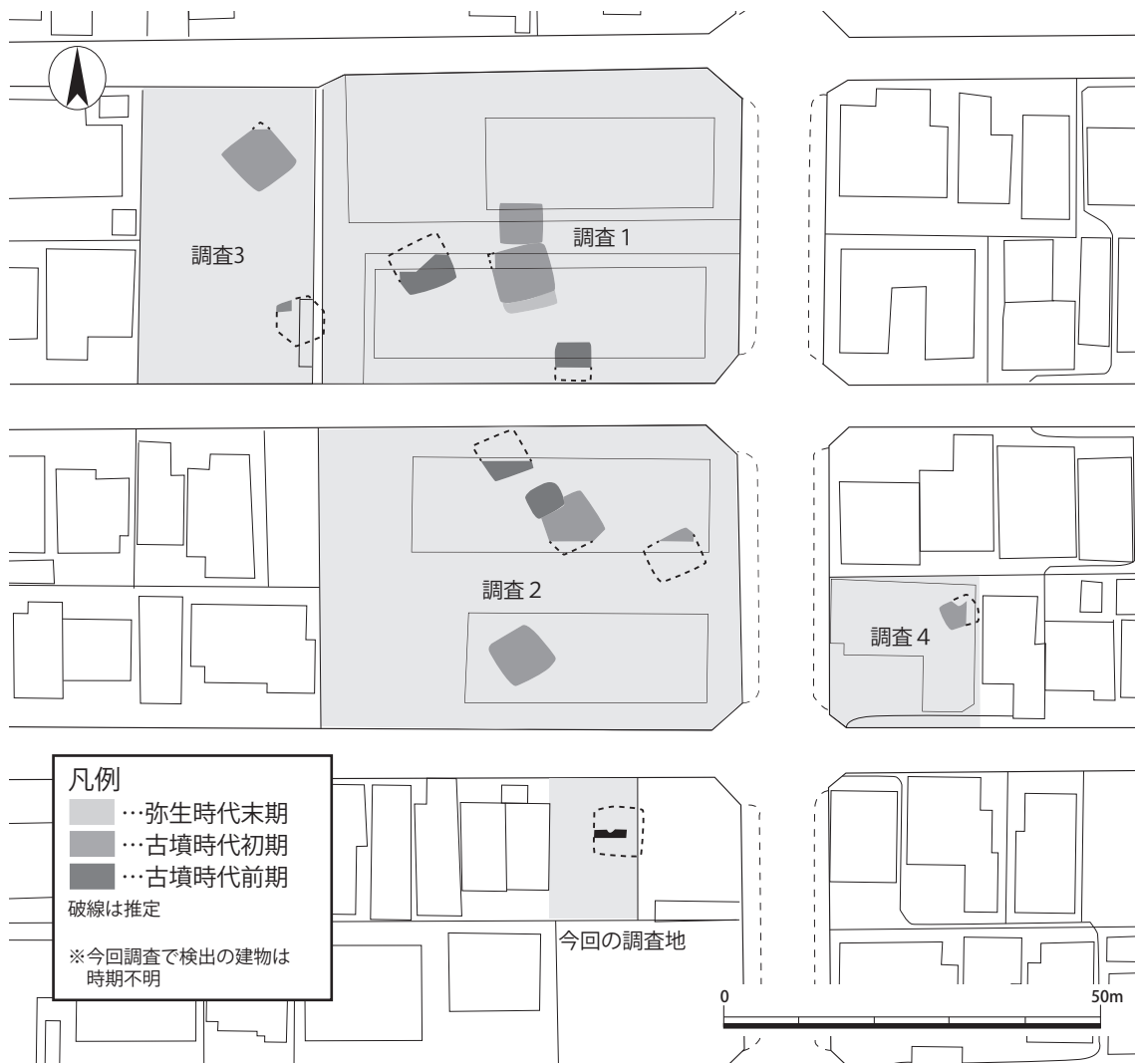


図38 調査地周辺の竪穴建物検出状況（1：1,000）
 註2文献掲載図に加筆

註

- 1) 調査1：岸岡貴英ほか「植物園北遺跡第13次調査概要」『京都府遺跡調査概報』第58冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1994年。
 調査2：石尾政信ほか「植物園北遺跡第16次調査概要」『京都府遺跡調査概報』第70冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1996年。
- 2) 田邊貴教『植物園北遺跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第32集、株式会社文化財サービス、2024年。
- 3) 馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63、No.64、No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』、京都市文化観光局、1995年。

Ⅲ-3 室町殿跡（花の御所）（24S236）

1. 調査に至る経緯と経過

調査地は、室町通と今出川通の交差点より北東に位置する（図 39）。西側が室町通に接する敷地で、室町将軍の邸宅であるとともに、政治の中心的施設であった室町殿跡（花の御所）の一部に該当する。

1378 年（永和 4）、室町幕府の三代将軍足利義満は、崇光上皇の御所（花亭）跡と今出川公直の邸宅（菊亭）跡地をあわせた広大な敷地に、足利家の邸宅を造営した。鴨川の水を引き入れた庭園に多くの花を植えたことから、「花の御所」と称されたという。義満以後、6 代将軍義教や 8 代将軍義政が邸宅として使用し、改築を重ねたが、応仁・文明の乱の戦火により 1476 年（文明 8）に焼失した。その後、13 代将軍義輝が二条御所へ移ったことにより、正式に廃止された。

現在の室町殿の復原範囲は、北が上立売通、東が烏丸通、西が室町通、南が今出川通を際限とする南北 2 町、東西 1 町に及ぶ。1437 年（永享 9）に行われた後花園天皇行幸時には、邸宅内に四足門、中門、台盤所、御湯殿、御所等があったと記録されており、四足門を配した室町通側（西側）が正面であったと考えられる。

今回、この室町通沿いの区画において個人住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。調査期間は、令和 6 年 9 月 9 日と 11 日の 2 日間である。

2. 周辺の調査成果

調査地より南へ 80 m 隔てた地点では、平成 30 年度に発掘調査が行われており、室町殿の

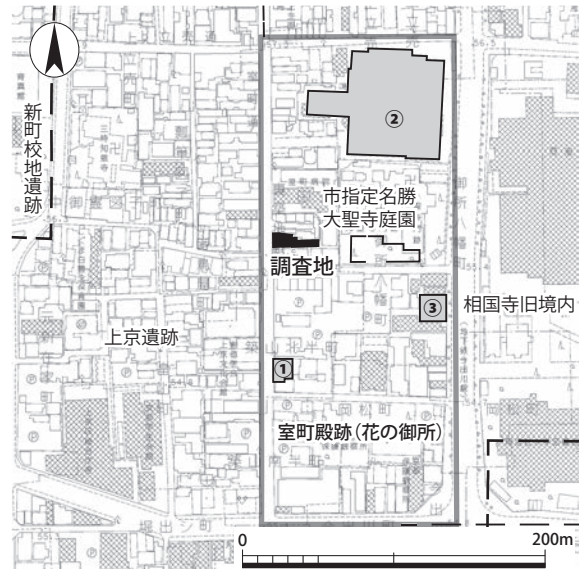


図 39 調査位置図（1：5,000）

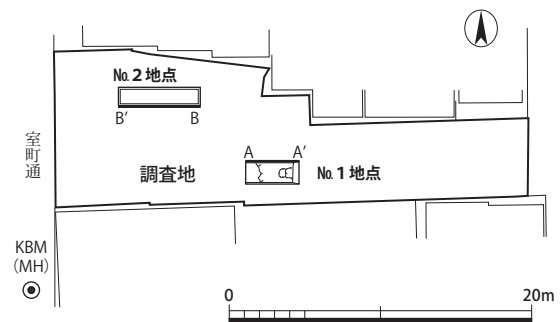


図 40 調査区配置図（1：500）



図 41 No. 1 地点遺構検出状況（北東から）

西限を示すとみられる南北方向の堀(15世紀)が室町通に沿って検出されている(図39①)。また、調査地より150m程度北東に位置する同志社大学学生会館・寒梅館建設に伴う発掘調査では、16世紀の石敷遺構や柱列が検出されたため、一部地中保存が図られた(同②)。

このほか、令和2年に発掘調査及び詳細分布調査が行われた烏丸通沿いの区画では、巨大な景石を配する室町時代の庭園跡が発見されたため、設計変更が行われている(同③)。

以上のことから、当該地点においても室町殿に関連する遺構の存在が予測された。

3. 調査成果

今回の調査では計2箇所(No.1・2地点)で断面観察及び一部平面検出を行った(図40・42)。

No.1地点では、KBM-1.0mでオリーブ褐色粗砂の室町時代包含層、-1.18mで暗灰黄色粗砂～粗砂混じりシルトの基盤層を確認した。基盤層上面で平面検出を行ったところ、東へ向かって下がる落込み(落込み3)と、その上面において成立する土坑、ピットを検出した(土坑1、ピット2)。

土坑1は、調査区の東端で検出した遺構で、南北長0.8m、東西幅0.5m以上を測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とし、焼締陶器の破片や焼け瓦を含む。近世の遺構である。ピット

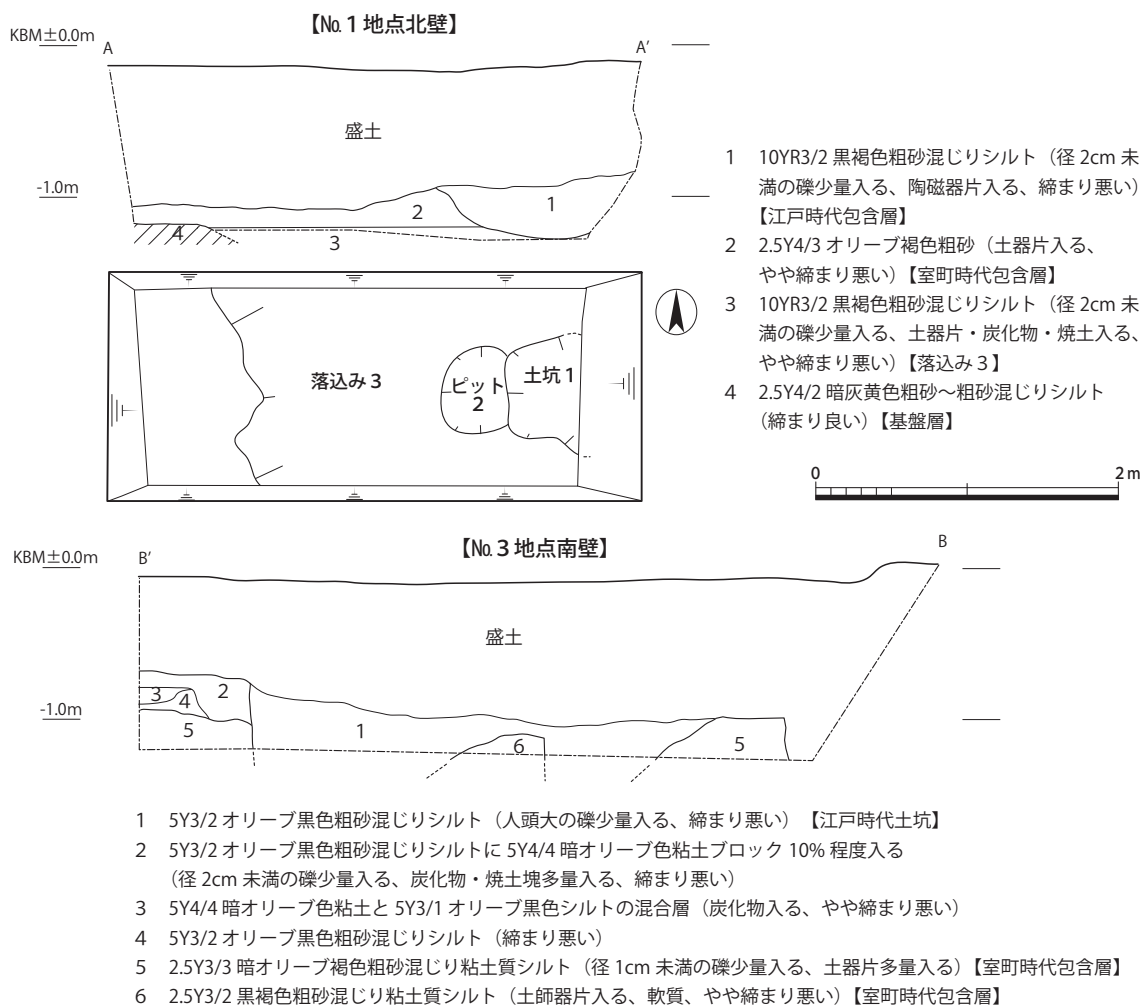


図42 調査区断面図(1:50)

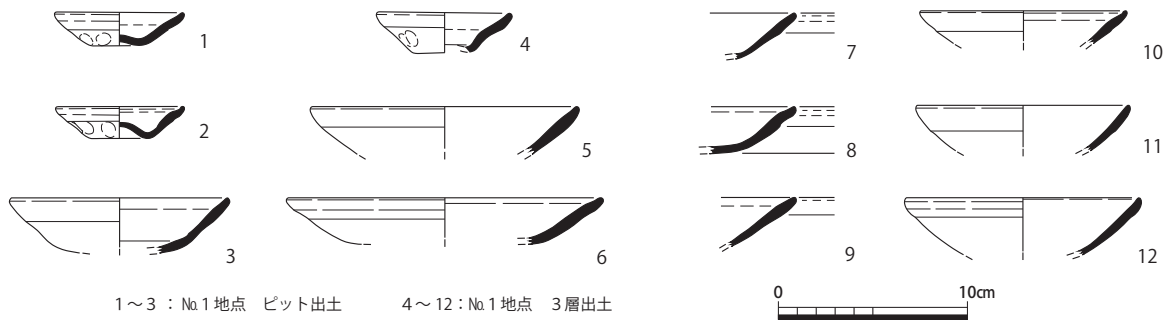


図 43 出土遺物実測図（1：4）

2は、土坑1の西に接して検出した遺構で、土坑1に切られている。平面形状は円形で、直径0.58mを測る。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とし、炭化物とともに土器片を含む。埋土から土師器皿の破片が出土した（図43：1～3）。14世紀後半の製品である。落込み3は東へ向かって緩やかに下がる傾斜面に、炭化物や焼土、土器片を含む黒褐色粗砂混じりシルトが堆積する。これらはいずれも未完掘のまま、現地保存とした。このほか、遺構面を覆う第2層からは、土師器皿がまとまって出土した（同4～12）。14世紀後半～15世紀後半の製品群である。

No.2地点では、KBM-0.68mでオリーブ黒色粗砂混じりシルトの近世焼土層、-0.8mで整地層とみられる暗オリーブ色粘土とオリーブ黒色シルトの混合層、-0.94mで暗オリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルトの室町時代包含層を確認した。調査区中央には江戸時代後期の大型土坑があり、室町時代包含層を大きく抉る。なお、この地点では基盤層を見出せず、工事掘削底以深まで室町時代包含層が連続することを確認した。

4. まとめ

以上、室町殿跡（花の御所）の詳細分布調査成果を記述した。当該地点では、西半部において室町殿の西限となる堀の存在が予測されたものの、今回の調査ではこれに相当する遺構を検出できなかった。ただしNo.2地点では、室町時代包含層が厚く堆積し、No.1地点で確認された基盤層以深にまで及ぶことから、下層に堀跡が存在する可能性はある。周辺の更なる調査成果に期待したい。

（黒須亜希子）

註・引用文献

調査①：京都市文化市民局 2019年「IV 室町殿跡（花の御所）・上京遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』

調査②：同志社大学歴史資料館 2005年『学生会館・寒梅館地点発掘調査報告書—室町殿と近世立売町の調査—』

調査③：（公財）京都市埋蔵文化財研究所 2020年『室町殿跡・上京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-1

京都市文化市民局 2021年「V-5 室町殿跡（花の御所）、上京遺跡」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度』

Ⅲ-4 北白川廃寺 (24S135)

1. はじめに

本件は、左京区北白川大堂町 22 番における個人住宅建設に伴う調査である。調査地一帯は、比叡山に源を発する白川が形成した扇状地に立地しており、東から西に向かって下がる緩斜面となる。白川は花崗岩帯を流下するため、風化した花崗岩の真砂土が厚く堆積しており、白川の地名の由来となっている。また、調査地が所在する大堂町については、昭和 9 年 (1934) に付近で進められていた区画整理事業によって、多量の瓦とともに瓦積基壇が発見されたことで命名されている。

この時発見された基壇は、京都府史蹟勝地調査會によって緊急調査が行われ、白鳳時代に遡る寺院跡と判断された。基壇は最大で 1.2 m の高さが残り、規模は東西 119 尺余 (36.1 m)、南北 75 尺 5 寸 (22.8 m) に復元される巨大なものであった。見つかった寺院跡については、文献史料に一切記録を留めないことから、地名を冠して「北白川廃寺址」と名づけられた¹⁾。

その後の調査で、約 80 m 西側で一辺約 14m の方形基壇が確認されたことから、これを塔跡とし、先に発見された瓦積基壇は金堂跡と推定されることとなった (図 44)²⁾。さらに金堂を取り巻く回廊も確認され³⁾、院を形成していたこと、緩斜面をひな壇状に造成し、伽藍が展開していたことが解明されつつある⁴⁾。

調査地は、瓦積基壇が発見された東西道路の南側で、金堂基壇内にあたる。道路を挟ん



図 44 調査位置図 (1 : 2,500)

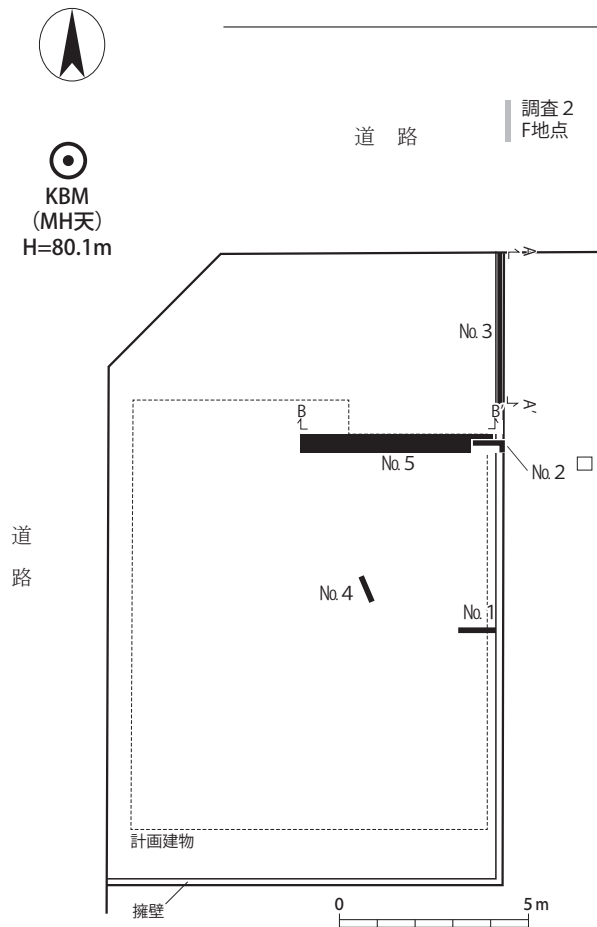


図 45 調査区配置図 (1 : 200)

だ西側（図 44- 調査 1）や北側（調査 2）においても調査が実施され⁵⁾、多量の瓦の出土や整地層が確認されていることから、関連する遺構、遺物の検出が想定された。

調査期間は、令和 6 年 7 月 9～23 日で、計 5 箇所⁵⁾の調査を実施した。その結果、基壇に伴う版築層などを確認した。

2. 遺構

調査地の現状は、周囲の道路面に合わせて平坦であるが、東側の隣地境界は一段高くなっており、境界の擁壁を改修することから、基壇盛土断面が残存する可能性が期待された。そのため、擁壁断面（No. 1～3）及び計画建物基礎掘削（No. 4・5）に合わせ調査を実施したところ、基壇盛土、掘込地業、柱穴列を確認した。

基壇盛土（図 46～49） No. 1～3 地点で確認した。褐灰色粗砂と黄橙色粗砂の互層で版築で構築されている。各層厚は 2～8 cm で最大 50 cm 分が残る。道路面よりも高く、近隣調査成果（図 44- 調査 1）から、基壇盛土と判断した。層内から遺物は出土しなかった。

掘込地業（図 47～49・図版 32） No. 2～5 地点で確認した。黄橙色粗砂と黒褐色粗砂の互層で版築で構築されている。No. 2・3 地点で基壇盛土と色調の異なる版築層の境目が確認できた標高 80.25 m 以下を掘込地業と判断した。版築層の層厚は 2～8 cm で、最大 65 cm 分が残り、底は確認できなかった。層内から遺物は出土しなかった。

柱穴列（図 47・49） No. 2・3 地点で確認した南北方向の柱穴列である。基壇盛土上面で成立する。柱穴は径 20～30 cm で、深さ 40 cm を測る。柱間は 1.8～1.9 m である。遺物の出土はなく、時期は不明である。

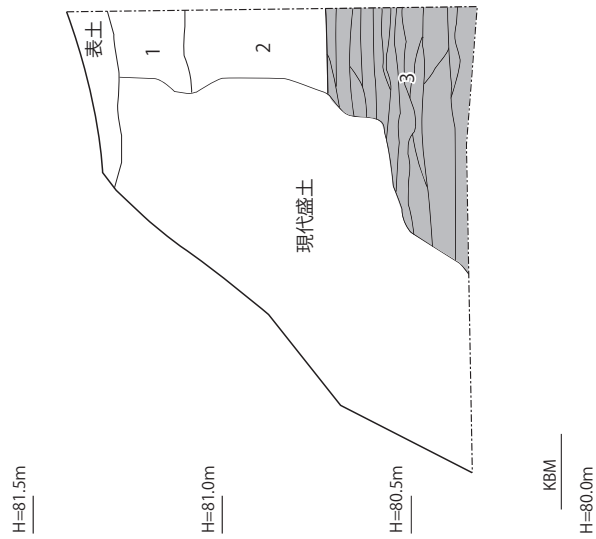


図 46 No. 1 地点北壁オルソ写真



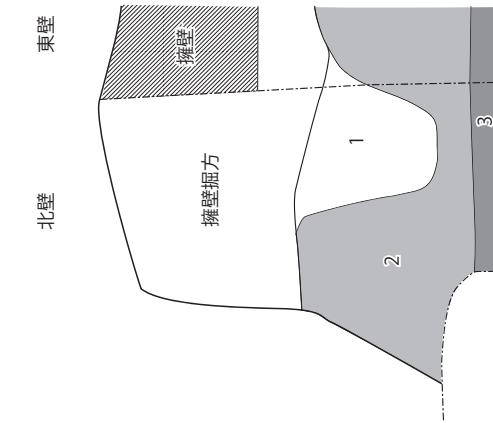
図 47 No. 2 地点北壁（南西から）

【No. 1 地点北壁】



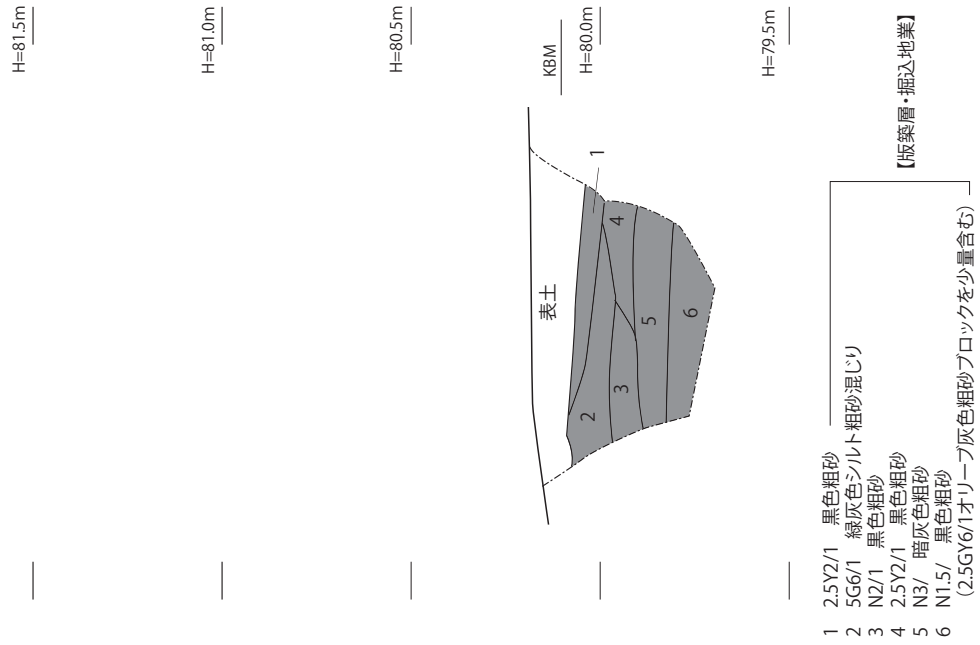
- 1 10YR6/2 灰黄褐色粗砂 (土師器細片混じる)【包含層】
- 2 10YR7/4 にぶい黄褐色粗砂 (灰色・黒色粗砂ブロック含む)
- 3 10YR4/1 褐灰色粗砂・10YR8/6 黄褐色粗砂【版築層(基壇土)】

【No. 2 地点北壁・東壁】



- 1 2.5Y6/2 灰黄色砂質土【Pit】
- 2 10YR4/1 褐灰色粗砂・10YR8/6 黄褐色粗砂の互層【版築層(基壇土)】
- 3 10YR7/8 黄褐色粗砂・10YR3/1 黒褐色粗砂の互層【版築層・掘込地業】

【No. 4 地点東壁】



- 1 2.5Y2/1 黒色粗砂
 - 2 5G6/1 緑灰色シルト粗砂混じり
 - 3 N2/1 黒色粗砂
 - 4 2.5Y2/1 黒色粗砂
 - 5 N3/ 暗灰色粗砂
 - 6 N1.5/ 黒色粗砂 (2.5GY6/1オリーブ灰色粗砂ブロックを少量含む)
- 【版築層・掘込地業】

図 48 No. 1・2・4 地点断面図 (1:20)

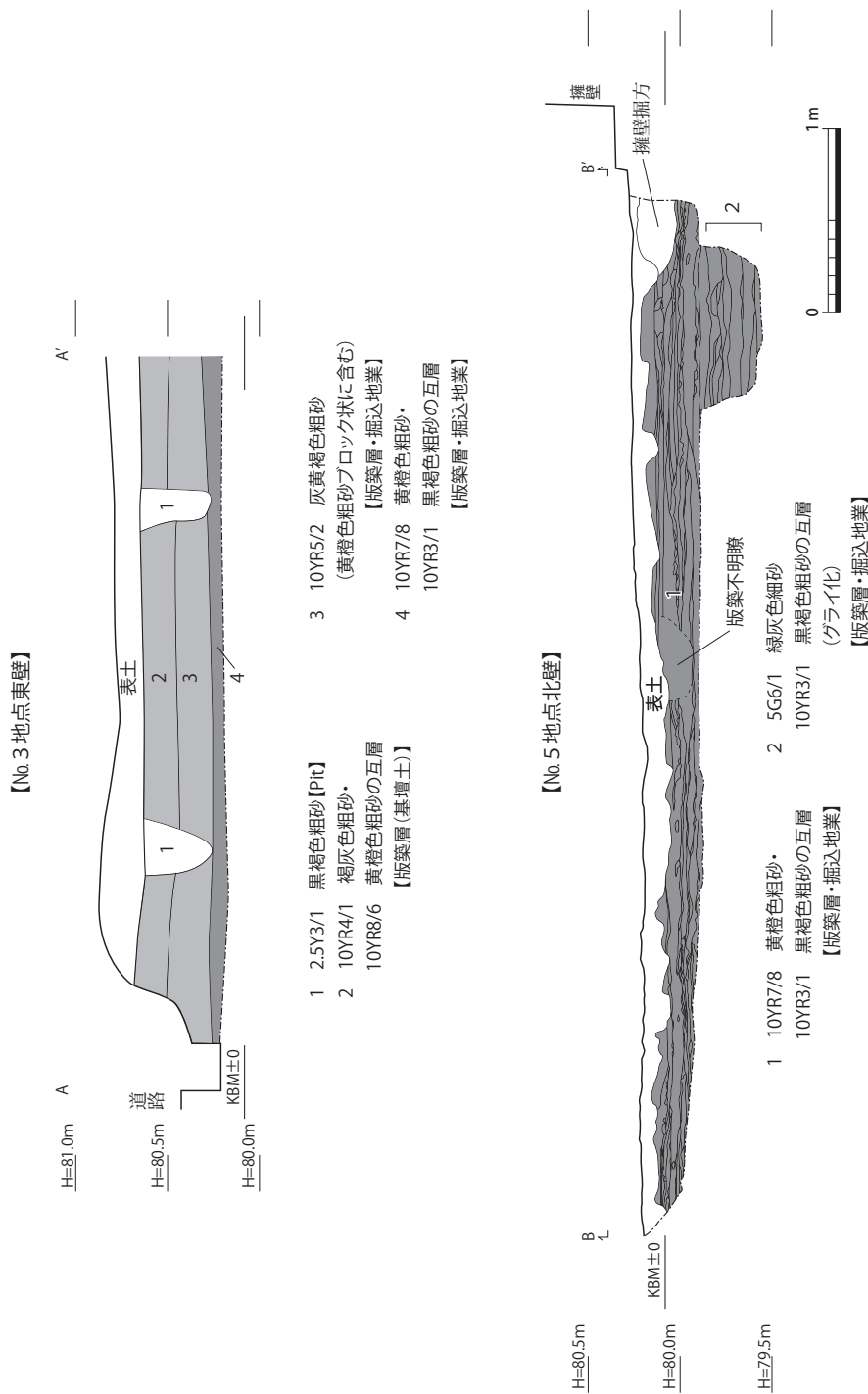


図 49 No. 3・5 地点断面図 (1 : 40)

3. まとめ

今回の調査では、金堂の基壇盛土、掘込地業などを確認した。

基壇盛土は版築で構築されており、高さ約 50 cm 分が残存していた。基壇盛土については、これまで昭和 9 年の調査と昭和 55 年度調査 (図 44- 調査 1) にて確認され、版築で構築されていたことが明らかとなっている。昭和 9 年調査では、基壇西辺の外装について、高さ 5 寸 (約 15 cm) と 4 寸 (約 12 cm) の二段になった石積基礎の上に 3 尺 (約 90 cm) の瓦積基壇を積んでいたとある。

基壇上面には礎石が残っていなかったとあることから、調査地付近の本来の基壇高は 1.5m 以上が想定でき、1 m以上の削平を受けていることがわかる。

掘込地業は、厚さ 65 cm分を確認した。掘込地業については、調査地西側の南北道路で昭和 55 年度に実施されたガス配管工事や⁶⁾、北側（図 44・45- 調査 2）で見つかっている。調査 2 では、2～15 cm厚の版築層が道路面から約 1.15 mの深さまで続くことが確認されている（F 地点）。

今回の計画建物は木造であり、掘削深度も浅く、地業は建物下に保存されている。調査地周辺は既に宅地化が進んでいるものの、木造住宅が多い。調査 1 では、北白川廃寺以前の建物遺構が確認されており、地下に掘込地業や下層遺構が残る可能性も十分考えられる。今後周辺の開発に十分留意する必要がある。

（西森 正晃）

註

1) 「北白川廃寺址」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第 19 冊、京都府、1939 年。

なお、この時発見された瓦積基壇の一部は、京都帝国大学（現京都大学）構内に移築復元されている。

2) 『北白川廃寺塔跡発掘調査報告』北白川廃寺発掘調査団・京都市文化観光局文化財保護課、1976 年。

「北白川廃寺塔跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成 7 年度』京都市文化市民局、1996 年。

3) 『北白川廃寺跡発掘調査概報 昭和 55 年度』京都市埋蔵文化財調査センター、1981 年。

「北白川廃寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成 17 年度』京都市文化市民局、2006 年。

4) 網伸也「北白川廃寺の伽藍復原」『杉山信三先生米寿記念論集 平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会、1993 年。

5) 調査 1：『北白川廃寺跡発掘調査概報 昭和 55 年度』京都市埋蔵文化財調査センター、1981 年。

調査 2：「北白川廃寺（93KS457・93KS467）」『京都市内立会調査概報 平成 6 年度』京都市文化観光局、1995 年。

6) 未報告（5）調査 1 に記載。

Ⅱ-5 寺町旧域 (24S054)

1. 調査の経緯 (図50)

本件は、中京区上本能寺前町他地内において実施された寺町通（二条通～御池通）電線共同溝工事に伴う調査である。工事対象地は、豊臣秀吉が天正19年（1591）正月に造営を開始した洛中惣構（御土居）の内側に京内に散在していた寺院を集中させた「寺町旧域」に含まれる。工事区間は寺町西端を南北に通る京極通（現在の寺町通）内ではあるものの、京極通の東側には四条大路堀川の南西敷地から移転させられた妙満寺と、四条坊門小路（現在の蛸薬師通）西洞院の北西敷地から移転させられた本能寺が南北に並んでいた。

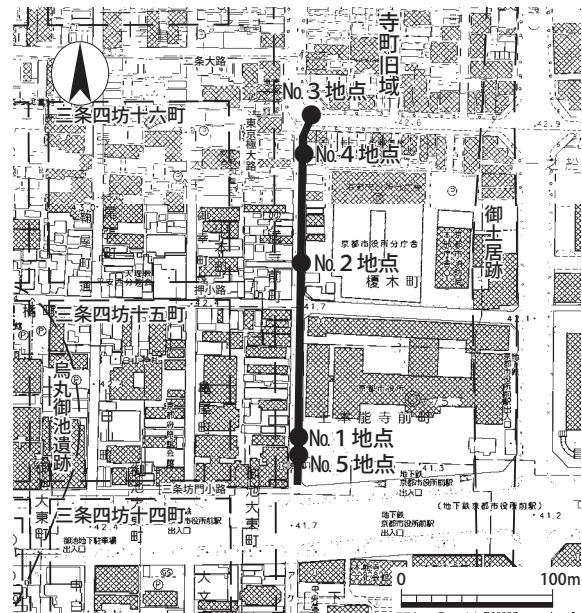


図50 調査位置図 (1:5,000)

妙満寺及び本能寺については、京都市役所増改築に伴って2015年から2017年にかけて発掘調査¹⁾が行われている。特に遺存状態が良好であった妙満寺では本堂跡、祖師堂跡がともに4期の変遷をたどることができ、その他、方丈跡や塔頭跡の関連遺構も検出されている。

今回、当該区間の工事が夜間であったことから、妙満寺、本能寺の両寺院に関連する遺構を検出する可能性の高い「電力柵」設置部分を中心に、令和6年9月6日、10月22日、同月28日、11月28日、12月10日に調査を行った。その結果、妙満寺西端の石垣と京極通東側溝、京都電気鉄道に関連する可能性の高い石垣と舗装を確認することができた。

2. 遺構

調査は、No.1地点～No.5地点で行った（図50）。以下に各地点ごとの調査成果を述べる。

No.1地点（図50・51） 寺町通御池の交差点から北へ39.5mの地点で西面する2段の石垣をGL-0.6mの深さで検出した。石垣の上段は縦20～25cm、横40cmのコンクリート、下段は縦30cm、横45cmの花崗岩製石材であった。花崗岩製石材はGL-1.2mで灰色泥砂の上面に据えられていた。検出した1列を除き、南側は地下鉄東西線出入口建設時に、北側は下水道の立坑掘削時にそれぞれ攪乱を受けていたが、「上京区第卅組上本能寺前町全圖」（明治17年末）²⁾に描かれた京極通（全圖では寺町通）東側溝の東側石垣の可能性が高い。

No.2地点（図50・53・55・57） 寺町通押小路の交差点から北へ19.6mの地点で、西面する2段の石垣をGL-0.25mの深さで検出した。石垣の高さは80～110cmあり、一辺40～90cmの花

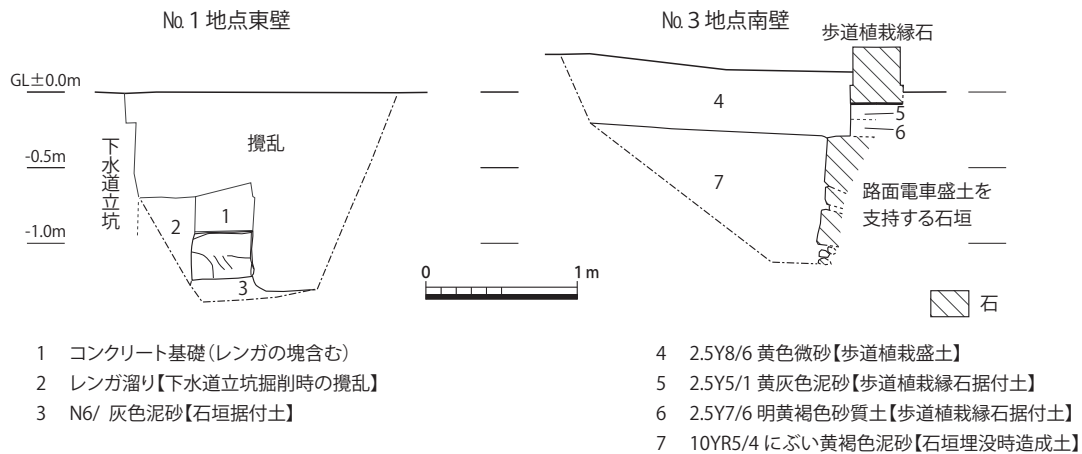


図 51 No. 1 地点東壁・No. 3 地点南壁断面図 (1 : 50)

崗岩製石材が上下 2 段に垂直に積み上げられていた。検出長は 5.3 m であった。西端の石材は風化が進んでいるが、短辺 60 cm、長辺 110 cm の石材を縦に置き、1 石で 2 段分の高さを生み出しており、石垣の隅角の可能性が高い。妙満寺所蔵の「天明焼失前之古圖」や「上京区第卅一組榎木町全圖」(明治 17 年末)³⁾ に描かれた妙満寺西端を限る石垣と考える。



図 52 No. 3 地点 石垣検出状況(北から)

No. 3 地点 (図 50・51・52・57) 寺町

通二条の交差点北東角の植栽帯で検出した上下 2 段の東面する石垣を検出した。この石垣は高さ約 80 cm で、上段の石材は縦 40 ~ 50 cm、横 40 ~ 50 cm、奥行 50 cm の方形で表面が平滑に仕上げられていた。下段の石材は縦 30 ~ 40 cm、横 30 ~ 50 cm、奥行 50 cm の方形である。上段石垣の後方(内部)にも方形石材を充填し、さらに表面をコンクリートで舗装している。検出長は 2.73 m であった。「上京区第卅一組榎木町全圖」では妙満寺から二条通を横切って京極通(全圖では寺町通)東側溝がまっすぐ北に延びていること、妙満寺や本能寺の寺域が真北から東へ約 2 度振っていることに対し、当石垣は西へ 12 度振っていることなどから、京極通東側溝ではない。明治 28 年(1895)に開通した京都電気鉄道(後の京都市電)が木屋町二条から西に分岐し、寺町通を通過して丸太町通富小路に至る路線がカーブするポイントに当たっており、同鉄道路線に伴って築造された可能性が高い。

No. 4 地点 (図 50・55・56・57) 寺町通二条の交差点から南へ 23.5 m の地点で東面する 2 段の石垣を GL-0.6 m の深さで検出した。一辺 30 ~ 40 cm の花崗岩製石材を上下 2 段に垂直に積み上げており、検出長は 2.4 m であった。この石垣は、No. 2 地点で検出した石垣と対をなし、「天明焼失前之古圖」や「上京区第卅一組榎木町全圖」に描かれた妙満寺西端を通る京極通(全圖では寺町通)東側溝西側の石垣の可能性が高い。

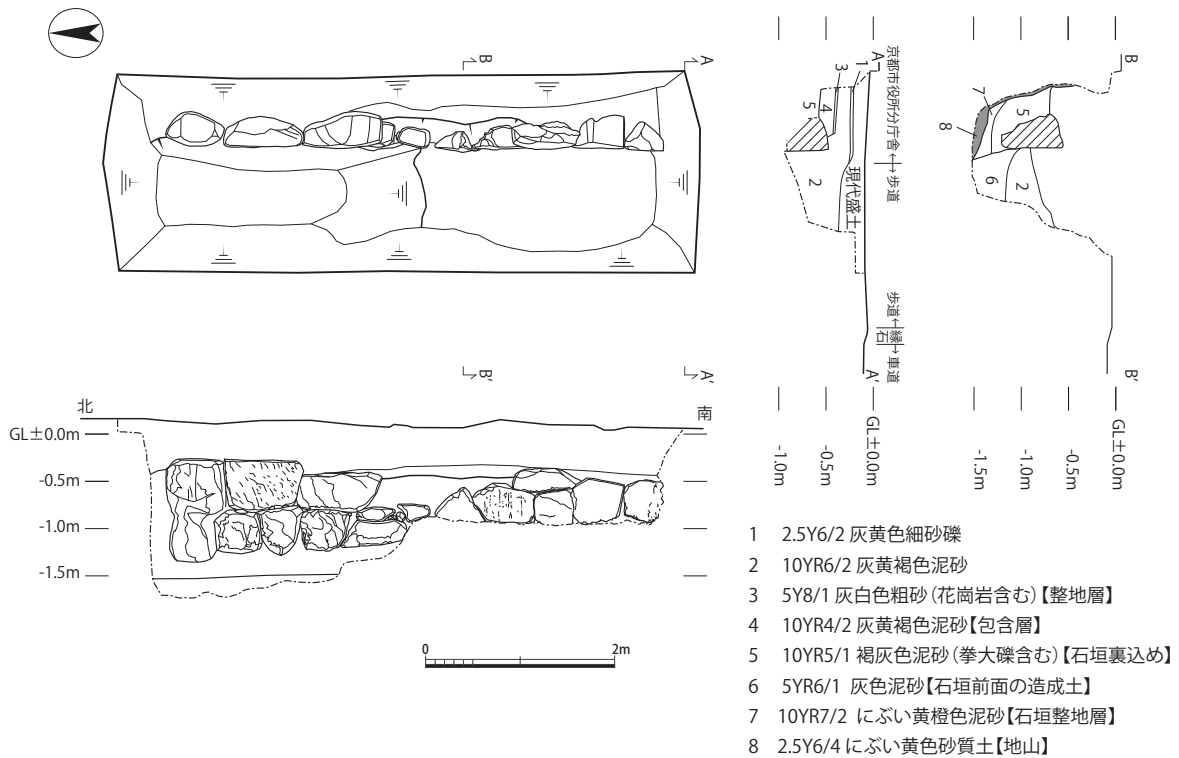


図 53 No. 2 地点平面図・石垣立面図・南壁断面図 (1 : 80)

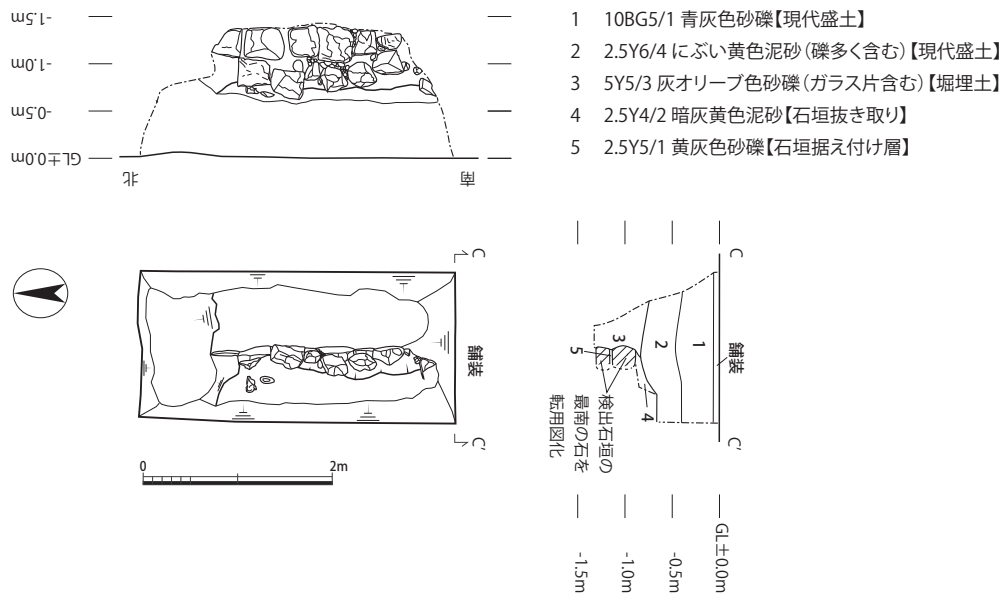


図 54 No. 4 地点平面図・石垣立面図・南壁断面図 (1 : 80)

No. 5 地点 (図 50) No. 1 地点のすぐ南側で、GL-1.7 m まで掘削したが、全て地下鉄東西線出入口建設時に開削されており、石垣は残存していなかった。攪乱土中から、矢穴をもつ石材 1 個が出土したのみである。

3. まとめ

今回、No. 2 地点と No. 4 地点で向かい合う幅約 1.2 m (約 4 尺) の石垣を検出した。これは京極



図 55 No. 2 地点石垣（北西から）



図 56 No. 4 地点石垣（北東から）

通東側溝が石垣で護岸されていたことを示している。

また、「天明焼失前之古圖」に記載された境内の東西幅「五十九間半」を、妙満寺が当該地に移転した桃山時代の造営尺である1間＝6尺5寸で計算すると約117.2mとなる。これはNo.2地点検出石垣の西面から榎木町と東隣の一之船入町との町境の距離と一致しており、この石垣が妙満寺西端を限る施設と考えることができる。同様に南北幅「七十間四尺五寸」は約139.2mとなり、発掘調査成果から本堂の位置が動かないことを考えると、境内北端は二条通の中央まで、境内南端は押小路通を越えた南側の京都市役所北庁舎に至る広大な敷地として復原できる（図57）。

さらに、No.3地点で検出した西に約12度振った石垣は、明治28年開通の京都電気鉄道に関連する遺構である可能性が高い。同鉄道関連の遺構とすると、寺町通ではじめての検出事例であり、二条通が現在の幅になったきっかけとなるものでもあり、近代京都の発展を考える上で貴重な成果である。

（馬瀬 智光）

註

- 1) 小檜山一良・後川恵太郎・上村和直『寺町旧域（妙満寺跡・本能寺後）』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-18、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2018年
- 2) 歴史資料課行政文書担当「京都府地籍関連資料」『総合資料館だよりNo.155』（京都府総合資料館、2008）、京都府京都歴史館所蔵「上京区地籍図6 自第26組 至第30組」
- 3) 註2文献「京都府地籍関連資料」、京都府京都歴史館所蔵「上京区地籍図7 自第31組 至第33組」

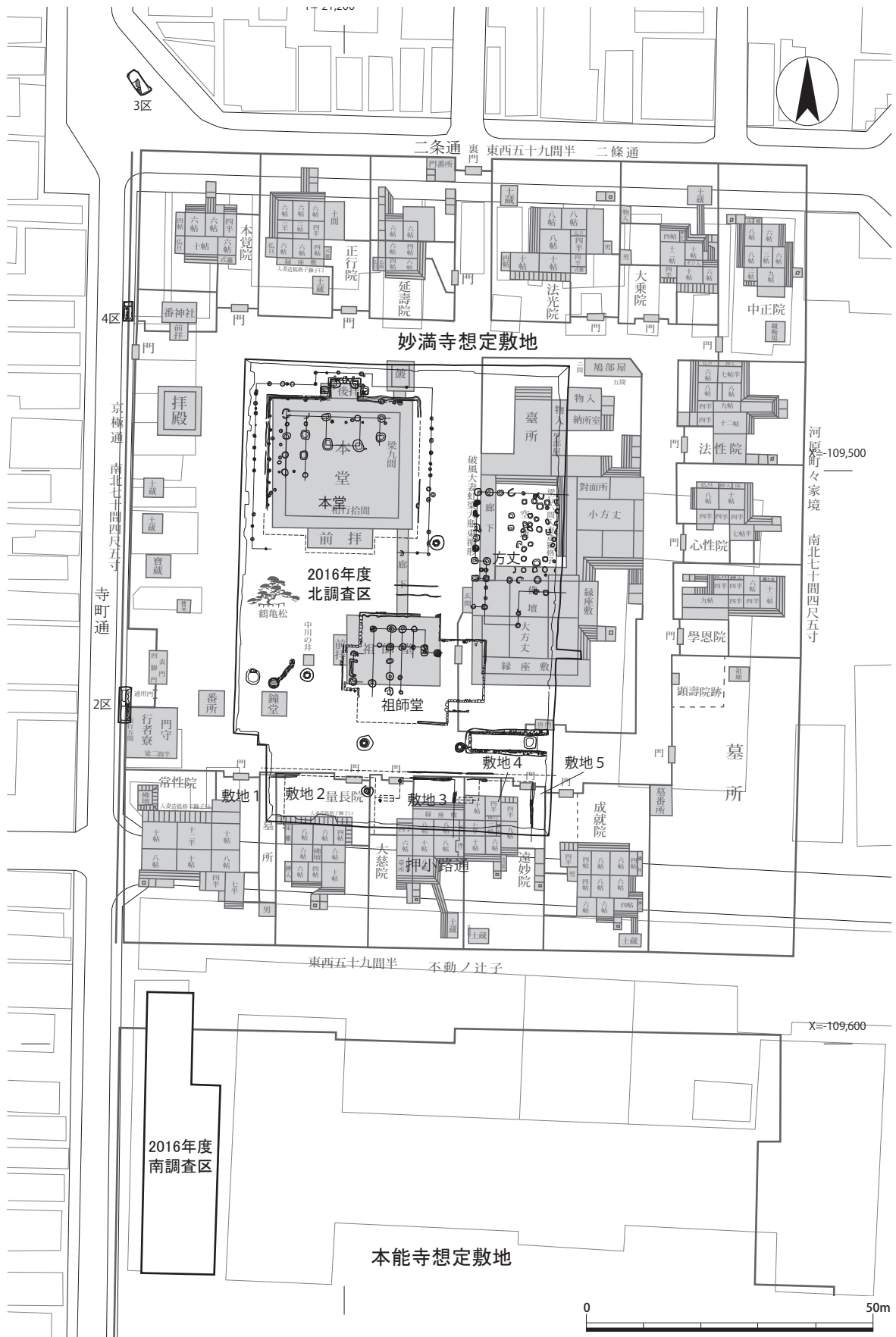


図 57 調査地点と妙満寺跡復原図 (1 : 1,000)

調査一覧表

I 2024年 1～3月期(令和五年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・仁和寺街道千本東入西富仲町463の一部	1/16	GL-0.22mで黄褐色シルトの地山、-0.46～-0.59mで灰黄褐色砂礫。	23K373	HQ 374	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道千本東入西富仲町463の一部	2/19・21・26	GL-0.1mまで盛土。	23K365	HQ 423	1
大宿直跡、聚楽第跡	上・智恵光院通中立売下る山里町241-13	1/22	GL-1.45mまで盛土。	23K481	HQ 387	1
大蔵庁跡	上・仁和寺街道七本松西入二番町197-15(1号地)	1/9	GL-0.38mまで盛土。	23K392	HQ 358	1
大蔵庁跡	上・仁和寺街道七本松西入二番町197-2(2号地)	1/15	GL-0.25mまで盛土。	23K298	HQ 367	1
右近衛府跡、鳳瑞遺跡	上・西上之町278	3/21	GL-0.19mでにぶい黄褐色礫混粘質土、GL-0.3～-0.42mで黄褐色粗砂混粘質土の地山を切って暗褐色礫混粘質土の近世土坑(土師器)。	23K546	HQ 466	1
内裏跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入田中町434-1、434-6	1/30	GL-0.37mまで盛土。	23K335	HQ 389	1
右兵衛府・内匠寮跡、鳳瑞遺跡	上・下立売通御前西入西東町地先	1/16～2/2	GL-0.65mまで盛土。	23K156	HQ 372	1
典薬寮跡	中・西ノ京車坂町5-5の一部	1/18	GL-0.5mで黄色シルトの地山。	23K398	HQ 377	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町104-8	2/7・8	GL-0.25mまで盛土。	23K485	HQ 404	1
豊楽院跡	中・聚楽廻中町45-1	2/19・20	GL-0.06～-0.12mで暗褐色粘質土。試掘調査後の詳細分布調査。	23K263	HQ 421	1
豊楽院跡、聚楽遺跡	中・聚楽廻中町27-28	3/27	GL-0.28mで黄色粘質土、-0.32～-0.37mで褐色砂泥の近世包含層。	23K591	HQ 474	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	中・聚楽廻中町27-2の一部	1/19	GL-0.15mまで盛土。	23K414	HQ 380	1
内舎人跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入中務町490-57	3/15	GL-0.15mで黒褐色粗砂混シルトの近世包含層(土師器、施釉陶器)、-0.45～-0.6mで黒褐色粘土質シルトの時期不明包含層。	23K594	HQ 462	1
大炊寮跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町535-124、535-125	1/25	GL-0.4mまで盛土。	23K489	HQ 390	1
大炊寮跡、二条城北遺跡	上・左馬松町780-2地先	2/16・26	巡回時掘削終了。	23K372	HQ 419	1
式部省跡	中・聚楽廻南町31-2の一部(A号地)	3/13	GL-0.5mまで盛土。	23K558	HQ 461	1
式部省跡	中・聚楽廻南町31-2の一部、31-3の一部(B号地)	3/13	GL-0.5mまで盛土。	23K557	HQ 460	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺北辺二坊六・七町、一条二坊九・十・十一・十六町跡	上・東橋詰町～鷹司町地内	2/19～12/23	GL-0.2～-0.35mで黄褐色粘質土の時期不明包含層(土師器)。No.8；GL-1.1～-1.4mで黄褐色泥砂。	23H471	HL 422	2
北辺三坊八町跡、公家町遺跡	上・京都御苑3	3/15	GL-0.4mまで盛土。	23H551	HL 463	3
北辺四坊六町、一条三坊十四町、一条四坊八・十二町、二条四坊十六町跡、公家町遺跡、京都新城跡、旧二条城跡、烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	23/12/19・20、24/2/22、3/13	No.1；GL-0.2mでにぶい黄褐色泥砂の近世以降包含層(土師器、瓦)、-0.5mで明黄褐色粗砂、-0.7mで灰黄褐色泥砂の近世整地層を切って黒褐色砂泥の近世土坑。No.2；GL-0.3mで褐色泥砂、-0.6mで灰黄褐色泥砂を切ってにぶい黄褐色泥砂の近世・近代以降落込、-0.8mで灰黄褐色泥砂の近世・近代整地層。	23H426	HL 344	3・17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺四坊六町、 二条四坊一町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	1/22・23・ 24・30	No.2 ; GL-0.08mで明黄褐色砂質土、-0.2mでに ぶい黄褐色礫混粘質土（炭化物）の時期不明包 含層（瓦）、-0.35~-0.46mでオリーブ褐色粗砂。 No.7 ; GL-0.21mでにぶい黄褐色砂泥、-0.27mで 灰黄褐色泥土（焼土混）、-0.42~-0.48mで灰黄 褐色砂泥（砂礫混）の江戸包含層（土師器・瓦）。	23H483	HL 384	3・ 17-3
一条四坊十町跡、 公家町遺跡、 京都新城跡	上・京都御苑2の一部	23/6/12~ 24/12/16	GL-0.15mでにぶい赤褐色泥砂（炭含）、-0.35m でにぶい黄色泥砂、-0.4m~-1.0mで焼け瓦・ 石を含む廃棄土坑。	20H383	HL 098	3
二条四坊十六町跡、 公家町遺跡、 京都新城跡、 烏丸丸太遺跡	上・京都御苑3	2/6・7	GL-0.27mで黄褐色礫混粘質土、-0.45mでオリ ーブ褐色砂質土、-0.55mで暗灰黄色砂質土、-0.69m で暗褐色粘質土（焼土多量混）の時期不明包含層 （陶器）、-0.79mで黄褐色粘質土。	23H511	HL 403	3
三条一坊一・二町跡	中・西ノ京北聖町68-5	1/10	GL-0.5mまで盛土。	23H401	HL 364	2
三条一坊四町跡	中・西ノ京南聖町17-12~16の各一部	3/28	GL-0.4mまで盛土。	23H391	HL 475	2
三条一坊十二町跡	中・西ノ京池ノ内町30-54	1/19	GL-0.25mで灰黄褐色シルト、-0.55mで褐灰色シル ト、-0.62mで青灰色シルト、-0.72mで青灰色 粘土の地山。	23H451	HL 379	2
三条三坊一・二・ 七・八・九・十・ 十五・十六町跡、 烏丸御池遺跡、 妙覚寺城跡、 二条殿御池城跡	中・二条通~御池通、西洞院通~ 烏丸通 地内	1/5~3/26	GL-0.7mで灰黄褐色泥砂、-0.95mでにぶい黄色 砂礫、-1.15~-1.3mで黄褐色砂礫。	22H238	HL 357	3
四条一坊三町跡	中・壬生御所ノ内町13	2/13~	GL-0.48mで黄灰色砂質土、-0.57~-0.67mで褐 灰色泥砂+褐色泥砂の平安中期整地層を切って 褐灰色砂質土の平安後期土坑及びピット（土師 器、須恵器）。	20H249	HL 411	4
四条二坊二町跡	中・畳屋町420-1、上黒門町391-1	2/16	GL-0.5mまで盛土。	23H433	HL 420	4
四条三坊八町跡、 烏丸御池遺跡	中・新町通三条下る三条町329	3/27、4/1	GL-2.4mまで盛土。	23H604	HL 473	5
四条四坊一町跡、 烏丸御池遺跡	中・六角通高倉西入藤屋町179-2、 179-3、175	23/12/19、 24/2/13~20	GL-1.08mで黄灰色泥砂（炭化物混）、-1.64~ -1.87mで暗灰黄色砂泥。	23H301	HL 345	5
四条四坊五町跡	中・錦小路通柳馬場西入中魚屋町 505、507、509-9、511-2	3/25・27・ 28、4/2	GL-1.59mで灰黄褐色泥砂を切って褐灰色泥砂の 江戸土坑、-1.64mでにぶい黄褐色泥砂を切って 黒褐色泥砂の時期不明ピット、-1.77mで黄褐色 細砂、-2.44mでにぶい黄褐色細砂~粗砂。	23H443	HL 470	5
四条四坊十三町跡	下・奈良物町364	2/26	GL-2.7mまで盛土。	23H276	HL 409	5
五条一坊七町跡	中・壬生賀陽御所町49、50-1	23/12/20・ 21・27・ 24/1/9・23・ 25、2/1・6・ 13、12/12	No.3 ; GL-0.37mでにぶい黄褐色シルト、-0.54m で黄褐色シルト、-0.73mでにぶい黄褐色シルト （炭含）の時期不明包含層、-0.92mで明黄褐色シル トの地山、-2.07~3.19mで褐灰色砂礫。No.4 ; GL-1.04mで明黄褐色シルトの地山を切って黄褐 色泥土の時期不明土坑、-1.73~-2.16mで灰色微 砂（礫混）。No.5 ; GL-0.7mで褐灰色砂泥の時期不明 包含層、-0.85mで灰黄褐色砂泥の時期不明包 含層、-1.1mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包 含層を切って灰黄色砂泥礫混とにぶい黄褐色泥砂 の近世土坑、-1.4mで明黄褐色シルトの地山を切っ てにぶい黄褐色砂泥の時期不明ピット、-1.7mで 明黄褐色砂質土、-2.3~-2.65mで灰色微砂小礫混。	19H595	HL 347	4
五条一坊八町跡、 本隆寺の構え跡	中・壬生賀陽御所町58-1、59	3/28~4/10	平安前期~鎌倉のピット群を検出。 本報告 6ページ。	23H548	HL 476	4
五条二坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通高辻下る麓町626	3/19・21・ 22	GL-1.8mまで盛土。	23H417	HL 465	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・醒ヶ井通六条上る佐女牛井町 149	2/26-3/18	No.2 ; GL-1.0mで暗褐色シルトの鎌倉整地層（土師器）を切って黒褐色砂質土の室町土坑（土師器、須恵器）、-1.42mで黒褐色泥砂の鎌倉整地層を切って暗灰黄色砂質土の鎌倉土坑（土師器）、-1.56~-1.82mで灰オリーブ色砂質土の鎌倉整地層。No.4 ; GL-0.55mで黒褐色泥砂、-0.85mで黒褐色粘質土の鎌倉土坑（土師器）、-1.0mで黒色粘質土の鎌倉土坑（土師器）、-1.32mで褐灰色砂礫の地山、-1.6~-2.7mで明褐色砂礫。No.5 ; GL-0.67mでにぶい黄褐色泥砂、-0.95mで暗灰黄色細砂の時期不明整地層を切ってにぶい黄褐色砂質土の平安土坑3基（土師器）、-1.16~-1.5mで明褐色砂礫の地山。	23H389	HL 439	4
六条四坊十一町跡	下・五条通河原町西入本覚寺前町 811他	23/12/27~ 24/1/26	GL-1.15mでにぶい黄褐色中砂、-1.36mでにぶい黄褐色細砂、-1.46mで暗褐色細砂の時期不明整地層、-1.72~-1.86mで黄褐色中砂。	23H306	HL 355	5
六条四坊十三町、 七条四坊十・十一・ 十二・十六町跡	下・梅湊町他 地内	23/9/7~ 24/6/10	No.5 ; GL-0.75mで黄灰色砂礫、-1.01mで黄灰色シルト、-1.3mで黄灰色粗砂、-1.47~-1.7mでにぶい黄色粗砂。	23H096	HL 209	5・7
七条一坊十六町跡	下・松屋町通丹波口下る突抜一丁目 327	1/18~2/13	GL-0.25mで暗褐色泥砂、-0.48~-0.59mで灰黄褐色砂質土。	23H452	HL 378	6
七条二坊十四町跡	下・西洞院通正面下る鍛冶屋町428他 5筆	1/22~4/2	No.3 ; GL-0.83mで黄褐色粘質土、-0.98mで黒褐色砂質土を切って灰色粗砂混粘質土（固く締まる）の時期不明土坑（土師器）、-1.16~-1.28mで黄灰色粘質土。No.11 ; GL-0.34mでオリーブ褐色砂泥の近世包含層（土師器）、-0.41~-0.47mで明黄褐色礫混砂質土の時期不明包含層（土師器）。No.13 ; GL-0.31mで褐色砂泥（焼土混）、-0.46mでにぶい黄褐色泥砂、-0.57~-0.65mで褐灰色砂泥の時期不明包含層。	23H290	HL 385	6
七条三坊二町跡	下・東若松町830	23/12/25~ 24/1/25	GL-1.0~-1.3mで黒褐色中砂の時期不明包含層。	23H402	HL 353	7
七条四坊十二町跡、 御土居跡	下・七条通河原町東入材木町454-3	23/12/4~ 24/1/12	GL-0.66mで明黄褐色粗砂の氾濫堆積、-1.3mで灰黄色粗砂の氾濫堆積。	23H287	HL 322	7
九条二坊十二町跡、 御土居跡	南・西九条蔵王町3、4	3/21・22・ 25・26	GL-0.68mでにぶい黄色粗砂~砂礫の時期不明整地層、-0.82mで黄灰色礫混粘質土の鎌倉の整地層（土師器）、-1.14~-1.24mで灰黄色礫混粘質土の時期不明整地層。	23S407	HL 464	6

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊一町跡	上・一条通御前西入大東町98、100、 103、101-1、御前通一条上る東堅町 115-2	1/11・12	GL-0.24mで灰黄褐色泥砂の旧耕作土、-0.32mで明黄褐色細砂の地山を切って黒褐色泥砂の平安ピット。	23H226	HR 365	9
北辺三坊二町跡	北・大將軍南一条町92	1/22・23	GL-0.16mで暗褐色礫混砂質土、-0.4~-0.59mで淡黄色粗砂の地山。	23H292	HR 381	8
一条二坊五町跡	中・西ノ京鹿垣町45	1/22	GL-0.31~-0.57mで暗褐色砂泥の時期不明包含層（施釉陶器）。	23H294	HR 383	9
二条二坊十一町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京南上合町94	3/22、4/9	GL-1.3mまで盛土。	23H505	HR 467	9
三条一坊五町跡、 壬生遺跡	中・西ノ京小倉町1-2の一部	2/26~4/5	GL-0.66mで灰黄褐色砂泥の平安包含層、-0.74mで褐灰色泥土、-0.79~-0.82mで灰白色シルトの地山。	23H438	HR 440	9
五条二坊三町跡	中・壬生土居ノ内町42-3の一部	3/22	GL-0.5mまで盛土。	23H549	HR 468	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊八町跡、御土居跡、壬生遺跡	中・壬生西土居ノ内町17	2/15・19	GL-0.58mで褐灰色砂泥の旧耕作土、-0.64mで灰黄色泥砂（細礫混）、-0.78mで暗灰黄色粗砂、-0.88mでオリブ黒色粘質土の地山、-1.01mで明青灰色粘土、-1.6mで灰白色微砂、-1.71~-1.82mで暗灰色粘土。	23H381	HR 415	11
五条三坊十二町跡	右・西院太田町8-1、8-2	1/25	GL-2.1mまで盛土。	23H458	HR 391	10
六条二坊九・十六町跡、西院遺跡	右・西院西高田町23	23/12/27、24/12/12	GL-1.0mまで盛土。	23H408	HR 354	11
七条一坊二・七町跡、御土居跡、堂ノ口町遺跡	下・朱雀分木町21-1の一部他	2/26・29、3/1・13	GL-2.5mまで盛土。	23H460	HR 441	13
七条二坊八町跡	下・西七条西石ヶ坪町5の一部、6-2の一部	23/4/11、24/12/12	GL-0.75mまで盛土。	22H327	HR 017	13
八条二坊一・二町跡、衣田町遺跡	下・西七条石井町61	2/9~3/5	GL-0.6mまで盛土。	23H394	HR 410	13
八条二坊二町跡	下・西七条石井町76	1/15・16	GL-0.69~-0.9mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	23H390	HR 369	13
九条一坊十一町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町（唐橋西寺公園内）	2/13	GL-0.1mで黒色粘質土、-0.18mで灰黄褐色泥砂、-0.25mで暗灰黄色砂礫を切って灰オリブ色砂泥の平安土坑（土師器、瓦）、-0.48~-0.65mで灰色砂。	5N064	HR 412	13
九条四坊六町跡	南・吉祥院中河原里西町17	2/15	GL-0.65mで暗青灰色シルト、-0.75~-0.83mで浅黄色シルト。	23H482	HR 416	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨伊勢ノ上町16他	3/12・13・15	GL-0.15mまで盛土。	23S593	UZ 459	25-1
南野古墳群	右・嵯峨広沢南下馬野町21-22~25-1地先	23/9/13~24/5/28	GL-0.2mでにぶい黄褐色粘土、-0.35mでにぶい黄褐色砂泥、-0.45mで黄灰色砂泥、-0.85~-1.15mで灰黄褐色シルト。	23S288	UZ 223	25-1
市指定史跡妙光寺境内	右・宇多野上ノ谷町20	23/6/8~24/7/4	開山堂跡の後堂（印金堂）で礎石1石を新たに検出。本報告25ページ。	23A010	UZ 479	21
円宗寺跡	右・御室芝橋町1-4、30-4、30-3、1-3、1-22	23/10/6~24/4/8	GL-0.39mで灰白色微砂（礫混）の地山、-0.98mで明黄褐色微砂（礫混）、-1.35~-1.64mで明黄褐色粘土。	18S397	UZ 253	21
円宗寺跡	右・御室小松野町18-7	23/12/14、24/1/24	GL-0.54mまで盛土。	23S387	UZ 339	21
仁和寺院家跡	右・宇多野馬場町26の一部	1/26・29	No.1：GL-0.34mでにぶい黄褐色粘土、-0.51~-0.59mで明黄褐色シルト（礫混）の地山。No.2：GL-0.18~-0.4mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層を切って灰黄褐色砂泥の鎌倉後期落込（土師器）。	23S346	UZ 395	21
仁和寺院家跡	右・宇多野長尾町9、9-5、9-6、9-9	3/11・12・13	GL-0.2mでオリブ褐色礫混シルトと黄褐色粗砂混シルトの北へ下がる互層の包含層（土師器）、-0.3~-0.7mで黄褐色粗砂混粘土質シルトの地山。	22S304	UZ 458	21
仁和寺院家跡	右・宇多野福王子町~御室双岡町地内	2/26~12/23	GL-0.5m橙色砂礫の地山。	23S366	UZ 442	21
仁和寺院家跡	右・宇多野長尾町25-1~1-36地先	3/8~4/3	GL-0.22mでにぶい黄褐色シルトの土壌化層、-0.4mで黄褐色シルトの地山、-0.6~-1.7mで橙色砂礫。	23S582	UZ 457	21
仁和寺院家跡	右・常盤山下町5-3~常盤御池町15-1地先	3/1・5・13・19	GL-0.5mで暗褐色粗砂混シルトの中世包含層、-0.75~-0.9mで黒褐色シルト（炭化物含）。	23S515	UZ 448	21
仁和寺院家跡	右・花園岡ノ本町4-13	23/7/31~24/12/23	GL-0.3~-0.9mで褐色砂礫（岩盤片）の地山。	21S453	UZ 165	21
常盤東ノ町古墳群、常盤仲之町遺跡	右・太秦ノ井町32-22の一部	3/4	GL-0.4~-0.63mでにぶい黄褐色砂礫。	23S486	UZ 450	21
常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内	右・太秦西峰岡町9-1他	2/5・8	GL-0.6mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層、-0.8~-1.37mで黄褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色砂泥の時期不明ピット2基。	23S454	UZ 400	21

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
和泉式部町遺跡	右・太秦森ケ西町20-3	2/9・15	No.1 ; GL-0.2mで明黄褐色砂泥の時期不明包含層、-0.3mの黒褐色泥砂の時期不明包含層を切ってにぶい橙色泥砂のピット。No.2 ; GL-0.25mで黒褐色泥土の古墳包含層（土師器）、-0.5mでにぶい黄色微砂（礫混）、-0.63~-0.78mで明黄褐色シルト。	23S341	UZ 408	21

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鞍馬山経塚群	左・鞍馬本町162	3/6・7	巡回時掘削終了。	23S524	RH 453	17-1
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2 (2号棟)	2/20	GL-0.25mまで盛土。	23S207	RH 426	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2 (3号棟)	2/20	GL-0.25mまで盛土。	23S208	RH 427	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2 (8号棟)	2/22・26	GL-0.71~-0.92mで明黄褐色礫混粘質土。	23S213	RH 433	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2 (10号棟)	2/22・26	GL-0.2mまで盛土。	23S215	RH 434	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町69-2 (11号棟)	2/22・26	GL-0.2mまで盛土。	23S216	RH 435	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (1号棟)	2/20	GL-0.25mまで盛土。	23S204	RH 424	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (7号棟)	2/20	GL-0.25mまで盛土。	23S212	RH 428	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (9号棟)	2/20	GL-0.25mまで盛土。	23S214	RH 429	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (4号棟)	2/21	GL-0.3mまで盛土。	23S209	RH 430	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (5号棟)	2/21	GL-0.2mまで盛土。	23S210	RH 431	17-2
醍醐ノ森瓦窯跡隣接地	北・西賀茂中川上町69-2 (6号棟)	2/21	GL-0.25mまで盛土。	23S211	RH 432	17-2
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町641-23	2/15~3/4	GL-0.45mまで盛土。	23S538	RH 417	22
植物園北遺跡、芝本瓦窯跡、松ヶ崎廃寺	左・松ヶ崎芝本町~松ヶ崎小竹藪町地内	23/10/2~24/9/4	No.14 ; GL-0.3mで暗灰黄色砂礫の旧表土、-0.4~-1.2mでオリブ褐色砂礫の地山を切ってオリブ褐色砂泥の時期不明土坑。No.30 ; GL-0.3mで青灰色シルト、-0.65mで暗灰黄色砂泥（土師器）、-0.95~-1.3mで暗褐色シルト。	23S166	RH 245	22・25-2
植物園北遺跡	北・上賀茂池端町15-1の一部	1/18	GL-0.15mまで盛土。	23S338	RH 376	25-2
植物園北遺跡	北・上賀茂石計町58	1/30	GL-0.16mで黄灰色泥土の旧耕作土、-0.24mで明黄褐色シルト。	23S281	RH 396	25-2
植物園北遺跡	左・下鴨北芝町35-1、35-4	2/22	GL-0.42~-0.56mで褐色礫混粘質土。	23S496	RH 438	25-2
今宮神社	北・紫野今宮町93	1/22・23	GL-0.31~-0.49mまで橙色砂礫。	23H293	RH 382	16
御土居跡	北・紫野花ノ坊町16-1地先	3/4	巡回時掘削終了。	23S463	RH 449	16
御土居跡	北・紫野南花ノ坊町8-5	1/15	GL-0.15mまで盛土。	23S388	RH 368	16
北野天満宮、史跡御土居	上・馬喰町	23/10/2~24/12/20	No.9 ; GL-0.21mで黒色シルト、-0.28mで灰黄褐色微砂、-0.35mで褐色砂泥（礫混）を切って黒褐色シルトの時期不明土坑2基、-0.48mで灰黄褐色砂礫、-0.69mで灰黄色微砂、-0.87~-1.3mで灰黄色粗砂。No.10 ; GL-0.16mで黒褐色砂泥、-0.27mで黒褐色泥土（土師器）、-0.4mで灰黄色砂礫、-0.55~-1.16mで灰黄色砂礫。No.14 ; GL-0.13mで黒褐色シルト、-0.22mで灰黄褐色砂泥を切って江戸の漆喰溝、-0.36~-1.07mで浅黄色砂礫の地山を切って黒褐色泥土の時期不明土坑・溝。No.24 ; GL-0.32mで浅黄色細砂の時期不明包含層（土師器）、-0.41~-0.48mで黒褐色シルト。No.29 ; GL-0.21~-0.6mで径1~3cmの礫含む褐色中砂の御土居構築土か。No.34 ; GL-0.15~-0.45mで黒褐色細砂混シルトの江戸包含層（土師器皿、伏見人形）を切って灰黄褐色細砂混シルトの江戸溝。	23S260	RH 247	16
北野遺跡	北・北野紅梅町48	1/10・11	GL-0.43m~-0.67mで黒色泥砂の時期不明整地層を切ってにぶい黄褐色泥砂の時期不明土坑。	23S379	RH 363	16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
雲林院跡、 寺ノ内旧域	北・北大路通～鞍馬口通、大徳寺 通～堀川通 地内	23/5/24～ 24/5/22	No14；GL-0.15mで黒褐色シルトの時期不明包含層、-0.7～-1.25mで浅黄色小礫混泥砂の地山。 No17；GL-0.25mで黄灰色シルト、-0.3～-0.4mで暗褐色シルトの時期不明包含層（土師器）。 No21；GL-0.15mで黒褐色シルト、-0.2mで暗褐色シルトの時期不明包含層（土師器）、-0.35～-0.4mでにぶい黄褐色礫混シルト。No22；GL-0.15～-0.4mで黒色シルトの地山を切って灰黄褐色泥砂の時期不明土坑（土師器）。No49；GL-0.5mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.6～-1.1mで明黄褐色シルト～シルト質極細砂の地山。	22S563	RH 084	16・ 17-3
相国寺旧境内、 上京遺跡	北・小山下総町～上・相国寺門前町 地内	1/5～3/19	No1；GL-0.5～-0.81mで黒褐色シルトの時期不明包含層。No6；GL-0.8mで灰黄褐色細砂、-0.85～-0.95mで褐色シルト。	22S378	RH 356	17-3
上御霊遺跡、 相国寺旧境内	上・上御霊横通寺町西入上御霊馬場町 366-8、366-9、366-13の一部	3/29、4/1・ 2	No2；GL-1.25mで暗褐色礫混粘質土の時期不明包含層（土師器）、-1.66mで明黄褐色粘質土の地山、-1.88～-2.02mでにぶい黄褐色砂礫。No3；GL-0.42mで灰黄褐色砂泥の時期不明包含層、-0.55mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層を切って褐色砂泥の近世土坑（土師器、平瓦）、-0.7～-1.56mでにぶい黄褐色シルトの地山。	23S614	RH 478	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
修学院雲母城跡 隣接地（水飲遺跡）	左・修学院杉谷	23/12/22～ 24/12/23	平坦面を確認。平安の土師器を採集。	23A006	KS 352	29-3
吉田上大路町遺跡、 白河街区跡	左・東大路通、近衛通～春日北通他 地内	23/10/31～ 24/6/26	No8；GL-0.8mで褐色砂泥、-0.95mで褐色砂泥の中世包含層、-1.1mでにぶい黄褐色シルト、-1.3～-1.4mで淡黄色粗砂。No9；GL-0.76～-1.06mでにぶい黄褐色粘質土を切って黄色砂泥の弥生土坑（弥生土器）。	23S145	KS 289	23
白河街区跡	左・岡崎西福ノ川町1～24 地先	23/7/26～ 24/2/16	GL-0.3～-0.5mで黒色中砂の近世包含層。	23S187	KS 156	23
尊勝寺跡、白河 街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎西天王町	1/25	GL-2.63mで灰白色粗砂、-3.05mで明黄褐色微砂、-3.29～-4.27mで灰白色粗砂。	23R413	KS 392	23
尊勝寺跡、白河 街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎西天王町～岡崎最勝寺町 地内	2/14～4/8	No2；GL-0.8mで黒褐色泥土、-1.05～-1.25mで暗灰黄色砂泥の近世包含層。No6；GL-0.4mで暗灰黄色砂泥、-0.75mで灰黄色泥砂、-1.0～-1.25mで灰色砂泥。	23R359	KS 413	23
法勝寺跡、白河 街区跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町1	1/10・12	GL-1.05mまで盛土。	23R202	KS 359	23
公家町遺跡	上・寺町通広小路上る染殿町 地先	3/25	GL-1.0mで焼土層、-1.25mでにぶい黄褐色粗砂。	23S603	KS 472	28-1
法成寺跡	上・東桜町他 地内	23/7/24～ 24/1/26	GL-0.7～-1.6mで黄褐色砂礫。	22S645	KS 154	28-1
法成寺跡	上・東桜町 地内	23/6/21～ 24/1/29	GL-1.1mで明黄褐色砂礫。	23S011	KS 111	28-1
寺町旧域	上・寺町通荒神口下る松蔭町134の 一部	1/10	GL-0.3mまで盛土。	23S405	KS 362	28-1

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
祇園遺跡	東・祇園町北側 地内	23/9/15～ 24/9/12	№3；GL-0.35～-0.45mで黄褐色泥砂。№11； GL-0.9～-1.0mで褐色シルトの地山。	22S551	RT 227	24
御土居跡、寺町旧城	下・河原町通松原上る西入幸竹町 373-2 他	3/25～5/16	№2；GL-0.2mでオリーブ褐色砂礫の近代堆積層、 -0.5mで黒褐色シルトの近世包含層（土製品伏見 人形）、-0.6mで暗オリーブ褐色砂泥の近世包含 層、-0.65mで暗灰黄色砂泥の桃山～江戸初頭包 含層（土師器皿）を切って黒褐色砂泥のピット （瓦）、-0.8mで暗褐色砂泥、-1.1mで暗オリ ーブ褐色シルトの時期不明池を切って暗オリーブ褐 色砂泥の時期不明土坑、-1.8～-2.0mでにぶい黄 褐色砂礫の地山。№3；GL-0.35mで灰黄褐色砂 泥の近代堆積層、-0.6mで暗褐色砂泥の近世包含 層（土器）、-0.75mでオリーブ褐色砂泥を切っ て褐灰色砂泥の近世ピット（土器）、-1.0mでに ぶい黄褐色砂礫、-1.5mで褐色砂礫、-2.1mでオ リーブ褐色砂礫、-2.5～-3.2mでにぶい黄褐色砂礫。	23S508	RT 471	24
法住寺殿跡、 六波羅政庁跡、 方広寺跡	東・大和大路正面茶屋町530	1/22	GL-0.32mまで盛土。	23S175	RT 386	24
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り642の一部、654、 657	23/5/8～ 24/12/11	№7；GL-0.37mで淡黄色粘質土、-0.47mで暗 褐色泥砂の平安後期造成土（瓦）、-0.62mでに ぶい黄褐色泥砂の平安後期造成土（土師器）、 -1.0～-1.05mでにぶい黄褐色シルト。№33； GL-0.13mで明黄褐色砂泥、-0.18mで灰黄褐色砂 泥、-0.42mで褐灰色泥砂の時期不明包含層（瓦）、 -0.58mで黄灰色砂質土、-0.93～-1.09mで黄褐色 粗砂。№41；GL-0.36mで黒褐色シルトの時期不 明整地層、-0.44mで灰黄色微砂、-0.57～-1.14m で浅黄色泥砂。	23S049	RT 058	24
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り	3/4	GL±0mで黒褐色粗砂の化粧土、-0.05mでにぶい 黄褐色砂質土、-0.6mで灰黄褐色砂質土、-0.98m で明黄褐色の漆喰、-1.06mで石材（上面平坦で 眞仁親王墓の石室の天井石と考えられる）。	23S581	RT 451	24
法住寺殿跡	東・本町九丁目133-2、133-3、133-4、 135、138-2	1/10・15	GL-0.51～-0.69mでオリーブ褐色砂礫の地山。	23S416	RT 361	24
法性寺跡	東・本町十一丁目201～泉涌寺東林 町2-20 地先	3/8～12/12	GL-0.38～-0.5mで橙色砂礫の地山。	23S530	RT 455	24
北花山遺跡	山・厨子奥花鳥町～北花山大峰町	1/15～12/12	GL-0.45～-1.6mで明褐色砂礫の地山。	23S437	RT 370	28-2
清閑寺境内、 鳥部（辺）野	東・清閑寺ノ中山町	3/4・5	№1；GL-0.05mで黒褐色砂質土、-0.15mで黄褐 色砂礫、-0.25mで明黄褐色砂礫の地山。№2； GL-0.05mで黒褐色砂質土、-0.14mで黄褐色泥砂、 -0.28mで明黄褐色砂質土（漆喰含）。	23S550	RT 452	24・ 28-2
鳥部（辺）野	東・清閑寺清水上山町～清閑寺歌ノ 中山町	1/17～4/3	GL-0.7～-2.15mで橙色砂礫（シルト混）の地山。	23S436	RT 373	28-2
鳥部（辺）野	東・今熊野泉山町	2/21	GL-0.6mまで盛土。	23S462	RT 436	24
鳥部（辺）野	東・今熊野泉山町	2/5	巡回時掘削終了。	23S316	RT 402	29-7
人康親王山荘跡	山・安朱馬場ノ西町～御陵田山町他 地内	9/25～6/26	GL-0.5mで灰黄色泥砂、-0.65mで浅黄褐色泥砂、 -0.77mで褐灰色泥砂、-0.87～-1.0mまで褐灰色 泥砂の地山か。	23S173	RT 238	29-8
山科本願寺南殿跡	山・音羽西林36	1/25・29・ 31、2/6	GL-0.4mで黒褐色砂泥礫混、-0.5～-0.65mで明 黄褐色砂礫の地山。	23S304	RT 393	30-1
中臣遺跡	山・東野舞台町～柳辻番所ヶ口町 地内	23/5/15～ 24/4/10	№2；GL-0.8mで暗褐色砂礫の地山、-1.05mで にぶい黄褐色砂礫、-1.2～-1.52mで明黄褐色シル ト。№4；GL-0.35～-1.85mで暗褐色砂礫の地 山。№14；GL-1.1～-1.3mで浅黄褐色粗砂の地山。	22N515	RT 065	26-1
中臣遺跡	山・東野舞台町53-4	2/8	GL-0.1～-0.25mで明黄褐色シルト。	23N532	RT 406	26-1
中臣遺跡	山・西野山中臣町 地先	1/9	巡回時掘削終了。	23N420	RT 360	26-1

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見稲荷大社境内、 稲荷山古墳群、 稲荷山坊崖遺跡	伏・深草願成町～深草開土口町 地 内	23/12/4～ 24/12/23	No.1 ; GL-1.55mで浅黄色粘土の地山、-1.75～ -1.85mで灰白色粘土。No.2 ; GL-0.25～-1.1mで 浅黄色粘質土（礫混）の地山。	23S297	FD 324	30-2
安楽行院跡、 深草坊町遺跡、 貞観寺跡 伏見城跡	伏・深草直違橋六丁目～深草瓦町 伏・両替町十五丁目124、京町十丁 目1128-4	2/7～8/20 3/22・25	GL-0.45mで灰黄褐色粘質土、-0.6mで灰白色微 砂、-0.8mで明黄褐色細砂、-0.85～-1.3mで明緑 灰色シルト。 GL-0.13mで明褐色粗砂混粘質土、-0.5mで褐色 粗砂混粘質土、-1.02mで黄褐色礫混細砂の鎌倉～ 室町包含層（土師器）、-1.3mで黄色細砂、-1.5m でにぶい黄褐色粘質土、-1.6mで黒褐色粘質土の 土壌化層、-1.82mで黄褐色粘質土の地山。	23S339 23F424	FD 401 FD 469	30-3 14
伏見城跡	伏・桃山福島太夫南町89-1、89-2	2/7	GL-0.33mで黄褐色砂質土、-0.51～-0.7mで橙色砂礫。	23F457	FD 405	14
伏見城跡	伏・桃山町三河60-4	2/15	GL-0.3mまで盛土。	23F467	FD 418	14
伏見城跡	伏・道阿弥町144の一部、146の一部	1/25	GL-0.3mまで盛土。	23F364	FD 394	14
伏見城跡	伏・納屋町139、139-3、144-1、 下油掛町889-1、889-4	1/23～4/12	GL-1.4mまで盛土。	20F807	FD 388	14
伏見城跡	伏・南浜町246-2	2/1・13・16	GL-0.73mで灰黄褐色泥砂、-1.01～-1.72mで黄 橙色粗砂。	23F406	FD 397	14
伏見城跡、 指月城跡	伏・常盤町40-3～桃山町泰長老地 先	23/10/26～ 24/12/23	No.3 ; GL-0.5mでにぶい赤褐色中砂、-1.0～-1.6m で灰褐色粗砂（礫混）。No.5 ; GL-0.65mでにぶ い褐色礫混粘質土、-0.85mで明褐色砂礫の地山、 -1.0～-1.15mで黄褐色粗砂。	23F273	FD 280	14
伏見城跡、 黄金塚1号墳、 木幡ノ関跡	伏・桃山町遠山～桃山町伊庭 地内	23/5/17～ 24/1/25	No.4 ; GL-1.0～-1.3mで明黄褐色粘質シルトの地 山。No.10 ; GL-0.2～0.45mで橙色～灰色シルト～ 粗砂の時期不明造成土。No.18 ; GL-0.8mで明赤褐 色細砂、-0.9mでにぶい赤褐色シルト、-0.95mで 明褐色灰色泥砂、-1.05～-1.35mでにぶい褐色細砂。	22F578	FD 075	15

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上鳥羽岩ノ本城跡 隣接地	南・上鳥羽城ヶ前町～上鳥羽奈須野 町 地内	23/12/14～ 24/9/18	No.1 ; GL-0.95mでにぶい黄色シルト、-1.1mで 暗灰黄色砂泥の鎌倉包含層（土師器、須恵器）、 -1.4～-1.7mで灰黄色シルト。No.10 ; GL-0.55mで にぶい黄褐色砂礫、-0.8mで暗灰黄色砂泥、-0.9m で黄褐色細砂、-1.0mで黒褐色粘質土、-1.1mで 黄褐色粗砂、-1.15～-1.35mで黒褐色粘質土。 No.16 ; GL-0.5mで灰色粘質土、-0.9mでオリーブ 黒色砂泥、-1.15～-1.35mで黄灰色微砂（礫混）。	23S285	TB 338	28-4
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町 地先	2/1	GL-1.4mまで盛土。	23T465	TB 398	26-2
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田浄菩提院町	1/15・19	GL-0.62mで褐灰色粗砂の氾濫堆積、-0.65mで黄 灰色シルトの旧耕作土、-1.06mでにぶい黄色シ ルトの地山。	23T480	TB 371	26-2
久我殿遺跡	伏・久我御旅町2-221	2/14	GL-0.3mまで盛土。	23S554	TB 414	19
富ノ森城跡	伏・横大路北ノ口町他 地内	2/29	GL-0.29mでにぶい黄色泥砂、-0.56mで褐灰色泥 砂、-0.72mでにぶい黄褐色砂質土、-0.98mでに ぶい黄褐色シルト、-1.27mで明オリーブ灰色シ ルトの湿地状堆積、-1.62mで灰色シルトの湿地 状堆積、-2.0～-2.41mで明オリーブ色粘質土の 湿地状堆積。	19S683	TB 446	30-7

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺四坊一町跡、大藪遺跡	南・久世築山町190-2、191-1、191-2	2/28	GL-0.15mまで盛土。	23NG543	NG 445	18
左京四三条坊五町・八町跡	伏・羽束師菱川町109	2/22	GL-0.24～-0.31mで浅黄橙色粘質土。	23NG238	NG 437	19
左京五条四坊十五町跡、羽束師志水町遺跡	伏・羽束師志水町他 地内	2/1	GL-2.1mでオリブ灰色粘土。	23NG315	NG 399	19
左京五条四坊十六町跡、長黒遺跡	伏・羽束師志水町128	2/28	巡回時掘削終了	23NG525	NG 444	19
左京六条四坊五・六町跡	伏・淀樋爪町 地内	23/11/22～ 24/12/12	GL-0.63mで黄褐色細砂、-0.95～-1.11mでにぶい黄褐色シルト。	23NG403	NG 311	19
左京六条四坊十二・十三・十四町、七条四坊七・八・九町跡	伏・淀樋爪町～羽束師古川町 地先	23/11/20～ 24/1/26	GL-0.2mでにぶい黄色シルト、-0.5～-0.75mで黄褐色微砂。	23NG247	NG 304	19・20
左京七条四坊四町、八条三坊三・四・六・七・九・十・十五・十六町、九条二坊十二・十三・十四・十五・十六町、九条三坊一・三・四町跡、条坊外、淀水垂下津町遺跡、與杼神社旧境内、水垂築山城跡、桂川関連遺跡	伏・淀大下津町～淀樋爪町 地先	1/11～11/5	GL-3.75mまで盛土。	23NG275	NG 366	20
左京八条四坊十六町跡	伏・横大路富ノ森町70-22	3/8	巡回時掘削終了。	23NG526	NG 456	20
左京九条三坊十一町跡	伏・納所町481	3/7	巡回時掘削終了。	23NG527	NG 454	20
左京条坊外、淀城跡	伏・淀池上町147-2の一部、207	3/1	GL-0.7mまで盛土。	23NG439	NG 447	20
右京一条二坊十二・十四町跡	西・大原野上里勝山町～大原野上里鳥見町 地先	1/18～4/3	GL-0.85mでにぶい黄橙色粘質土、-1.0～-1.35mでにぶい黄褐色シルト。	22NG606	NG 375	30-8

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
松室遺跡	西・松室北河原町147-2、148-1の一部、148-2、149の一部、151の一部	2/28	GL-1.1～-1.23mで明黄褐色砂礫の氾濫堆積。	23S461	MK 443	31-1
革嶋館跡	西・山田中吉見町～川島粟田町 地内	23/8/28～ 24/12/23	No.7；GL-0.45～-0.65mで灰黄色シルトの中世包含層（土師器）。No.8；GL-0.25mで明黄褐色シルト～細砂の地山。	23S072	MK 197	27-1
檜原遺跡、檜原廃寺跡	西・檜原内垣外町21 地先	2/20	巡回時掘削終了。	23S512	MK 425	27-1
檜原廃寺跡、檜原廃寺瓦窯跡	西・檜原内垣外町4-20 地先	2/8	巡回時掘削終了。	23S513	MK 407	27-1
史跡乙訓古墳群（芝古墳）、芝古墳群	西・大原野石見町632-3	23/7/11～ 24/1/23	GL-0.25mで褐色泥砂（礫混）、-0.40～-0.86mで褐色泥砂（礫混）の地山。	5N008	MK 133	31-2
大藪遺跡、中久世遺跡	南・久世殿城町481-1	23/9/29～ 24/1/9	GL-1.1mまで盛土。	22S137	MK 244	18

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
周山城跡	右・京北下熊田大迫 地先	3/20	石積み崩落状況の確認。	23A009	UK 477	27-2

II 2024年 4～12月期(令和六年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・七本松通一条下る三軒町64-11	4/15	巡回時掘削終了。	23K624	HQ 017	1
大蔵省跡	上・千本通一条下る西側西中筋町19-118	12/10	GL-0.2mまで盛土。	24K367	HQ 346	1
大蔵省跡	上・仁和寺街道千本東入西富仲町683-5の一部、684-1の一部、685-8	7/22	GL-0.5mまで盛土。	24K181	HQ 158	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町154-2地先	10/4	巡回時掘削終了。	24K314	HQ 256	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町154-2	7/17	GL-0.3mまで盛土。	24K053	HQ 156	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町154-2	7/17	GL-0.3mまで盛土。	24K052	HQ 155	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・中立売通浄福寺西入加賀屋町405の一部(B棟)	9/30	GL-0.28mで赤褐色粘質土、-0.36～-0.58mでオリブ褐色砂質土。	24K277	HQ 251	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・中立売通浄福寺西入加賀屋町405の一部、405-2(A棟)	9/30、10/1	GL-0.28mで暗オリブ褐色礫混粘質土、-0.36～-0.47mで褐色粘質土。	24K276	HQ 250	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・浄福寺通中立売下る菱丸町169	10/2	GL-0.45mまで盛土。	24K289	HQ 254	1
大蔵省跡、聚楽第跡	上・一条通浄福寺西入草堂之内町308-1	11/18	GL-0.15mまで盛土。	24K359	HQ 311	1
大蔵庁跡	上・鳳瑞町229-1	6/5・6	GL-0.3mで黒褐色泥砂の江戸土坑(糞を確認)。嶋左近の墓伝承地。	24K109	HQ 091	1
正親司跡	上・鳳瑞町222、222-9	12/10・13	GL-0.25～-0.31mでにぶい黄褐色砂泥。	24K420	HQ 347	1
右近衛府跡	上・鳳瑞町232-9	4/18	GL-0.6mまで盛土。	23K566	HQ 024	1
右近衛府跡	上・三助町281-2	12/2・4	GL-0.35mまで盛土	24K414	HQ 329	1
宴松原跡	上・七番町326地先	4/3	GL-0.4mで暗褐色泥土の近世包含層、-1.0～-1.1mで明黄褐色シルトの地山。	23K598	HQ 005	1
宴松原跡	上・七本松通下長者町上る三番町257-1の一部	6/14	GL-0.2mまで盛土。	24K076	HQ 106	1
縫殿寮跡	上・二本松町22-1	7/3	GL-0.6mまで盛土。	24K160	HQ 129	1
左近衛府跡、聚楽第跡	上・出水通大宮西入東天秤町135-1の一部	7/22	GL-0.32mまで盛土。	23K574	HQ 161	1
内膳司跡	上・七番町323-1地先	6/11	巡回時掘削終了。	24K027	HQ 096	1
中和院跡、聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-10	9/24～30	GL-0.6mで黒褐色泥砂、-0.95mで明褐色泥砂、-1.1～-1.35mで灰褐色泥砂。	24K086	HQ 246	1
中和院跡、聚楽遺跡	上・千本通出水下る十四軒町410、412地先	11/21	GL-0.4mで暗褐色砂泥、-0.7～-1.3mでオリブ褐色泥土。	24K430	HQ 319	1
南所・西雅院跡	上・下立売通智恵光院西入中村町522の一部	8/9～9/13	GL-2.41mで褐色中砂、-2.6mで暗褐色シルトの土壌化層を切つてにぶい黄褐色中砂の近世ビット、-3.16～-3.88mで黄褐色シルトの地山。	24K298	HQ 189	1
西雅院跡	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-43	4/12・15	GL-0.5mまで盛土。	23K383	HQ 015	1
左兵衛府、聚楽第跡	上・大宮通出水下る家永町762	12/5・6・10	GL-0.4mまで盛土。	24K399	HQ 334	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町188-20	5/10	GL-0.35mまで盛土。	24K040	HQ 043	1
豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町70地先	4/4	巡回時掘削終了。	23K573	HQ 006	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	上・榎木町通千本東入小山町877-3地先	5/1	GL-0.4～-1.3mで暗褐色粘質土。	23K565	HQ 032	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	中・聚楽廻東町8-3	6/11	GL-2.2mまで盛土。	23K540	HQ 095	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町911	12/3	GL-0.5mまで盛土。	24K390	HQ 332	1
中務省跡・陰陽寮跡	上・竹屋町通千本東入主税町1121	11/19	GL-0.45mで暗灰黄色砂泥、-0.63～-0.83mでにぶい黄褐色シルト。	24K387	HQ 317	1
陰陽寮跡、聚楽遺跡	上・主税町953-2	6/17～10/2	GL-1.88mで淡黄色極細砂シルトの地山、-2.12～-2.29mまで灰白色粘土。	24K021	HQ 116	1
大炊寮跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町535-73	8/9	GL-0.5mまで盛土。	24K166	HQ 188	1
大炊寮跡	上・四町目802-16	9/4	GL-0.3mまで盛土。	23K487	HQ 215	1
大炊寮跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町535-58	12/4	GL-0.5mまで盛土。	24K025	HQ 333	1
大炊寮跡、二条城北遺跡	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町768-1	8/5	GL-0.4mまで盛土。	24K189	HQ 177	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大炊寮跡	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町770-1の一部	5/27	巡回時掘削終了。	23K468	HQ 066	1
御井跡	中・西ノ京車坂町15-10他	7/24・25	GL-0.46mでにぶい黄橙色砂泥、-0.52m~-0.71mで褐色粗砂の地山。	23K415	HQ 165	1
右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町8-29	9/9・27	GL-0.5mまで盛土。	24K156	HQ 219	1
式部省跡	中・西ノ京小堀町2-51	4/2	GL-0.6~-0.84mでにぶい黄橙色微砂（礫混）の地山。	23K455	HQ 004	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町31	10/18・22・24・25・28・29・30、11/12	No.2；GL-0.5mで褐色砂泥、-0.6mで明黄褐色シルト、-0.8mでにぶい黄褐色粘性泥砂、-1.09mで黄褐色シルトの地山。	24K269	HQ 277	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊二町跡	上・猪熊通中立売下る猪熊一丁目353、353-1、353-2、353-3	9/19	GL-0.6mで明黄褐色シルト、-0.75~-0.85mでにぶい黄褐色泥土。	24H239	HL 243	2
北辺二坊三町跡	上・皂莢町285	5/20	巡回時掘削終了。	24H065	HL 053	2
北辺三坊三町跡	上・花立町496-1	9/3	巡回時掘削終了。	23H371	HL 212	3
内膳町遺跡	上・中御門横町586、西橋詰町282、元福大明神町308、今葉屋町298	4/16~6/20	GL-1.25~-2.75mで明黄褐色砂礫の地山。	23H569	HL 020	2・3
一条二坊四・六町、二条三坊八町跡、二条城北遺跡、旧二条城跡、高陽院跡、烏丸丸太町遺跡	上・中御門横町586、西橋詰町282、元福大明神町308、今葉屋町298	4/16~6/20	GL-1.25~-2.75mで明黄褐色砂礫の地山。	23H569	HL 020	2・3
一条二坊五町跡、二条城北遺跡	上・長尾町99	5/20	巡回時掘削終了。	24H070	HL 052	2
一条二坊九町跡	上・紹巴町27	5/21	巡回時掘削終了。	24H066	HL 061	2
一条二坊十二町跡	上・下立売通油小路西入東橋詰町172-1他	7/9	GL-0.6mまで盛土。	24H036	HL 146	2
一条二坊十三町跡	上・東裏辻町他 地内	7/29~11/7	GL-1.1mまで盛土。	24H045	HL 170	2
一条二坊十五町跡	上・小川通出水上る茶屋町112の一部、114、115、115-2	4/11	GL-0.75mまで盛土。	23H602	HL 010	2
一条三坊一町跡	上・中長者町通新町西入仲之町270-2、273、275	8/20・22	GL-0.8~-1.1mで黒褐色中砂の中世包含層。	24H134	HL 195	3
一条三坊五町跡、旧二条城跡	上・東立売町199-6	5/21	巡回時掘削終了。	24H068	HL 062	3
一条三坊五町跡、旧二条城跡	上・下立売通室町西入東立売町193-1	5/27~6/19	GL-0.69mで褐色砂質土、-0.82mで橙色シルト、-1.05mで褐色砂礫の地山、-1.2~-1.52mまで褐色砂礫。	23H568	HL 072	3
一条三坊八町跡	上・近衛町25	5/21	巡回時掘削終了。	24H073	HL 060	3
一条四坊五町跡、公家町遺跡、京都新城跡、烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	12/9・10	GL-0.62mでにぶい赤褐色泥砂（炭含）の焼土層、-0.67mでにぶい黄色細砂、-0.77mで暗灰黄色中砂、-0.91mで浅黄色微砂、-0.95~-1.02mで黄褐色泥砂。	24H456	HL 344	3
二条三坊十五町跡、烏丸丸太町遺跡	中・車屋町通竹屋町上る砂金町407、407-1、408	5/7	GL-1.4mまで盛土。	23H577	HL 036	3
二条四坊四町跡、烏丸丸太町遺跡	中・間之町通二条上る夷町584-1	7/16~9/11	GL-0.65mで黒褐色粘性中砂の中世整地層、-0.75mでにぶい黄褐色粘質土、-0.85~-1.05mで暗黄褐色礫混粗砂。	24H032	HL 152	3
二条四坊十三町跡	中・御幸町通二条上る達磨町605	6/5	GL-0.67mで褐色砂泥、-0.98mで灰黄褐色砂質土、-1.52~-3.49mでにぶい黄褐色砂礫の氾濫堆積。	23H528	HL 087	3
二条四坊十四町跡、烏丸丸太町遺跡	中・麩屋町通夷川上る笹屋町475	6/17~7/2	GL-1.6mで黒褐色微砂混粘土質シルトの湿地状堆積。	23H354	HL 112	3
三条一坊十二町跡	中・西ノ京池ノ内町26-12	12/25	GL-0.3mまで盛土。	24H242	HL 371	2
三条三坊五町跡、烏丸御池遺跡	中・衣棚通姉小路下る突抜町118、三条通西入衣棚町46-1、47-2	9/30~10/10	GL-1.10mまで盛土。	24H142	HL 249	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条三坊十町跡	中・両替町通押小路下る金吹町452 他 地内	12/13	巡回時掘削終了。	24H084	HL 355	3
三条三坊十四町跡、 烏丸御池遺跡	中・仲保利町27付近	5/21	巡回時掘削終了。	24H057	HL 059	3
三条四坊九町跡	中・富小路通二条下る俵屋町187	10/30-11/20	GL-2.04~-2.52mで明黄褐色シルト。	24H361	HL 287	3
三条四坊十町跡、 烏丸御池遺跡	中・押小路通柳馬場東入橘町627、 628	5/13~22	GL-1.8mまで盛土。	23H421	HL 044	3
三条四坊十三町跡、 三条せと物や町跡	中・寺町通三条上る天性寺前町531-3	10/1・2・4	GL-0.27mで暗褐色砂質土、-0.44~-0.54mで明 赤褐色砂質土の焼土層。	23H321	HL 252	3
四条二坊四町跡	中・四条通大宮西入錦大宮町140、 140-1の一部	10/15・18	GL-1.78~-1.97mで明黄褐色砂礫の地山。	24H155	HL 266	4
四条三坊二町跡	中・六角通新町西入西六角町98-1	6/13	GL-1.3mまで盛土。	24H150	HL 102	5
四条三坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・四条通室町東入函谷鉾町77	5/21	GL-3.3mまで盛土。	24H112	HL 065	5
五条一坊八町跡、 本隆寺の構え跡	中・壬生賀陽御所町56-1	5/23~6/5	平安中期~鎌倉の溝、土坑を検出。 本報告6ペー ジ。	23H522	HL 067	4
五条二坊七町跡	下・綾小路通堀川西入妙満寺町 571-2	9/18~10/2	平安整地土と条坊関連遺構を検出。 本報告12ペー ジ。	24H172	HL 241	4
五条二坊八町跡、 妙満寺の構え跡	下・堀川通四条下る四条堀川町267、 269、271	11/5~12/11	No.1 ; GL-0.79mで暗灰黄色泥砂、-1.0mで黒褐色 砂泥の江戸包含層（土師器・染付）、-1.07mで にぶい黄褐色シルト、-1.34~-2.09mでにぶい黄 褐色シルトの地山。No.4 ; GL-0.42mでにぶい褐 色泥砂の近世整地層、-0.7mで灰黄褐色泥砂（礫 混）の室町整地層、-0.98mで暗灰黄色微砂~シ ルト、-1.09~-1.6mまで暗灰黄色微砂~砂礫の 河川堆積。	24H253	HL 292	4
五条二坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・松原通油小路西入橘町37、 37-1~3	5/24~6/12	GL-0.56mでにぶい黄褐色粘質土、-0.94mで灰黄 色砂質土、-1.49~-1.71mで黄褐色粗砂。	24H046	HL 069	4
五条二坊十六町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・綾小路通油小路東入芦刈山町 134-1	6/6・13	GL-0.41mで灰黄褐色シルト、-1.0mで褐色シルト の地山、-1.16~-1.43mで灰黄色砂礫。	23H592	HL 089	4
五条三坊二町跡	下・西洞院綾西洞院町730-1	5/1	巡回時掘削終了。	24H063	HL 034	5
五条三坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・室町通松原上る高辻町579-3、 580、580-1、高辻通烏丸西入骨屋 町318、320-1、320-4	7/10~9/12	No.2 ; GL-1.21mで明黄褐色粘質土（炭含）の江 戸包含層（土師器・染付）、-1.46mで黒褐色粘 質土。No.5 ; GL-1.45~-1.8mで黒褐色砂礫~礫 混シルト。	24H059	HL 149	5
五条四坊十町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・柳馬場通綾小路下る永原町 152-1、152-2、152-3	9/17・18	GL-0.9mまで盛土。	24H260	HL 234	5
五条四坊 十一・十四町跡	下・麩屋町通仏光寺下る鍋屋町249	8/6・7・13・ 21・26・28・ 30、9/4	GL-1.07mで黄灰色泥砂の鎌倉包含層（土師器羽 釜、施釉陶器）、-1.2mで灰白色細砂、-1.41mで 灰黄色泥砂、-1.56mで黄灰色砂泥（礫混）、-1.66m で灰オリープ色細砂、-1.81mでにぶい黄褐色微砂、 -1.98~-2.33mでにぶい黄褐色砂礫。	23H296	HL 181	5
五条四坊十四町跡	下・橘町他 地内	11/12~12/2	GL-1.70mまで盛土。	24H105	HL 305	5
六条一坊五町跡	下・中堂寺鍵田町14-7	12/16	GL-0.3mまで盛土。	24H295	HL 359	4
六条二坊十六町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通松原下る永倉町 547-9~11	10/17・18、 11/5	GL-1.4mまで盛土。	23H597	HL 275	4
六条三坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・五条通新町東入東鋸屋町160	4/15	平安中期~後期のピットを検出。 本報告15ペー ジ。	23H523	HL 018	5
六条三坊十二町跡	下・鍵屋町348の一部、332-4の一部、 332-11	4/11・12・ 15・16	GL-2.2mまで盛土。	23H539	HL 013	5
六条三坊十四町跡	下・不明門通五条下る上平野町461、 462	10/15	GL-0.5mまで盛土。	24H206	HL 235	5
六条四坊十六町跡	下・御幸町通松原下る須浜町663、 665の一部、665-1の一部	7/8	GL-0.9mまで盛土。	23H571	HL 141	5
七条一坊十五町跡	下・下松屋町通花屋町下る突抜式丁目 355	7/16~8/1	GL-0.63mで明黄褐色粗砂~砂礫の地山、-2.15~ -2.98mでにぶい黄褐色砂礫。	24H129	HL 153	6
七条二坊十六町跡	下・西洞院通六条下る西側町483、 483-2~6、484-2~4	5/27・31	GL-0.9mまで盛土。	24H011	HL 073	6
七条三坊一町跡	下・西洞院通六条下る東側町517、 518の各一部	11/6・8	GL-0.4mまで盛土。	24H091	HL 300	7

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
七条三坊五・六町跡、 東本願寺前古墓群	下・新町通七条上る辰巳町760他 2筆	7/4・5・8・ 9・12・16	GL-0.39mでにぶい黄褐色砂泥、-0.84~-1.41m で黄灰色泥砂。	24H133	HL 136	7
七条三坊九町跡	下・六条通室町東入東魚屋町224、 226、諏訪町通六条下る上柳町217-2、 222-2	10/8	GL-0.4mまで盛土。	24H096	HL 261	7
七条四坊十五町跡	下・加茂川端正面上る平岡町329、 331、332	12/10・12	GL-0.14mで黄灰色泥砂、-0.33~-2.74mでにぶい 黄色砂礫の地山。	24H244	HL 349	7
八条二坊八町跡、 東 市 跡	下・猪熊通下魚ノ棚下る樽屋町386・ 388・389、木津屋橋通堀川西入木 津屋町445	10/25・28、 11/8	GL-0.43mで明黄褐色泥砂の整地土、-0.51m~ -0.57mまで暗オリーブ色泥砂。	24H319	HL 285	6
八条二坊九町跡	下・東堀川通下魚棚下る鎌屋町39-1	8/8	GL-0.69mで黒褐色粗砂混シルトの近世堆積層、 -0.82mでにぶい黄褐色細砂混シルトの近世整地 層、-0.94mで黒褐色細砂混シルトの室町包含層 (土師器)、-1.24~-1.76mで黒褐色粗砂混シル トの平安末~鎌倉包含層。	23H490	HL 185	6
八条四坊九町跡	下・上之町他 地内	6/14	高瀬川護岸石垣の構築方法を解明。本報告19ペー ジ。	24H078	HL 110	7
九条一坊四町跡	南・四ツ塚町23、23-1	5/27、6/5・ 14	GL-0.65mでにぶい橙色泥砂、-0.85mで暗黄灰色 砂泥礫混の氾濫堆積、-1.25~-1.4mで暗黄灰色 砂礫の氾濫堆積。	23H580	HL 071	6
九条一坊八町跡	南・壬生通八条下る東寺町516-2、 517-1、517-2、518	10/22・24	GL-0.6mで褐灰色砂泥の旧耕作土、-0.7mで灰黄 褐色細砂の流水堆積、-0.85~-0.9mで黒褐色粗砂 (礫混)。	24H268	HL 283	6
九条二坊八町跡	南・西九条藤ノ木町13、35の各一部	11/7	GL-0.28~-0.5mで黒褐色砂泥の江戸包含層。	24H198	HL 301	6
九条三坊十五町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条西山王町3-14、3-16	4/10・12・ 15・17	No.1 ; GL-0.68mで褐灰色シルトと灰褐色シルト の旧耕作土、-1.05~-1.77mで灰白色粗砂の地山 を切って灰色粘土の平安後期土坑(土師器)。 No.2 ; GL-0.88mで氾濫堆積の灰色粗砂を切って 黒色粘質土と黒褐色シルトの平安末期~鎌倉の 土坑(土師器)、-1.52mで湿地状堆積の黒色粘 土、-1.63~-1.98mまで氾濫堆積の明黄褐色砂礫。 No.3 ; GL-0.86mで氾濫堆積の灰色粗砂を切って 黒褐色シルトの平安末期~鎌倉の土坑(土師器)、 -1.68~-2.18mまで氾濫堆積の明黄褐色砂礫。 No.4 ; GL-0.84mで氾濫堆積の灰色粗砂を切って 黒褐色シルトの平安末期~鎌倉の土坑、-1.57~ -1.86mまで氾濫堆積の明黄褐色砂礫。No.5 ; GL-0.7m で黄灰色粗砂(固くしまる)の整地層を切って 褐灰色シルトと黒褐色粘土の平安末期~鎌倉の 土坑2基(土師器)、-1.89mでにぶい黄褐色粗 砂の氾濫堆積。No.6 ; GL-0.6mで褐灰色砂泥の時 期不明包含層を切って灰白色細砂と褐灰色泥土の 時期不明土坑、-1.1~-3.1mまで灰色粗砂~小砂 礫の地山。	23H514	HL 011	7
九条四坊一町跡	南・東九条東山王町19-1	6/27、8/21	GL-1.87mで暗黄灰色粗砂、-2.09mでにぶい赤褐 色砂礫。	23H621	HL 125	7

平安京右京(HR)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊四町跡	北・大將軍一条町32-1の一部	8/28	GL-0.29~-0.35mでにぶい黄褐色シルト。	24H097	HR 206	8
一条二坊三・四町跡	上・下立売通御前西入突抜町 地先	4/1~6/24	GL-0.25~-0.65mまで黒色シルトの時期不明包含 層。	23H503	HR 001	9
一条二坊九町跡、 御 土 居 跡	北・大將軍東鷹司町141	5/8~10	GL-0.05mで黒褐色細砂混シルトの時期不明包含 層(土師器裏)、-0.12~-0.28mで褐色細砂混シ ルトの地山。	23H495	HR 040	9
一条二坊九町跡、 御 土 居 跡	北・大將軍東鷹司町201、202	8/8	GL-0.3mで暗褐色微砂混シルト、-0.52mで褐色 シルトの地山。	24H228	HR 183	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊九町跡、御土居跡	北・大將軍東鷹司町167地先	11/6	GL-0.2mで褐色シルトの地山、-0.6~-1.1mで黄褐色粗砂。	24H375	HR 298	9
一条三坊十五町跡	右・花園北長町20-3	9/17	GL-0.22mで黒褐色シルト、-0.39mでにぶい黄褐色シルト、-0.51~-0.99mで明黄褐色砂泥の地山。	23H520	HR 236	8
一条四坊四・五町跡	右・花園坤南町17-2~花園中御門町地先	10/18~11/25	GL-0.5~-0.6mで灰褐色粘質土。	24H355	HR 278	8
一条四坊十四町跡、法金剛院境内	右・花園寺ノ内町30-2他	9/2	GL-0.3~-0.85mで明黄褐色砂礫の地山。	24H264	HR 209	8
二条二坊二町跡	中・西ノ京南両町137-1、133	12/9	GL-0.2mまで盛土。	24H406	HR 343	9
二条二坊三町跡	中・西ノ京冷泉町120-1	5/7・8	GL-1.0mまで盛土。	23H630	HR 037	9
三条一坊一町跡、壬生遺跡	中・西ノ京星池町177	11/5	GL-0.35mまで盛土。	24H323	HR 293	9
三条一坊七町跡、壬生遺跡	中・西ノ京永本町14-43、14-16、14-47	6/11、8/8	No.1；GL-0.69mで褐色砂礫、-1.55~-1.73mで灰黄色砂礫。No.2；GL-0.44mで黒色粗砂混シルト（炭混）、-0.61~-1.41mでオリブ褐色砂礫の地山。	24H093	HR 098	9
三条一坊十一町跡、壬生遺跡	中・西ノ京東月光町22-13	7/4~8/26	GL-0.65mで黄褐色粗砂、-1.0mでにぶい黄褐色泥砂、-1.3mで黄褐色細砂の地山。	23H440	HR 139	9
三条一坊十三町跡	中・西ノ京西月光町28の一部	9/17	GL-0.4~-0.55mで暗灰黄色砂泥の旧耕作土。	23H632	HR 237	9
三条四坊四町跡	右・山ノ内宮前町19の一部	6/21・24	GL-0.22~-0.49mで暗褐色泥砂の近世整地層。	24H008	HR 120	8
四条一坊七町跡	中・壬生天地町25-1	10/7	GL-0.49~-0.61mで淡黄色粘土の地山。	24H340	HR 258	11
四条二坊五町跡、壬生遺跡	中・壬生淵田町25-1、25-6、25-9	5/1~9	No.1；GL-0.32mで灰黄褐色シルトの旧耕作土、-0.46mで褐色砂泥の中世包含層、-0.6~-0.8mで黒褐色砂泥の中世包含層。No.2；GL-0.24mで灰黄褐色微砂混シルトと暗褐色粗砂混シルトの旧耕作土、-0.48mで黒褐色微砂混シルトの時期不明包含層（土師器）、-0.75~-1.13mで褐色微砂混シルトの地山。	23H448	HR 033	11
四条三坊八町跡、西ノ京遺跡	右・西院春栄町3-2	11/1	GL-0.6mまで盛土。	23H435	HR 290	10
四条三坊十二町跡、西院城跡(小泉城)	右・西院乾町67	11/25	GL-0.15mで暗灰黄色砂泥、-0.3~-0.47mで黄褐色粗砂。	24H371	HR 321	10
四条四坊六町跡、山ノ内遺跡	右・山ノ内山ノ下町9、10の各一部	10/15	GL-0.3mまで盛土。	24H162	HR 267	10
五条一坊十四町跡	中・壬生下溝町46-2	12/11	GL-0.78~-1.12mで青灰色細砂。	24H348	HR 350	11
五条二坊五町跡	中・壬生西櫓町5-1	12/11	GL-0.2mでにぶい黄褐色シルト、-0.28~-0.46mでにぶい黄褐色粘土の地山。	24H381	HR 351	11
五条二坊十二町跡、西院遺跡	右・西院平町4-1、4-2、4-3の一部	2024/7/19	GL-0.35mまで盛土。	24H173	HR 157	11
五条三坊二町跡	右・西院松井町35-3	6/19	GL-0.49mで褐色シルトと粗砂混シルトの混合層、-0.69~-0.79mで褐色粘土質シルトの地山。	24H074	HR 117	10
五条三坊四町、六条三坊一町跡、西院遺跡	右・西院寿町20-2の一部	4/8~11	No.1；GL-0.65mで黄褐色シルト、-1.05mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの平安中期土坑、-1.61~-1.9mで灰黄色細砂。No.4；GL-0.68mで黄灰色シルト、-0.9mで明黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの平安土坑、-1.18~-1.43mでにぶい黄褐色粗砂~シルト。	23H589	HR 008	10
五条三坊四町跡、西院遺跡	右・西院矢掛町1	10/11~17	GL-0.5mでにぶい黄色砂質土の時期不明遺物包含層、-0.54mでオリブ褐色粘質土、-0.58~-1.46mで黄色粘質土の地山を切って黒褐色粘質土の時期不明ピット。	23H613	HR 265	10
五条三坊七町跡	右・西院北井御料町9-1	4/25	GL-0.5mまで盛土。	23H561	HR 031	10
五条三坊十四町跡、西京極遺跡	右・西院日照町101	7/23	GL-0.86mで灰黄褐色泥砂、-1.11~-1.42mで明黄褐色シルトの地山。	24H151	HR 159	10
五条三坊十六町跡、西院城跡(小泉城)、山ノ内遺跡	右・西院日照町1の一部	7/8~10/18	GL-1.74mまで盛土。	23H501	HR 142	10
五条四坊二町跡	右・西院日照町49	10/10・11	GL-0.57mで黄色砂質土、-0.76~-0.93mで黒褐色粘質土。	24H291	HR 264	10
五条四坊五町跡、西京極遺跡	右・西院月双町24-1、24-2	6/25~7/1	GL-0.47~-0.6mでにぶい黄褐色粘質土。	24H179	HR 121	10

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条四坊九町跡	右・西院安塚町14-16	9/9～17	GL-1.59mで黄灰色砂泥、-1.69～-2.75mでオリブ褐色砂泥の地山を切って黒褐色砂泥の時期不明ピット。	23H444	HR 220	10
六条一坊四町跡	下・中堂寺南町130-1の一部、131	9/27・30・10/3・4、11/7・8・11	№5；GL-0.49mで青灰色砂泥の旧耕作土、-0.61mで灰黄褐色粘土、-0.82mで黄灰色粘土の時期不明包含層、-1.3mで浅黄色シルトの地山、-1.5mで灰黄褐色細砂、-1.6mで灰オリブ色細砂、-1.83～-2.03mで明黄褐色砂礫。	24H202	HR 247	11
六条一坊九町跡	下・中堂寺庄ノ内町1-78	10/23	巡回時掘削終了。	24H301	HR 284	11
六条一坊十六町跡	下・中堂寺庄ノ内町1-136、1-143	7/1・3	GL-0.5mで暗灰黄色シルト、-0.6mで黄灰色砂礫、-0.77mで黄灰色粘質土、-0.92mで灰白色シルト、-1.2mで浅黄色シルト、-1.46mで灰黄褐色粗砂、-1.61～-2.11mで褐灰色細砂。	24H023	HR 126	11
六条二坊四・五町跡	下・西七条東御前田町5、61	5/13～20	№1；GL-0.4mでオリブ黒色細砂混シルトの旧耕作土、-0.55mで暗オリブ褐色シルトを切って黒褐色細砂混シルトの近世土坑（灰釉陶器、焼締陶器甕）、-0.8～-0.9mで暗灰黄色礫混粘土質シルトの地山。№2；GL-0.5mで黒褐色微砂混シルトの旧耕作土、-0.6mでにぶい黄褐色粗砂混シルトの中世包含層（土師器）、-0.7mで暗オリブ褐色細砂混シルト、-0.8～-0.9mで暗灰黄色砂礫の地山。	24H064	HR 045	11
六条二坊十町跡	右・西院南高田町17、18-1	11/12	GL-1.94mまで盛土。	24H316	HR 303	11
六条二坊十町跡	右・西院南高田町17-2、18-2、18-3	11/12	GL-1.85～1.87mで明黄褐色砂礫の地山。	24H317	HR 304	11
六条四坊十二町跡	右・西京極東大丸町14	9/24	GL-2.3mまで盛土	23H331	HR 245	10
七条一坊八町跡	下・朱雀分木町44、49	5/13～5/16	GL-0.41～-0.55mで褐色シルトの地山。	23H576	HR 046	13
七条二坊十三町跡、衣田町遺跡	下・西七条北衣田町10	5/20・22・24	GL-1.24mでにぶい黄色極細砂の地山、-1.29mで明黄褐色細砂、-1.37mで浅黄色粗砂～砂礫、-1.77～-2.81mで灰オリブ色砂礫（鉄分含）。	23H478	HR 051	13
七条四坊十六町跡	右・西京極堤町46の一部	10/8	GL-0.7mまで盛土。	24H265	HR 262	12
八条二坊十六町跡、衣田町遺跡	下・西七条南衣田町1-1、1-2、1-9、1-10	11/27、12/6・9・12・17	GL-1.0mで黄灰色粘土、-1.12mで褐灰色砂礫の地山、-1.48mでにぶい褐色砂礫、-2.05～-3.26mで明褐色砂礫。	24H214	HR 327	13
九条一坊四町跡、羅城門跡	南・唐橋羅城門町1-2	7/11	GL-0.13～-0.41mでオリブ黒色粗砂（礫混）の近代盛土。	24H199	HR 191	13
九条一坊十町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町36-18	9/9	GL-0.1～-0.25mで黒褐色シルト。	24H221	HR 222	13
九条四坊一・二・三・六町跡	南・吉祥院中原西屋敷町～吉祥院宮ノ東町地先	8/28～10/23	GL-0.35mでにぶい黄褐色シルト、-0.75mで灰黄褐色砂礫、-1.2mでにぶい黄色微砂、-1.45～-1.9mで黄褐色砂礫。	24H270	HR 203	12
九条四坊五町跡	南・吉祥院新田参ノ段町1、2-1、2-2	11/15	GL-0.52mで黄灰色微砂、-0.64mで黄褐色微砂、-0.81m～-1.07mまででにぶい黄色砂礫の河川堆積。	24H398	HR 309	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂門前裏柳町26-8	9/17	GL-1.2mまで盛土。	24S273	UZ 240	25-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂門前裏柳町26-10、26-11	5/31	GL-0.63～-1.14mで橙色シルト～砂礫の地山。	24S049	UZ 083	25-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺若宮町4-1	7/1・2・3	GL-0.51～-0.62mで浅黄色粗砂（細礫混）。	23S265	UZ 128	25-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺瀬戸川町3-2	6/17・18・20・25	GL-0.15mで暗褐色粗砂混シルトブロックと明黄褐色微砂混シルトブロックの時期不明包含層（土師器皿）、-0.35～-0.55mで暗褐色粗砂混シルトブロックと明黄褐色微砂混シルトブロック（炭化物含）の時期不明包含層（土師器皿）。	23S450	UZ 111	25-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺車道町33-20～6地先	5/21～6/18	№3；GL-0.65～-1.0mで明黄褐色シルトの時期不明包含層。№6；GL-0.2mで灰黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層（土師器）、-0.65～-1.3mで褐色シルトの地山。	24S058	UZ 063	25-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨遺跡	右・嵯峨折戸町20-7の一部、20-11の一部	8/7・27	GL-0.38mで暗オリーブ褐色砂質シルト、-0.47mで黒褐色粗砂混シルト。	24S168	UZ 182	25-1
嵯峨遺跡、臨川寺境内	右・嵯峨天龍寺造路町18の一部、19の一部	6/10	GL-0.5mまで盛土。	23S560	UZ 094	25-1
嵯峨折戸町遺跡	右・嵯峨中又町1	5/27	巡回時掘削終了。	24S103	UZ 076	25-1
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野神ノ木町10-3	5/27	巡回時掘削終了。	24S102	UZ 075	25-1
鳴滝藤ノ木町古墳	右・鳴滝瑞穂町18-10の一部	8/22	GL-0.16mで暗褐色泥砂の時期不明包含層（土師器）、-0.29～-0.37mで明褐色砂泥の地山。	24S201	UZ 196	21
鳴滝藤ノ木町古墳	右・鳴滝瑞穂町18-2の一部、18-10の一部	7/24・26	No.1；GL-0.26mで黄褐色泥砂、-0.38～-0.46mで黄褐色粘質土の地山を切つてにぶい黄褐色泥砂の時期不明土坑。No.2；0.24m～-0.42mで黄褐色泥砂の中世包含層（土師器）。	24S035	UZ 164	21
円乗寺跡	右・御室堅町19（市立御室小学校）	11/28～12/13	GL-0.8mまで盛土。	24S331	UZ 325	21
仁和寺院家跡	右・宇多野馬場町27-1	4/22	GL-0.55～-1.43mで黄橙色シルト（砂礫混）。	23S562	UZ 026	21
仁和寺院家跡	右・宇多野御池町17-8	5/27	巡回時掘削終了。	24S104	UZ 078	21
仁和寺院家跡	右・花園宮ノ上町1-1	5/27	巡回時掘削終了。	24S101	UZ 077	21
仁和寺院家跡	右・常盤古御所町9-8地先	10/21	GL-0.7mまで盛土。	24S310	UZ 280	21
常盤柏ノ木古墳群、村ノ内町遺跡	右・常盤村ノ内町8-43	9/9	GL-0.2mまで盛土。	24S280	UZ 223	21
森ヶ東瓦窯跡	右・太秦森ヶ東町地先	7/3	GL-0.9mまで盛土。	23S631	UZ 135	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦宮ノ前町33-2	12/9	巡回時掘削終了。	24S396	UZ 339	21
広隆寺旧境内	右・太秦蜂岡町30-3	10/9～16	GL-0.16mで淡黄色粘質土の地山を切つて暗褐色粘質土の平安以前のビット（須恵器）、褐色粘質土の時期不明ビット、-0.5mで黄色砂質土、-0.84～-1.08mで浅黄色砂礫。	24S041	UZ 263	21
西野町遺跡	右・嵯峨野千代ノ道町53	8/5	GL-1.0mまで盛土。	24S099	UZ 180	29-1
嵯峨野高田町遺跡	右・嵯峨野南浦町9、10、57、66、67、68	8/5～19	古墳～飛鳥土坑・ビット等を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』に報告。	22S603	UZ 178	29-1
嵯峨野高田町遺跡	右・嵯峨野南浦町22	5/27	巡回時掘削終了。	24S100	UZ 074	29-1

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大雲寺跡	左・岩倉上蔵町23、56、21-4	5/2	GL-1.09mで明赤褐色礫混シルトの地山、-1.95～-2.55mで浅黄橙色礫混シルト。	23S616	RH 035	22
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉忠在地町823	12/23	GL-0.37mで暗褐色礫混シルトの造成土、-0.5mで褐色粗砂混粘土質シルトの造成土、-0.68mで褐色細砂混シルトの地山。	23S492	RH 365	22
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町641-17	7/10	巡回時掘削終了。	23S559	RH 150	22
妙見堂遺跡	北・西賀茂妙見堂	8/16	3箇所の平坦面を確認。付近に磐座と考えられる巨石を確認。平坦面直下の斜面にて平安前期の須恵器等を表採。	24A007	RH 207	17-2
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1	9/12・13・18	GL-0.28mで明黄褐色シルトの地山を切つて暗褐色シルトの時期不明ビット、-0.38mで黄橙色シルト、-0.7～-1.22mで黄橙色粘土。	21S520	RH 230	25-2
植物園北遺跡	北・上賀茂石計町25	4/25・26	GL-0.43～-0.47mでにぶい黄橙色泥砂の旧耕作土。	23S596	RH 029	25-2
植物園北遺跡	左・下鴨水口町23-2、24-2の各一部、23-1、22-1、22-2	11/1・7	GL-0.53～-0.79mで灰色砂泥の旧耕作土。	24S344	RH 289	25-2
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町90	10/8	GL-0.47～-0.53mで明黄褐色泥砂の地山。	24S279	RH 260	25-2
植物園北遺跡	左・下鴨北芝町41-5の一部	5/14	弥生～古墳の竪穴建物・土坑を検出。本報告28ページ。	24S026	RH 068	22・25-2
植物園北遺跡	左・下鴨神殿町2、2-6	5/21・22	No.2；GL-0.33mでにぶい黄褐色粘質土の時期不明包含層（土師器、瓦）、-0.55mでにぶい黄色粘質土、-0.63～-0.72mで灰黄褐色粘質土を切つて灰黄色砂質土の時期不明ビット。No.3；GL-0.37mでにぶい黄褐色粘質土、-0.59mでにぶい黄色粘質土、-0.67～-0.74mで黄褐色粘質土の地山を切つて灰黄褐色粘質土の落込。	24S050	RH 064	25-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
植物園北遺跡	左・下鴨夜光町23	5/17～24	GL-0.3～-0.58mでにぶい黄褐色シルト。	24S079	RH 049	25-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町31-36、64-4、103-4	10/18	GL-0.25mまで盛土。	24S283	RH 276	16
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町31-11	6/21	GL-0.28～-0.5mで明黄褐色粘質土の地山。	23S 545	RH 118	16
御土居跡	北・衣笠北荒見町16	12/24	GL-0.55mまで盛土。	24S464	RH 366	16
大報恩寺境内、北野鳥居前遺跡	上・御前通今出川上る鳥居前町671	9/3～11/19	GL-0.4mで暗褐色粘質土、-0.6mで明黄褐色細砂、-0.65～-0.85mで灰褐色粘質土の時期不明包含層。	24S259	RH 211	16
北野製鉄遺跡、北野廃寺、北野遺跡	上・北野東紅梅町6-1の一部、6-2の一部、6-3	12/25	GL-1.13～-1.43mで黒褐色砂質シルトの時期不明包含層。	24S478	RH 369	16
北野廃寺、北野遺跡	北・北野下白梅町16-2	12/25	GL-0.58mで黒褐色細砂混粘土質シルト、-0.7mで黒褐色粗砂混シルトの整地層、-0.74～-0.87mで褐色粘土質シルトの地山。	24S 450	RH 370	16
北野廃寺、北野遺跡	北・北野下白梅町 地先	10/28	GL-0.25～-0.6mで黒褐色シルトの時期不明包含層。	24S108	RH 286	16
北野廃寺、北野遺跡	北・北野下白梅町30 地先	11/06	巡回時終了。	24S408	RH 299	16
寺ノ内旧域、上京遺跡	上・下天神町他 地内	7/31～10/11	GL-0.25mで黒褐色砂泥の時期不明包含層、-0.55mで灰黄褐色砂泥、-0.7mでにぶい黄褐色シルトの地山、-0.85～-1.2mでにぶい黄褐色シルト（礫多量混）。	24S043	RH 173	16・17-3
上京遺跡	上・元北小路町160	5/20～24	巡回時掘削終了。	24S072	RH 054	16
上京遺跡	上・南門前町420-1	5/20～24	巡回時掘削終了。	24S067	RH 055	17-3
上京遺跡	上・今出川通室町西入堀出シ町276、276-8、277-4	5/17	GL-2.39mで明黄褐色砂礫の地山。	23S493	RH 050	17-3
上京遺跡、室町殿跡（花の御所）	上・室町通上立売下る裏築地町93-7、93-4の一部	9/9・11	室町包含層とピットを検出。 本報告31ページ。	24S236	RH 221	17-3
室町殿跡（花の御所）	上・御所八幡町110-16	5/20	巡回時掘削終了。	24S071	RH 056	17-3
室町殿跡（花の御所）	上・室町通今出川上る築山北半町226-1の一部、215-2の一部	12/9	GL-0.16mで黄褐色泥砂、-0.18～-0.24mまで黒褐色泥砂（炭含）の近代整地層。	24S261	RH 340	17-3
相国寺旧境内	上・上御霊馬場町366-2	11/5・6・7・8・11・12	№3；GL-0.66mでにぶい黄褐色砂泥、-0.87mで灰黄褐色泥砂、-0.98mでにぶい黄褐色砂泥の室町包含層（土師器）、-1.37～-1.48mでにぶい黄褐色シルト。	23S397	RH 294	17-3
公家町遺跡、相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入玄武町601	6/11	巡回時掘削終了。	22S201	RH 099	17-3
寺町旧域	上・鶴山町16	5/20	GL-0.3mまで盛土。	24S069	RH 057	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺向畑町遺跡	左・修学院中林町32-21の一部、107-1、修学院大林町2-5	8/27・28・30	GL-0.65mで暗灰黄色泥砂、-0.8mで黄灰色泥砂、-1.05mで黒褐色砂泥、-1.4～-1.55mで灰白色粗砂。	24S004	KS 202	29-2
一乗寺西浦畑町遺跡	左・一乗寺西浦畑町6-2、7-2	12/24・27	GL-1.64～-2.52mで灰白色細砂。	24S324	KS 368	29-2
一乗寺跡	左・一乗寺燈籠本町27	7/22	GL-1.32mで灰白色シルト質極細砂、-1.37mで灰オリブ色細砂、-1.4mで黒褐色シルトの土壌化層、-1.59mでにぶい黄褐色細砂の地山、-1.89～-1.94mで浅黄褐色細砂。	24S190	KS 160	29-2
北白川廃寺	左・北白川山田町61-1	7/29	GL-0.17～-0.28mで灰黄褐色泥砂（炭含）。	24S113	KS 171	23
北白川廃寺	左・北白川大堂町22	7/9	金堂の基壇盛土及び掘込地業を検出。 本報告34ページ。	24S135	KS 147	23
北白川廃寺、上終町遺跡	左・北白川東瀬ノ内町10-1	5/29～8/23	№1；GL-0.54～-0.75mで黒色粗砂の奈良包含層（瓦）。№5；GL±0～-0.54mで黒褐色砂質土の時期不明包含層を切って黒褐色砂質土の奈良溝（瓦多量）。№7；GL-0.16～-0.54mで褐色細砂混シルト（灰黄褐色細砂混）の奈良包含層。発掘調査済地点。	23S533	KS 080	23
吉田上大路町遺跡、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡	左・北白川追分町	11/13～25	GL-0.1mでにぶい黄褐色泥砂、-0.45～-0.6mで灰黄色泥砂。	24S118	KS 306	23

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
白河街区跡	左・吉田近衛町26	5/24	巡回時掘削終了。	24S110	KS 070	23
白河街区跡	左・岡崎西福ノ川町20-4	6/25～7/2	GL-0.89mで灰色粗砂の地山、-1.33m～-1.54mで明黄褐色細砂。	23S564	KS 122	23
白河街区跡	左・聖護院山王町16-17の一部	7/17～19	No.1 ; GL-0.21mで暗褐色中砂の室町包含層(土師器)、-0.41mでにぶい黄褐色粗砂、-0.53mで灰黄褐色粗砂、-0.69mで褐灰色泥砂、-0.9～-1.28mで暗黄褐色粗砂(礫混)の地山。No.3 ; GL-0.37mで明黄褐色粗砂の江戸中期の包含層(土師器)、-0.52mでにぶい黄褐色シルトの時期不明整地層を切って黒褐色粘質土の時期不明南北溝、-0.74～-1.13mで浅黄色シルトの地山。	24S116	KS 154	23
白河街区跡	左・聖護院山王町31-2、31-4、32	9/12～18	GL-0.79mで黄灰色泥砂、-1.45～-2.02mで暗灰黄色砂泥の近世包含層。	24S299	KS 231	23
白河街区跡	左・南禅寺草川町17	10/21	GL-0.9mまで盛土。	22R609	KS 282	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・聖護院川原町26-8地先	11/26	巡回時掘削終了。	24R354	KS 323	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・聖護院川原町25-1の一部(B棟)	10/3	GL-0.25mまで盛土。	24S125	KS 255	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・聖護院川原町25の一部(C棟)	9/9・10・ 11・12	GL-0.25mまで盛土。	24S126	KS 226	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・聖護院川原町25の一部(A棟)	9/9	GL-0.15mまで盛土。	24S124	KS 225	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・聖護院川原町25の一部(D棟)	9/9	GL-0.2mまで盛土。	24S127	KS 227	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・丸太町通川端東入東丸太町27-4	11/29	GL-0.4mまで盛土。	24R360	KS 326	23
白河南殿跡、 白河街区跡	左・秋築町250-1の一部	11/5	GL-0.2mまで盛土。	24R286	KS 295	23
白河南殿跡、 白河街区跡	左・難波町200-6、秋葉町255-3	8/8	GL-0.35mまで盛土。	24R163	KS 184	23
得長寿院跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	左・聖護院蓮華蔵町～岡崎徳成町地先	7/29	GL-0.6mまで盛土。	24R188	KS 172	23
尊勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	左・岡崎西天王町84-18	12/16	GL-0.63～-0.76mまで灰白色砂質土	24R432	KS 356	23
尊勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	左・聖護院田頼美町他地内	9/9～12/10	GL-0.45mで黒褐色砂泥、-0.6mで灰白色粗砂、-0.95～-1.05mで淡黄色シルト。	24R042	KS 224	23
法勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	左・岡崎南御所町43-6	6/17	GL-0.3mまで盛土。	23R504	KS 113	23
法勝寺跡、 白河街区跡、 岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町2	8/13	GL-0.2mまで盛土。	24R222	KS 190	23
如意寺跡	左・鹿ヶ谷栗木谷町、鹿ヶ谷徳善谷町地内	11/20・22・ 28、12/4・16	GL-0.4m～-1.9mまで固く締まるにぶい黄色シルト(小礫混)の地山。	23S497	KS 318	29-4

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧域	中・常盤木町61	5/15～6/4	GL-0.24mでにぶい黄褐色粗砂、-0.59～-0.87mで灰黄色シルト。	24S098	RT 048	28-1・ 29-5
寺町旧域	中・上本能寺前町他地内	9/6～11/28	妙満寺境内西端を検出。 本報告39ページ。	24S054	RT 218	29-5
建仁寺旧境内	東・大和大路通四条下る4丁目小松町584	5/30～12/17	礎石以下、-0.08mで明黄褐色礫混砂泥、-0.24mで羽目石、-0.6～-0.68mで地覆石。小鐘楼保存修理工事に伴う調査。	24S095	RT 081	24

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
方広寺跡、 六波羅政庁跡	東・正面通大和大路東入茶屋町527-4 地先	9/18	GL-0.8mで黒褐色シルト、-1.15~-1.35mで灰黄褐色砂礫。	24S296	RT 242	24
六波羅政庁跡、 法住寺殿跡	東・茶屋町	7/3	GL-0.07mまで盛土。	24S164	RT 134	24
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り644-7	12/11	GL-0.65mまで盛土。	24S294	RT 352	24
法住寺殿跡	東・大仏南門通大和大路東入四丁目 東瓦町683-5~7	4/19	GL-0.9mまで盛土。	23S585	RT 025	24
法住寺殿跡	東・大仏南門建仁寺町上る七軒町 563の一部	5/29、6/3	GL-0.74mまで盛土。	23S625	RT 079	24
法住寺殿跡	東・大和大路通七条下る三丁目上池 田町539の一部、543-2の一部	8/30	GL-0.28~-0.44mで黄褐色砂泥。	24S017	RT 208	24
泉涌寺境内、 本多山古墳群、 鳥部(辺)野	東・泉涌寺山内町	6/12	開山塔解体工事の現場確認。GL-0.1mまで盛土。	24S143	RT 104	29-7
法性寺跡	伏・深草車阪町~東・今熊野南谷町 地内	10/16~18	GL-1.1mまで盛土。	24S220	RT 272	29-7
西野山遺跡群 (西野山古墓)	山・川田清水焼団地町11-4の一部	7/1	GL-0.29~-0.6mで明黄褐色シルト(礫混)。	24S120	RT 127	29-6
四手井城跡	山・厨子奥矢倉町25	6/11・12・21	GL-0.68~-0.98mで灰黄色粘質土(礫混)。	23S628	RT 100	28-3
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左義長町遺跡	山・東野舞台町20-21の一部	12/6	巡回時掘削終了。	24S469	RT 338	28-3
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左義長町遺跡	山・西野広見町~東野舞台町 地先	7/25	GL-0.8mまで盛土。	24S183	RT 167	28-3
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左義長町遺跡	山・東野舞台町22-2、21-2、122-1	12/24	GL-0.18mまで盛土。	24S459	RT 367	28-3
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町33-38	6/26・27	GL-0.13~-0.23mで灰黄色砂泥の地山。	24S178	RT 124	30-1
中臣遺跡	山・東野舞台町58-6	6/17	GL-0.35mまで盛土。	24N159	RT 114	26-1
中臣遺跡	山・東野森野町23-85、23-86、 23-88、23-89	4/25	GL-0.5mまで盛土。	23N623	RT 030	26-1
中臣遺跡	山・東野森野町23-6~8、23-17	11/13	GL-0.1mまで盛土。	24N376	RT 307	26-1
中臣遺跡	山・栗栖野打越町13-14	8/8	GL-0.18mで黒褐色微砂混シルト、-0.36~-0.59m で褐色微砂混シルトの地山。	24N267	RT 187	26-1
中臣遺跡	山・栗栖野華ノ木町19-5、19-7、 19-9、19-13	7/23	GL±0~-0.36mで黒褐色泥砂。	24N145	RT 162	26-1
中臣遺跡	山・勸修寺東栗栖野町18-6	10/15	GL-0.2mで黒褐色シルトの時期不明包含層、-0.62~- -0.72mで灰黄褐色シルトの時期不明包含層。	24N328	RT 270	26-1
中臣遺跡	山・勸修寺東栗栖野町51	8/26	GL-0.13~-0.32mで明黄褐色シルト。	24N278	RT 199	26-1
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町201、202	5/15・21・ 29・31	GL-0.37mで灰黄褐色シルト、-0.52~-0.84mで 明黄褐色シルトの地山。	23N456	RT 047	26-1
中臣遺跡	山・勸修寺西金ヶ崎295	6/11	GL-0.4mまで盛土。	24N117	RT 101	26-1
中臣遺跡	山・勸修寺西金ヶ崎317	9/10	GL-0.3mまで盛土。	24N241	RT 228	26-1
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町71-55の一部	4/11	GL-0.55~-0.71mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含 層。	23N572	RT 014	26-1
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町130他1筆	4/8	GL-0.05~-0.12mで黄褐色シルトの地山。	23N617	RT 009	26-1

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見稲荷大社境内、 稲荷山古墳群、 稲荷山坊崖遺跡	伏・稲荷山官有地	6/7	須臾器を採集。	24A002	FD 093	30-2
伏見稲荷大社境内	伏・深草開土口町9-2、9-3の一部、 開土町99-2の一部	11/26・27・ 28	巡回時掘削終了。	24S416	FD 324	30-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
がんせんどう廃寺、 谷口遺跡	伏・深草谷口町50-1	9/10	GL-1.8mまで盛土。	24S205	FD 229	30-4
伏見城跡	伏・京町九丁目53-3	7/4・5	GL-0.22mで褐灰色泥砂、-0.35~-0.59mでにぶい黄褐色砂泥。	24F175	FD 138	14
伏見城跡	伏・桃山水野左近西町17-1、17-3の一部	6/17・18	GL-0.25mまで盛土。	24F007	FD 115	14
伏見城跡	伏・桃山町最上町25の一部	6/6・7、7/2	GL-0.18mでにぶい黄褐色泥砂（小礫混）、-0.37~-0.71mで橙色シルト。	23F612	FD 090	14
伏見城跡	伏・桃山町最上町9、9-4の一部	6/5・12	GL-0.21~-0.6mで明褐色シルト。	24F082	FD 088	14
伏見城跡	伏・桃山町正宗11-27、11-33	12/5	GL-0.4mまで盛土。	24F411	FD 335	14・15
伏見城跡	伏・桃山町島津47-35	5/20-22	GL-0.08mで明褐色小礫混粘質土、-0.19mで灰黄褐色粗砂、-0.25mで明褐色小礫混粘質土、-0.35mで明黄褐色砂礫。	24F016	FD 058	14
伏見城跡	伏・桃山町長岡越中南町61-1	10/15	GL-0.49~-1.09mでにぶい黄褐色砂礫。	24F285	FD 271	14
伏見城跡	伏・京町北七丁目6-1	6/14	GL-0.8mまで盛土。	24F114	FD 107	14
伏見城跡	伏・両替町九丁目260-1の一部	6/3~7/4	GL-0.2mでにぶい黄褐色砂泥、-0.4~-0.6mで橙色粘質土。	23F618	FD 084	14
伏見城跡	伏・東組町他 地内	9/2・5	GL-0.6mで明黄褐色粗砂の河川堆積、-0.6~-1.05mまで灰黄褐色粘土の湿地状堆積。	23F442	FD 210	14
伏見城跡	伏・東大手町785-1の一部、瀬戸物町748-3の一部、748-5の一部	7/10	GL-0.7mまで盛土。	24F034	FD 148	14
伏見城跡	伏・西大手町312	6/7	巡回時掘削終了。	24F132	FD 092	14
伏見城跡	伏見区新町三丁目483-1、490-6	12/9	GL-1.1mまで盛土。	24F418	FD 345	14
伏見城跡	伏・片桐町1	11/18・20	GL-0.55~-0.95mで褐色シルトの時期不明造成土。	24F349	FD 313	14
伏見城跡	伏・桃山町本多上野1~3の各一部	10/7	GL-0.76mまで盛土。	24F237	FD 259	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷五郎太町他 地内	8/1~10/10	GL-0.4~-0.65mで淡黄色細砂。	24F087	FD 175	15
伏見城跡	伏・桃山町大蔵164-2	7/5	GL-0.63~-0.91mで橙色シルト。	24F152	FD 140	15
伏見城跡	伏・桃山町古城山	8/5	GL-0.05~-0.3mでにぶい黄色微砂。	24F240	FD 179	15
伏見城跡、桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町永井久太郎~桃山町政宗地先	7/8~17	No.1 ; GL-0.5mで橙色粘質土、-0.5~-0.7mで明褐色シルト。No.2 ; GL-0.52~-1.2mで明黄褐色礫混シルトの伏見城期造成土（瓦）。	24F200	FD 143	14
伏見城跡、桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町正宗37-10	6/24	GL-0.52~-0.65mでにぶい黄褐色中粒砂（礫混）を切ってにぶい黄褐色泥砂（礫混）の落込。	23F326	FD 119	14・15
伏見城跡、 指月城跡	伏・桃山町泰長老77-15	7/25	GL±0mで灰黄褐色シルト、-0.19~-0.41mでにぶい黄褐色砂泥。	24F176	FD 166	14
伏見城跡、 黄金塚1号墳	伏・桃山町遠山37-17	6/25・26	GL-0.04~-0.21mでにぶい黄色砂泥。	23F588	FD 123	15
太閤堤 (小倉堤、槇島堤)	伏・向島下之町837、向島西堤町73、73-1	10/18	GL-0.35mまで盛土。	24S309	FD 279	14
法界寺旧境内	伏・日野畑出町17の一部、18の一部	8/1・8	GL-0.56mで黄褐色粘質土の地山、-0.92~-1.0mで橙色粘質土（30~40cm大巨石含）。	24S215	FD 174	30-5

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院九条町58	8/22・23	GL-0.68~-0.75mで褐色微砂混シルトの旧耕作土。	24S263	TB 197	30-6
深草遺跡	伏・深草野田町12-1、15の各一部	11/18	GL-0.19~-0.4mで黒褐色微砂の旧耕作土。	24S224	TB 314	30-3
西飯食町遺跡	伏・深草極楽町765-1	4/24・26	GL-0.66mで淡黄色シルト質細砂、-0.99mで灰色粗砂、-1.17mで浅黄褐色シルトの地山、-1.39~-1.71mで灰黄褐色シルト。	23S479	TB 028	30-3
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・竹田真幡木町165-3、166-2、166-3	9/5	GL-0.3mまで盛土。	24T230	TB 216	26-2
鳥羽離宮跡	伏・中島宮ノ前町67-1	7/3・4・5・8・10	GL-1.0mで灰色シルト質細砂、-1.38~-1.72mで灰黄色シルト質細砂の地山。	24T030	TB 133	26-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田東小屋ノ内町98	7/29	GL-0.32mまで盛土。	24T165	TB 168	26-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町	6/14	巡回時掘削終了。	24T130	TB 108	26-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町210	11/14・18	GL-0.66mで暗灰黄色細砂、-0.85mで灰黄褐色微砂、-1.15mで褐灰色細砂の時期不明包含層、-1.3mで灰黄褐色微砂、-1.42mで黒褐色シルト。	24T274	TB 308	26-2
久我殿遺跡	伏・久我本町2-33、21-4	8/20	GL-0.55mまで盛土。	24S243	TB 194	19
久我殿遺跡	伏・久我本町2-26	9/17	GL-0.5mまで盛土。	24S245	TB 238	19
神川神社	伏・久我東町60-2	11/19～12/4	GL-0.3mまで盛土。	24S400	TB 316	19
久我東町遺跡	伏・羽東師鴨川町82-1、83-1の一部、84-1の一部、久我東町6-154	8/23・26	GL-1.12～-1.65mでオリーブ褐色シルト。	23S399	TB 198	19
富ノ森城跡	伏・横大路六反畑他 地内	7/2	巡回時掘削終了。	24S140	TB 132	30-7
富ノ森城跡	伏・横大路六反畑他 地内	7/2	巡回時掘削終了。	24S055	TB 131	30-7
富ノ森城跡	伏・横大路六反田 地先	10/21、11/5	GL-0.6mまで盛土。	24S373	TB 281	30-7
淀城跡	伏・淀津町195-5	7/10～10/9	GL-0.37mで暗暗灰黄色粘質土混砂礫、-1.06mで暗褐色礫混粘質土、-1.06～-1.26mで明赤褐色微砂混粘質土の地山。	24S157	TB 151	20
淀城跡	伏・淀池上町116-28	9/20	GL-0.4mまで盛土。	24S271	TB 244	20
淀城跡	伏・淀下津町189-11、189-12、246-2、275-1、276-1	5/30、6/6	GL-0.6mまで盛土。	24S077	TB 082	20

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺四坊四町跡、大藪遺跡	南・久世築山町191-13、605-1	8/26	GL-0.3mまで盛土。	24NG226	NG 201	18
左京二条四坊五・十二町跡	伏・久我西出町1-11	8/26～9/24	GL-0.84mで黄褐色微砂混シルトとオリーブ褐色細砂混シルトと褐色細砂混シルトの旧耕作土、-1.21mで灰黄褐色微砂混粘土質シルトの時期不明包含層（長岡京期）、-1.41mでにぶい黄色微砂混粘土質シルトの弥生～古墳包含層、-1.64～-1.8mで明黄褐色微砂混粘土質シルトの地山。	24NG009	NG 200	19
左京二条四坊十二町跡	伏・久我西出町1-9～13	4/15	GL-1.35mで灰黄褐色砂泥の旧耕作土、-1.5mの明黄褐色シルトの地山を切ってにぶい黄色砂泥の長岡柱穴（土師器）、-1.8m～-3.0mで明黄褐色シルト質細砂。	20NG084	NG 019	19
左京四条三坊八町跡	伏・羽東師菱川町555	6/14	巡回時掘削終了。	24NG131	NG 109	19
左京四条三坊十一・十四町・四坊三町跡、曆田遺跡	伏・羽東師菱川町554～537-5 地先	7/4・9・12	GL-0.45mで旧耕作土、-0.65mで橙色シルト、-0.9mで褐灰色シルト、-1.05～-1.15mで灰黄褐色シルト。	24NG184	NG 130	19
左京四条三坊十一町跡	伏・羽東師菱川町544-15、544-16	10/7	GL-0.2～-0.48mで黄灰色粘質土の耕作土。	24NG262	NG 257	19
左京四条四坊七・十町跡	伏・羽東師菱川町622-4～羽東師菱川町地先	5/7	GL-0.95mまで盛土。	23NG429	NG 038	19
左京九条三坊六町跡、桂川関連遺跡	伏・納所町地先	11/5～12/25	GL±0m～-0.99mでコンクリート製護岸及び護岸裏栗石。	24NG257	NG 297	20
左京九条四坊七町跡	伏・納所屋柳33、36、和泉屋2-4	7/8	GL-0.65mまで盛土。	24NG013	NG 144	20
左京九条四坊八町跡	伏・納所屋柳第51-1 保留地	9/12	GL-0.41mで旧耕作土、-0.75～-1.12mで灰黄褐色細砂の河川堆積。	24NG185	NG 232	20
右京一条二坊十二・十四町跡	西・大原野上里勝山町～大原野上里鳥見町 地先	10/17・21・24	GL-0.3mで青灰色粘土、-0.4mで褐色シルト、-0.55～-0.8mで灰色粗砂（礫、シルトブロック含）。	22NG606	NG 274	30-8
右京一条三坊六・十一町跡、上里遺跡	西・大原野上里男鹿町20-15～大原野上里鳥見町6-7 地先	4/17～5/17	GL-0.68mで橙色泥砂の旧耕作土、-0.82mで浅黄色シルト、-1.02～-1.54mでにぶい黄褐色シルトの弥生以前包含層（縄文or弥生土器）。	24NG012	NG 022	30-8

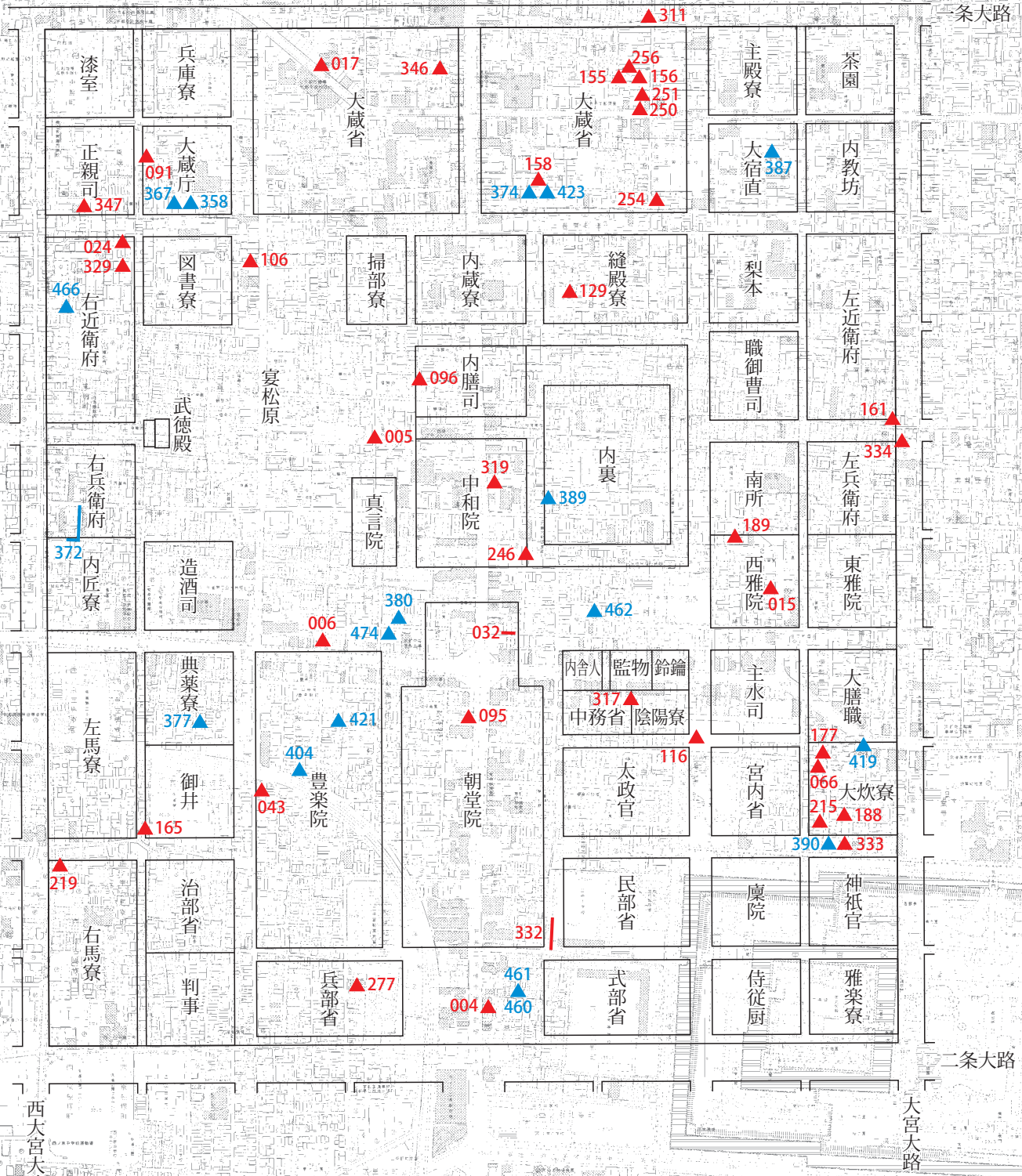
南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山田車塚古墳	西・山田車塚町9-14他13筆	12/2	GL-1.25mまで盛土。	23S062	MK328	27-1
革嶋館跡	西・川島玉頭町11-3、11-4	4/11・12	GL-0.3～-0.7mで黄褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの時期不明ピット。	23S535	MK012	27-1
下津林遺跡	西・下津林佃65、66、67	9/12・13	弥生中期ピット、弥生後期ピット、中世溝を検出。 『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』に報告。	24S128	MK233	27-1
下津林遺跡	西・下津林番条119	6/3	GL-1.34～-1.89mで青灰色シルト～粗砂の湿地状堆積。	24S094	MK085	18・ 27-1
檜原遺跡、 檜原廃寺跡	西・檜原内垣外町9-5、25-10、62	5/8	GL-0.13～-0.3mで黄褐色砂質土の地山。	23S517	MK041	27-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-335	8/28	GL-0.15mまで盛土。	24S210	MK204	31-3
福西古墳群	西・大枝東長町1-722	8/28	GL-0.2mまで盛土。	24S211	MK205	31-3
中久世遺跡	南・久世殿城町220、221-1、221-3、 225-6	4/1、7/12	GL-0.3mで黄色粘質土（マンガン含む）の地山、 -0.58～-0.77mで暗褐色粘質土。	23S344	MK003	18
大藪遺跡	南・久世殿城町481-1 地先	4/1	GL-0.5mで褐色砂質土の地山、-1.15～-1.35m で灰白色細砂。	23S544	MK002	18
大藪遺跡	南・久世築山町190-1	10/31	GL-0.39mまで盛土。	24S338	MK288	18
八幡宮古墳群	西・大原野灰方町904	9/17/～12/9	GL-0.19mで明黄褐色シルトの地山、-0.41～-0.73m で灰白色シルトの岩盤層。	24S247	MK239	31-4

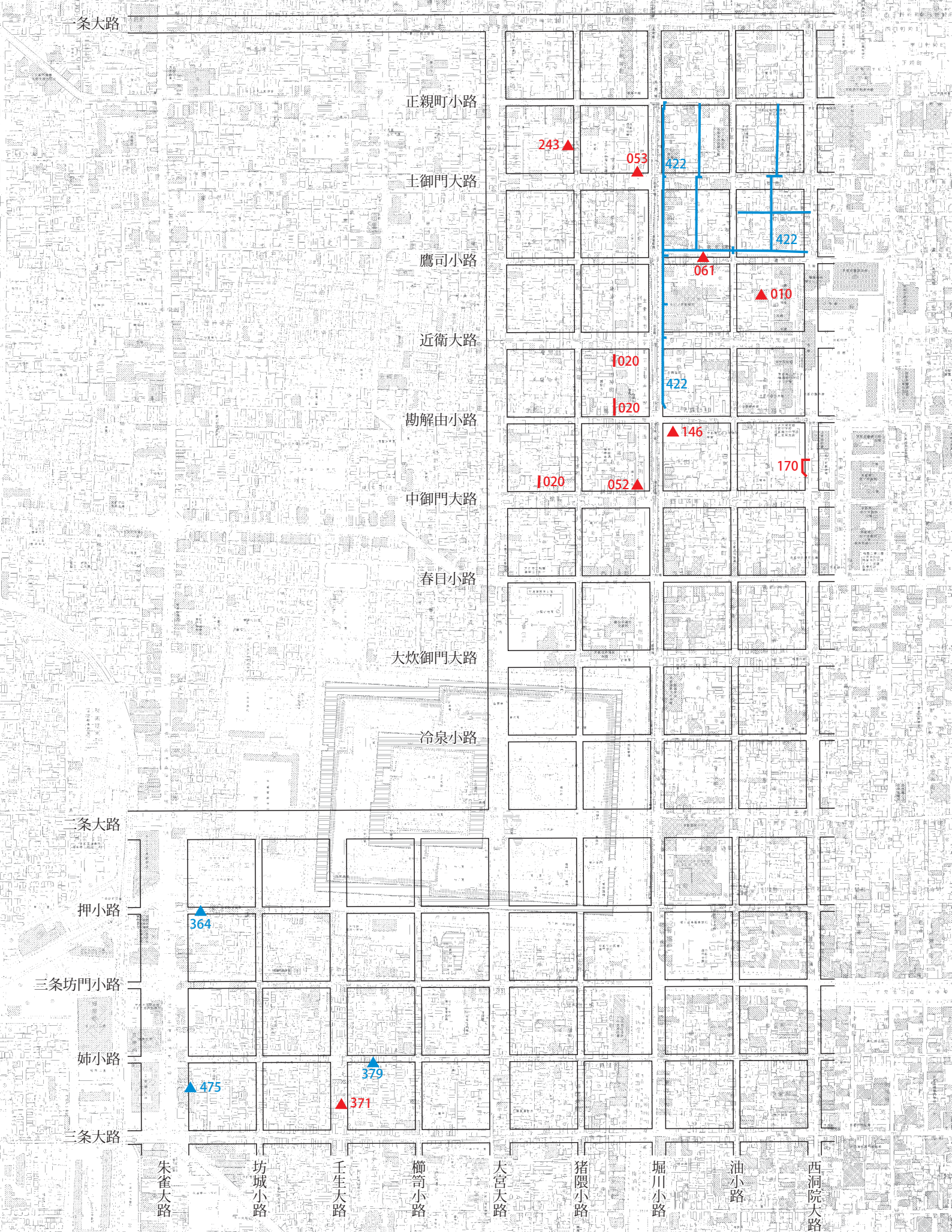
圖 版

凡 例

- ▲ — 2024年1～3月期(令和5年度)詳細分布調査地点
- ▲ — 2024年4～12月期(令和6年度)詳細分布調査地点

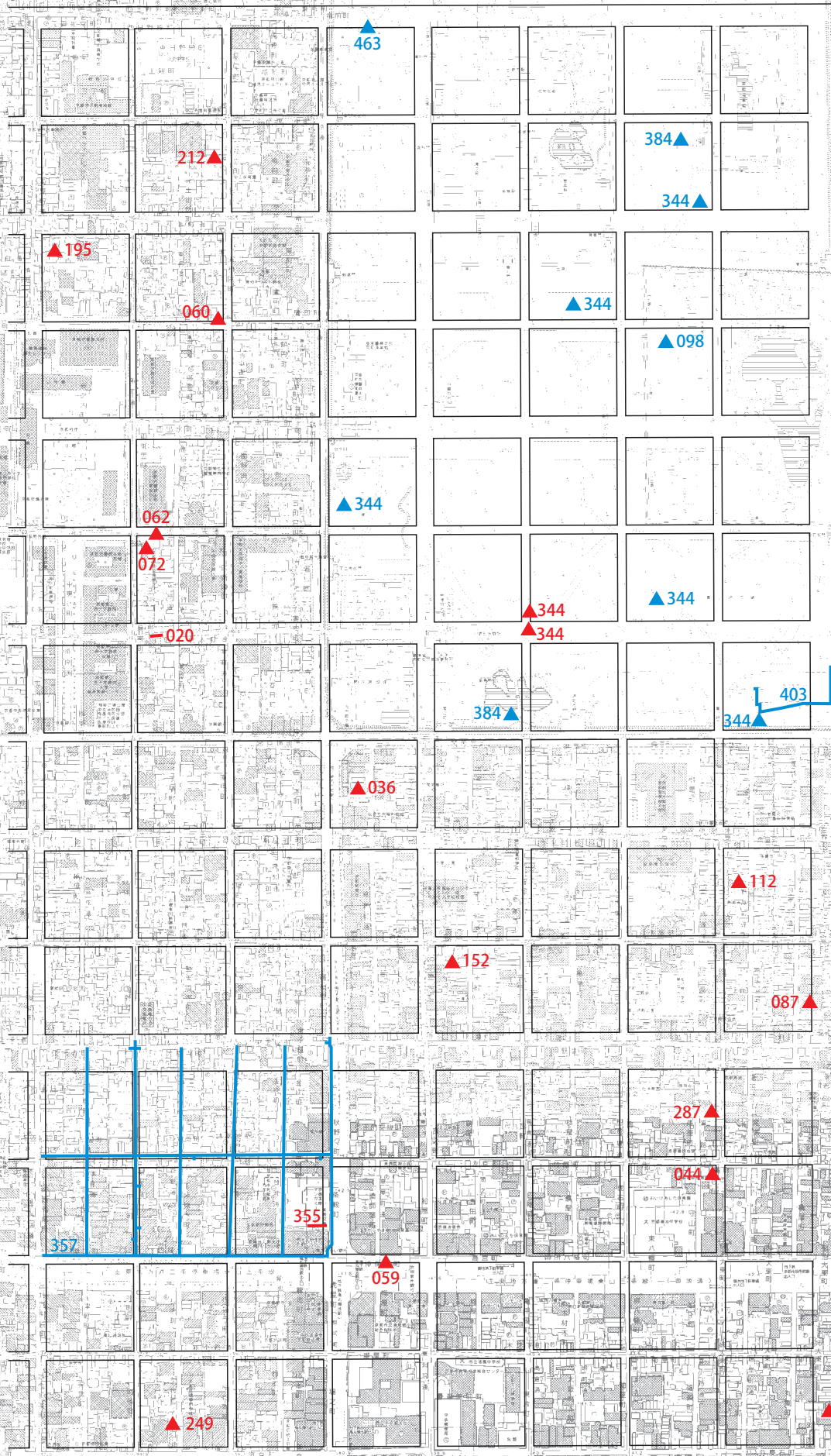


図版 2



平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

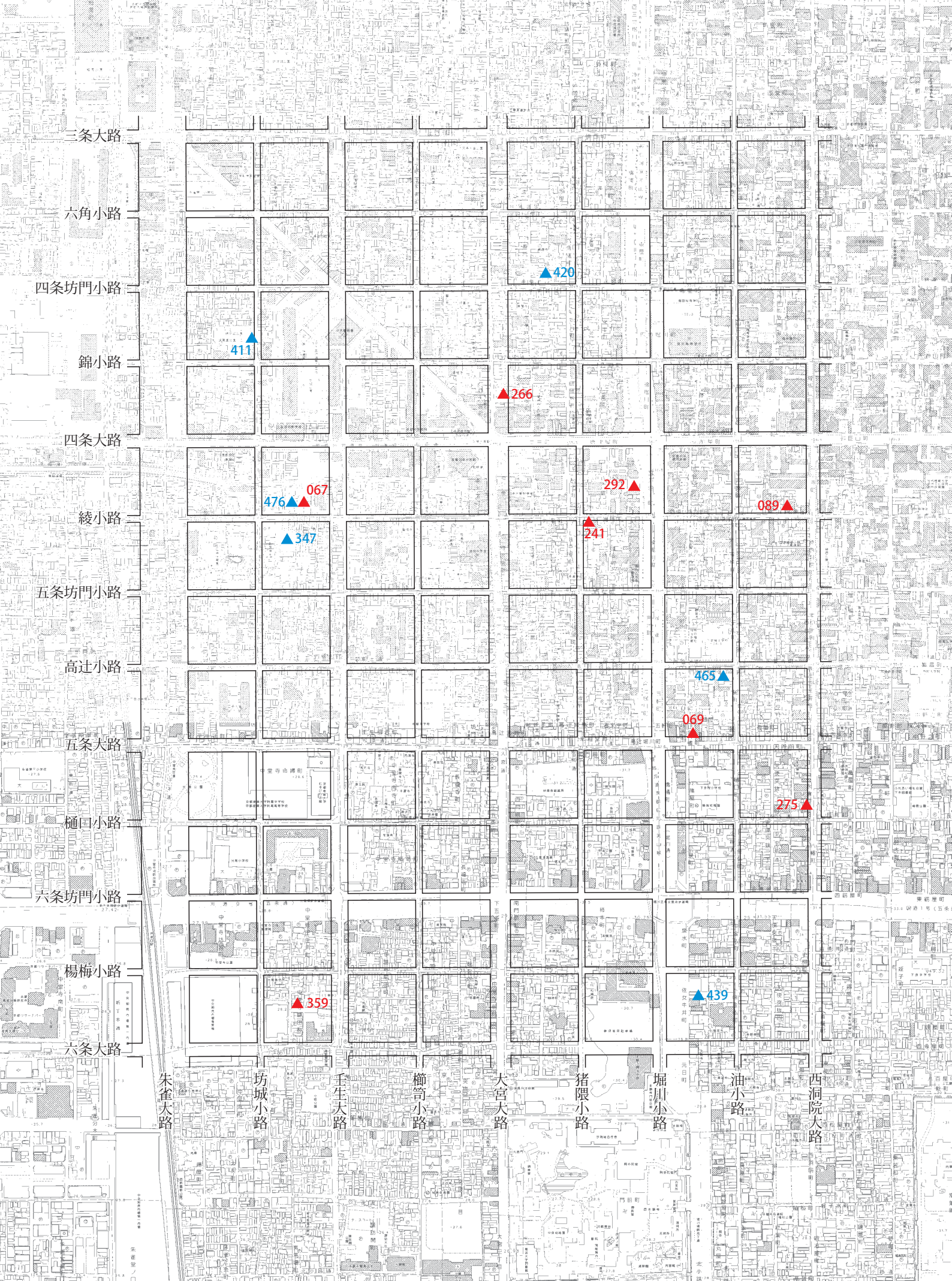
東洞院大路

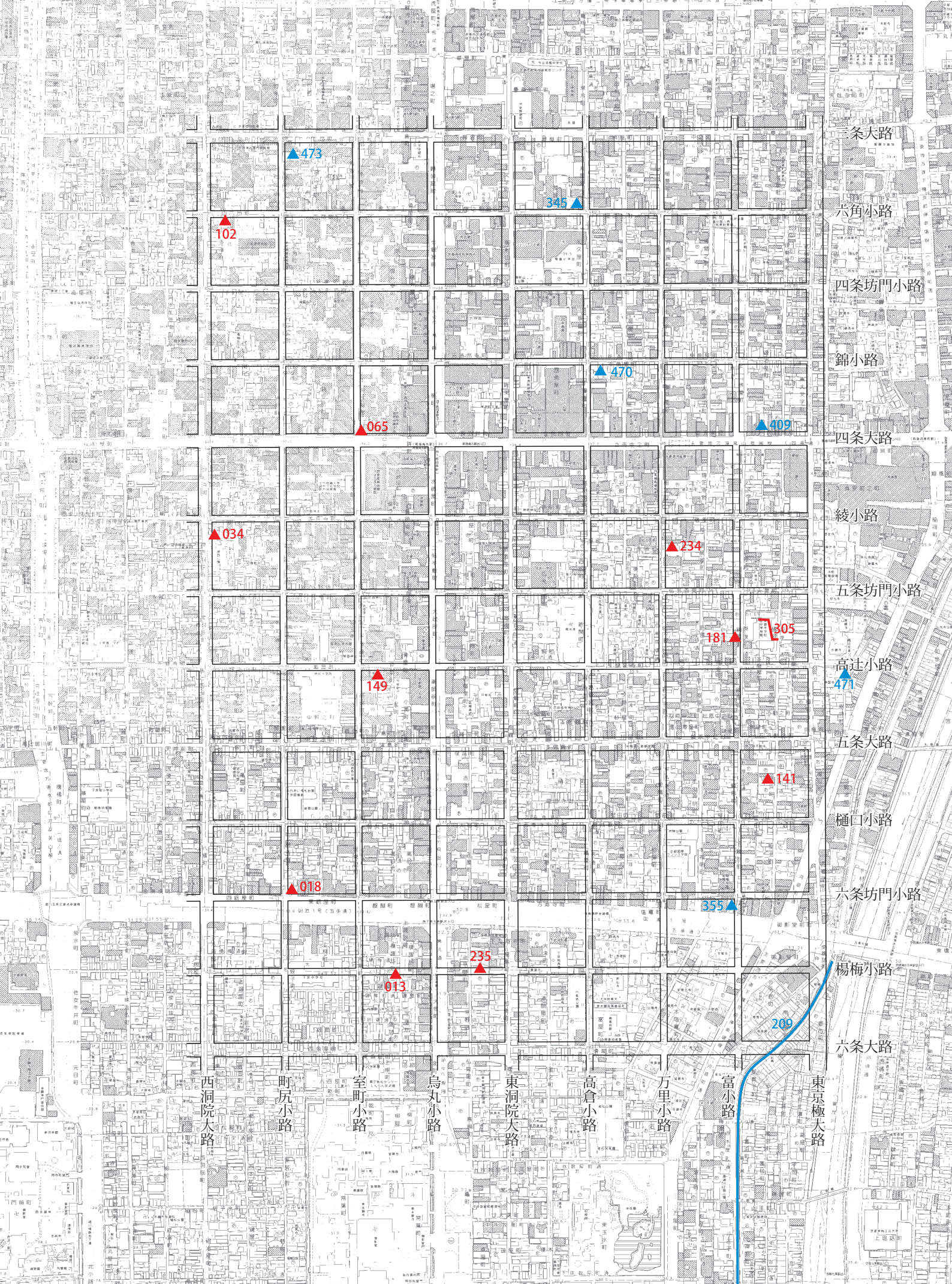
高倉小路

万里小路

富小路

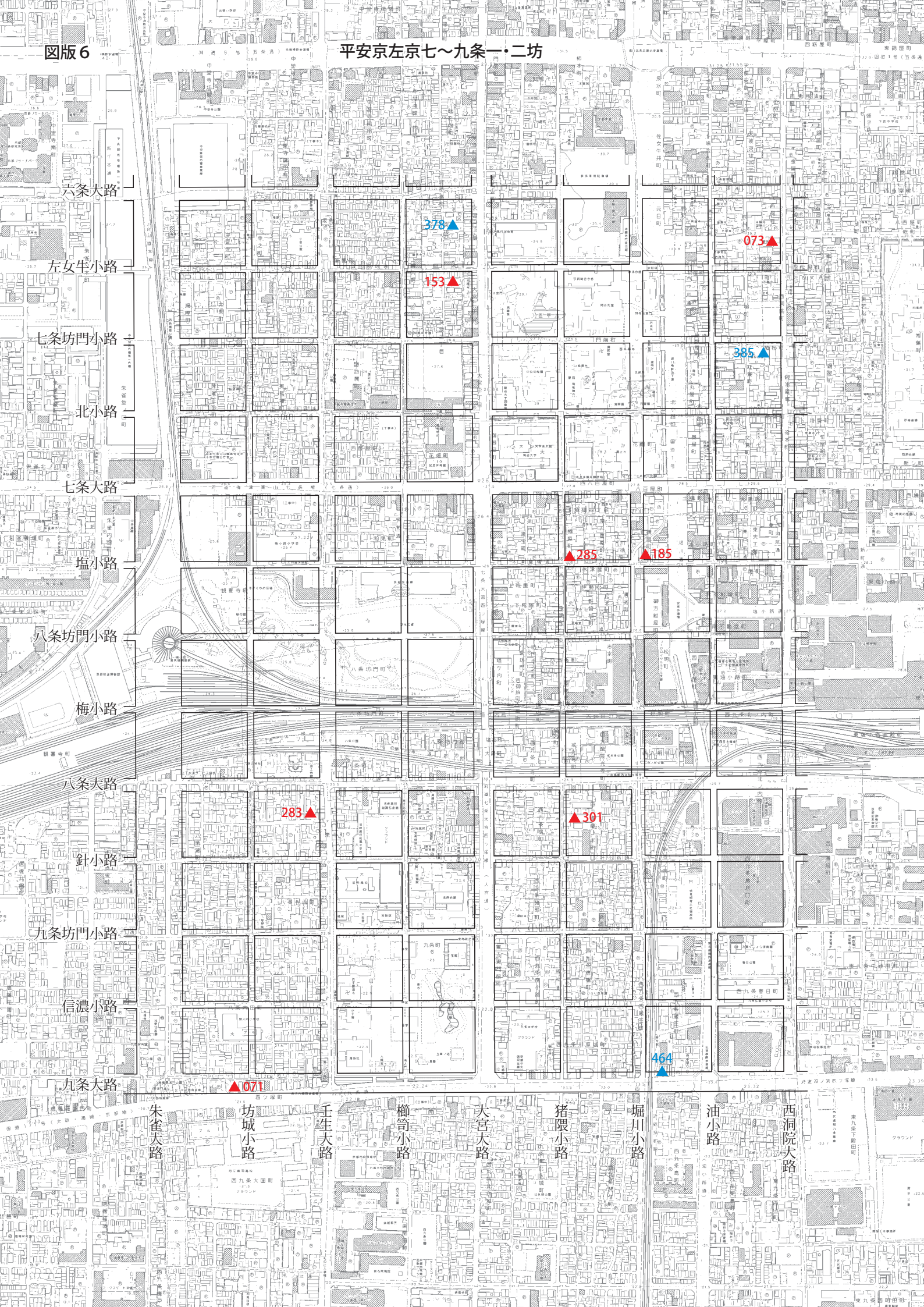
東京極大路

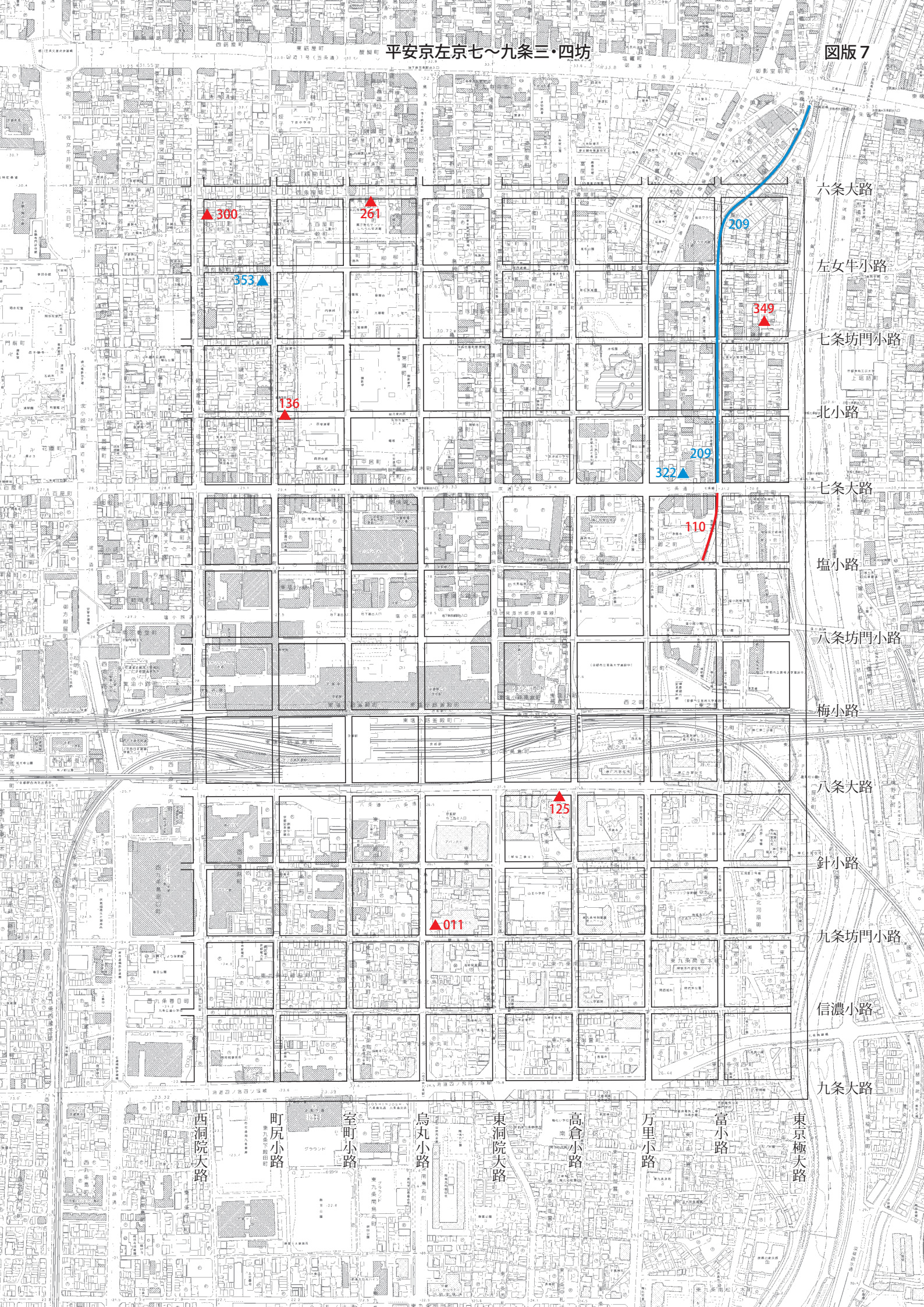




図版6

平安京左京七~九条一・二坊





▲ 300

▲ 261

209

▲ 353

▲ 349

▲ 136

▲ 209

▲ 322

▲ 110

▲ 125

▲ 011

六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

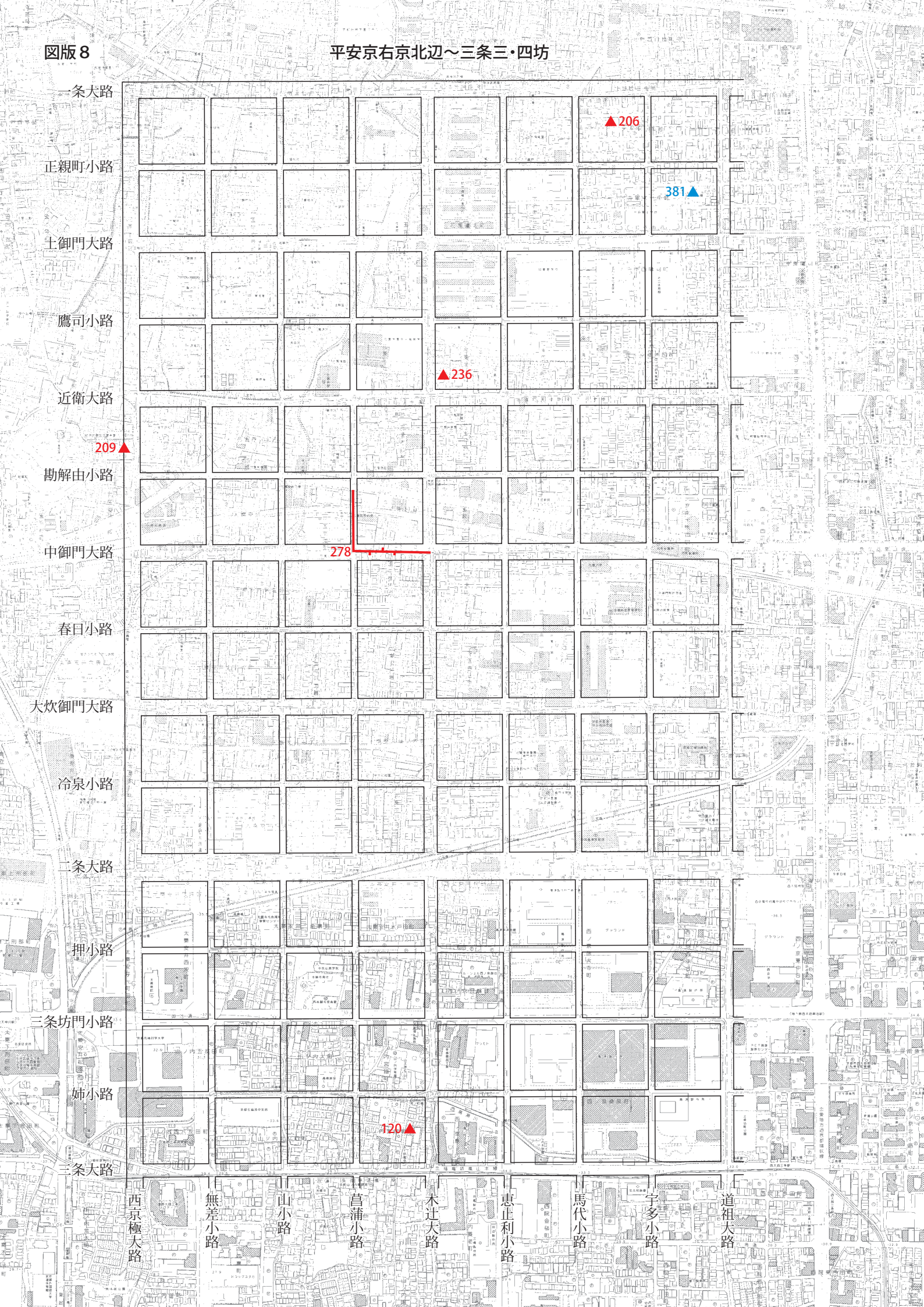
東洞院大路

高倉小路

万里小路

富小路

東京極大路



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻大路

恵正利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路

▲ 206

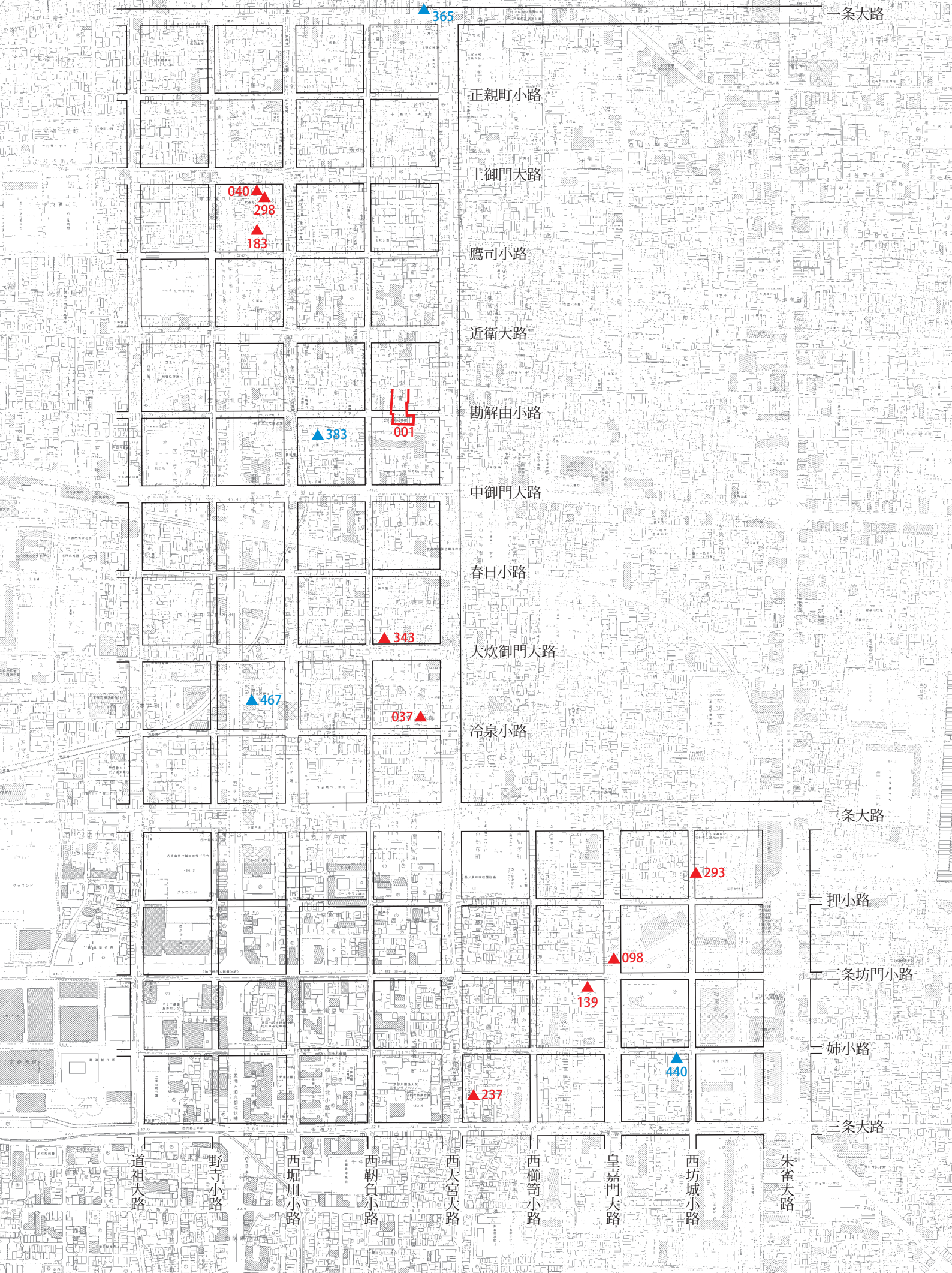
▲ 381

▲ 236

▲ 209

278

▲ 120



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

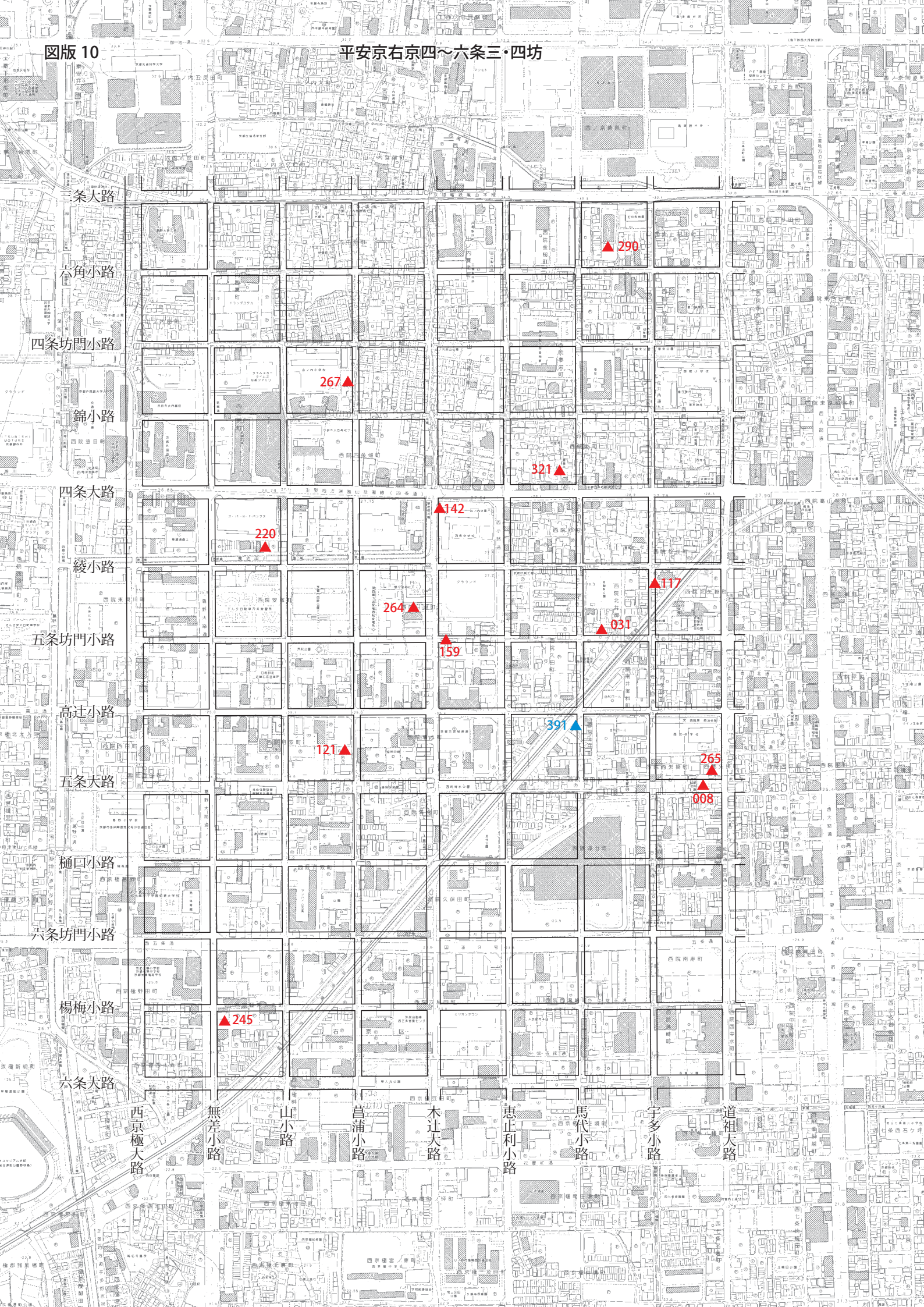
西大宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



三条大路

六角小路

四條坊門小路

錦小路

四條大路

綾小路

五條坊門小路

高辻小路

五條大路

樋口小路

六條坊門小路

楊梅小路

六條大路

西京極大路

無差小路

山小路

喜浦小路

木辻大路

惠止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路

▲ 290

▲ 267

▲ 321

▲ 220

▲ 142

▲ 264

▲ 159

▲ 117

▲ 031

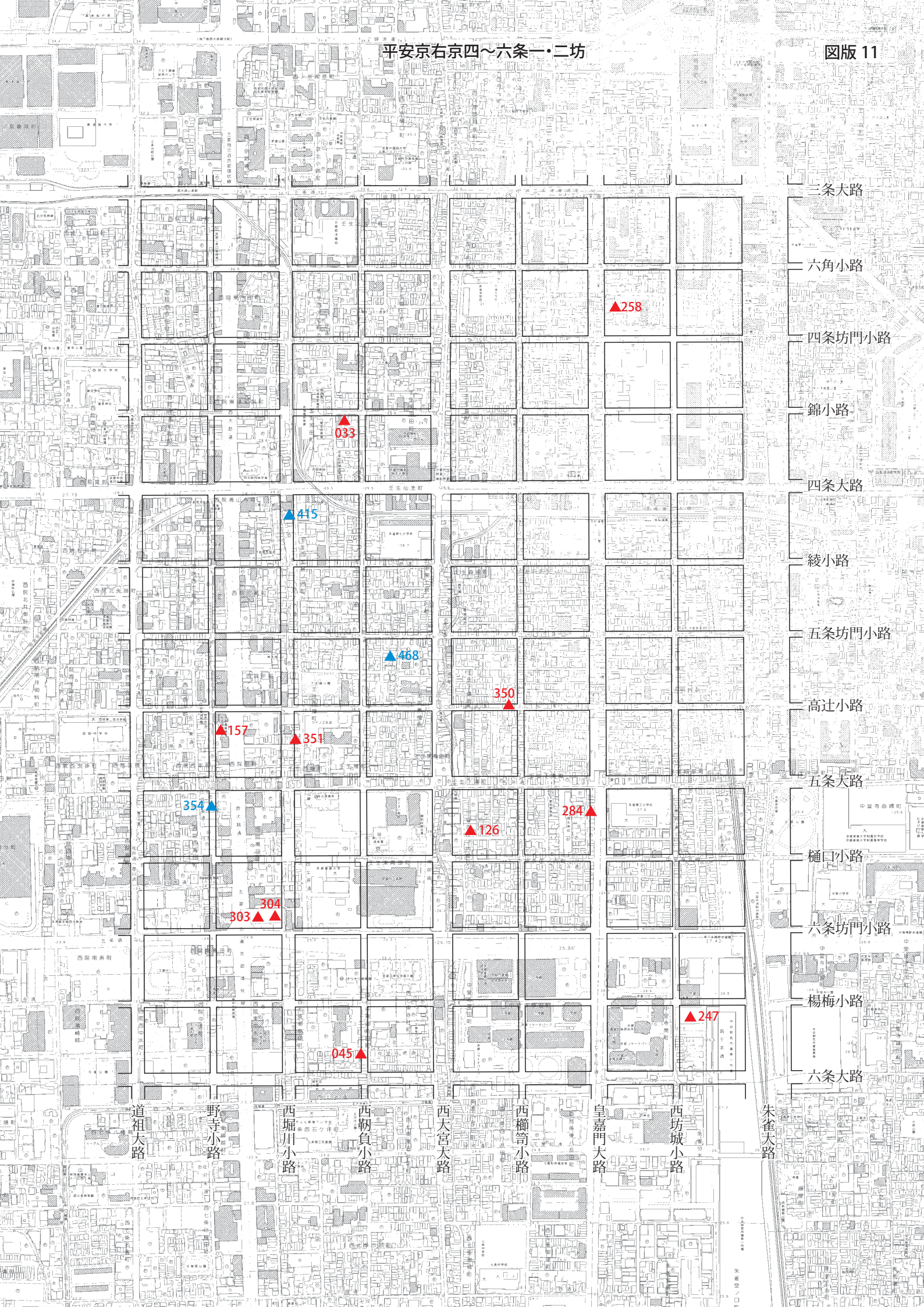
▲ 121

▲ 391

▲ 265

▲ 008

▲ 245



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

西大宮大路

西櫛箭小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



六条大路

左女牛小路 ▲262

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻大路

惠止利小路

馬代小路

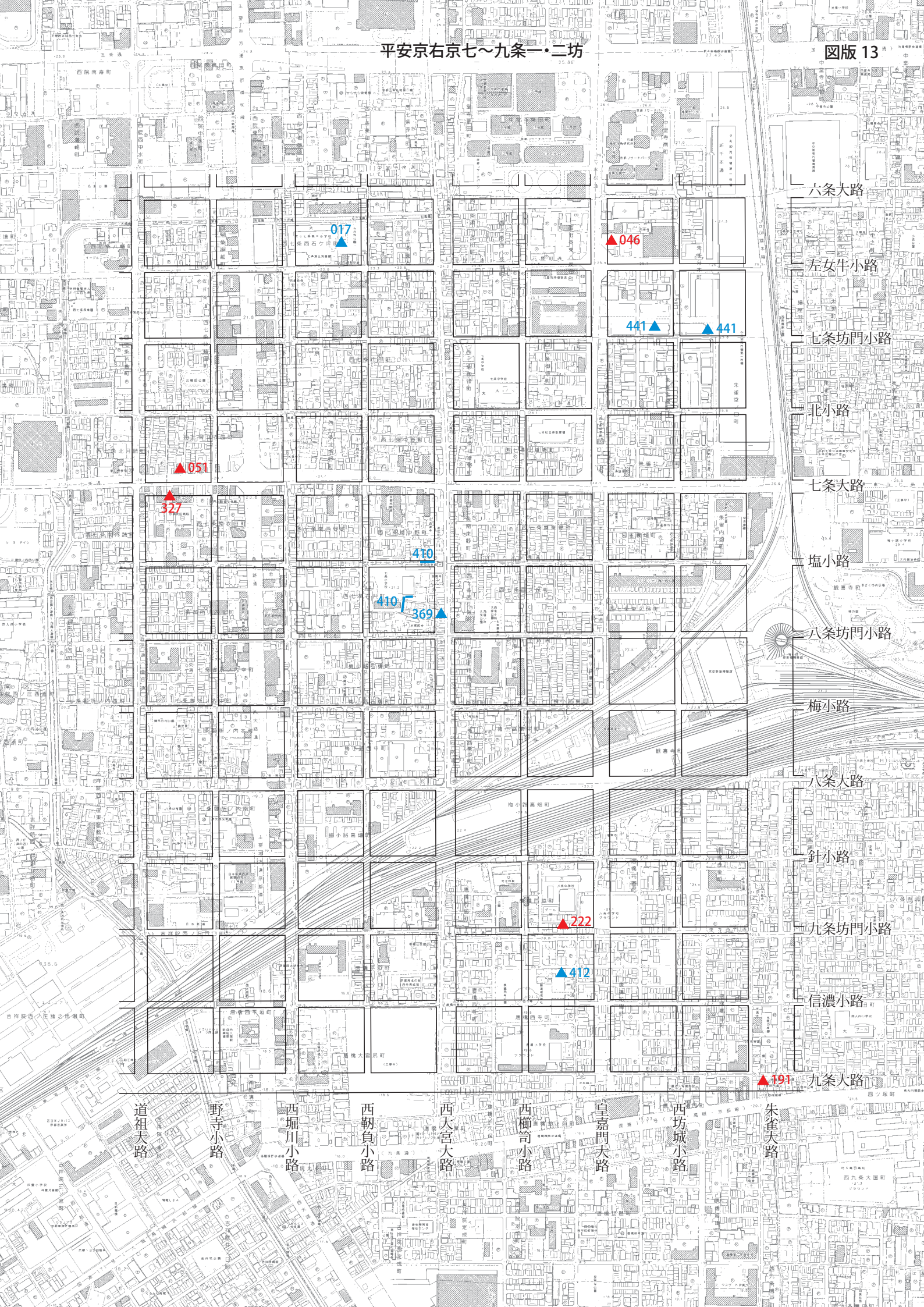
宇多小路

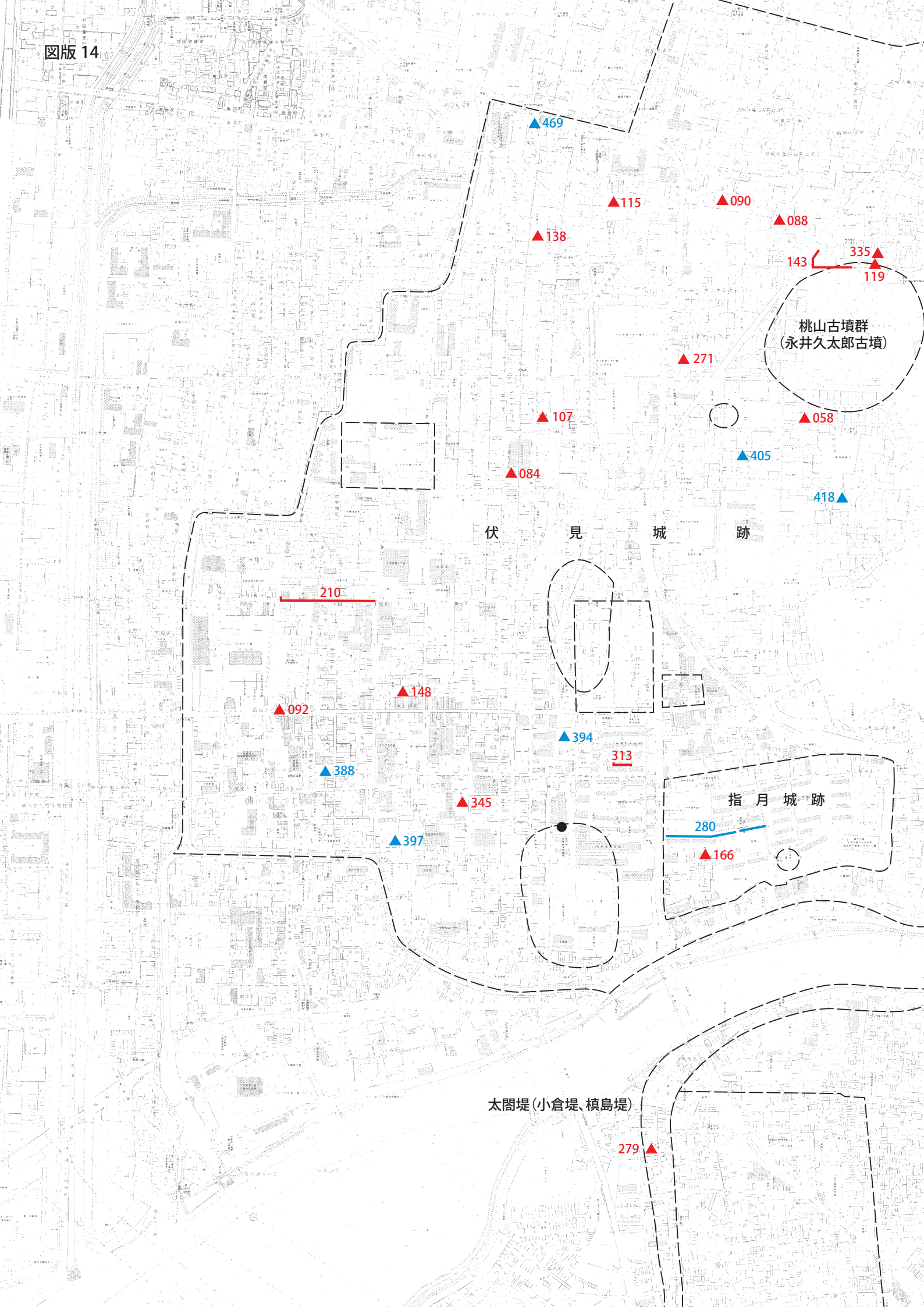
道祖大路

▲416

203

▲309





伏見城跡

桃山古墳群
(永井久太郎古墳)

指月城跡

太閤堤(小倉堤、槇島堤)

▲469

▲115

▲090

▲088

▲138

▲143

▲335

▲119

▲271

▲058

▲405

▲418

▲084

▲107

210

▲092

▲148

▲388

▲394

313

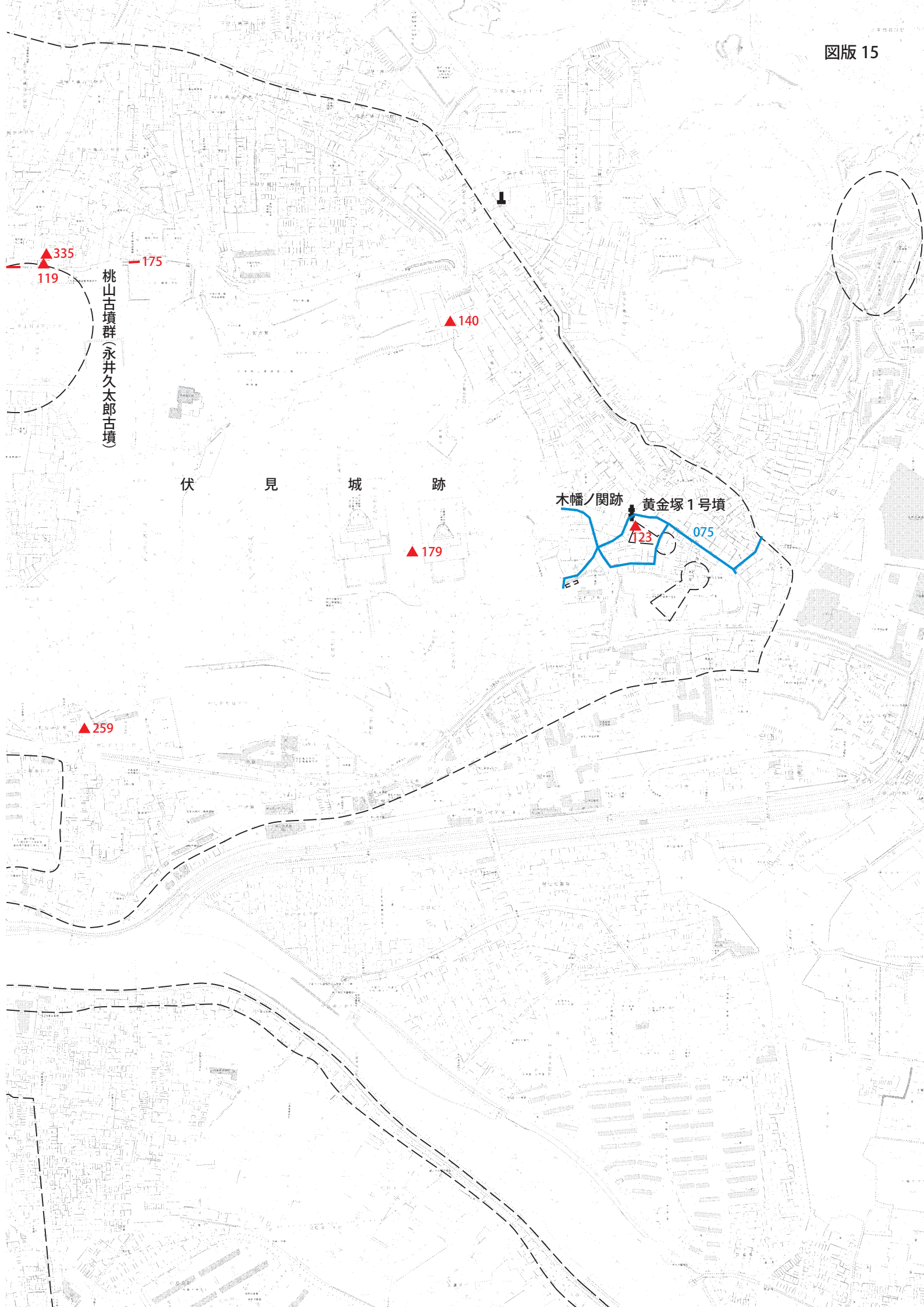
▲345

▲397

280

▲166

▲279



桃山古墳群(永井久太郎古墳)

伏見城跡

木幡ノ関跡 黄金塚1号墳

▲ 335
▲ 119

— 175

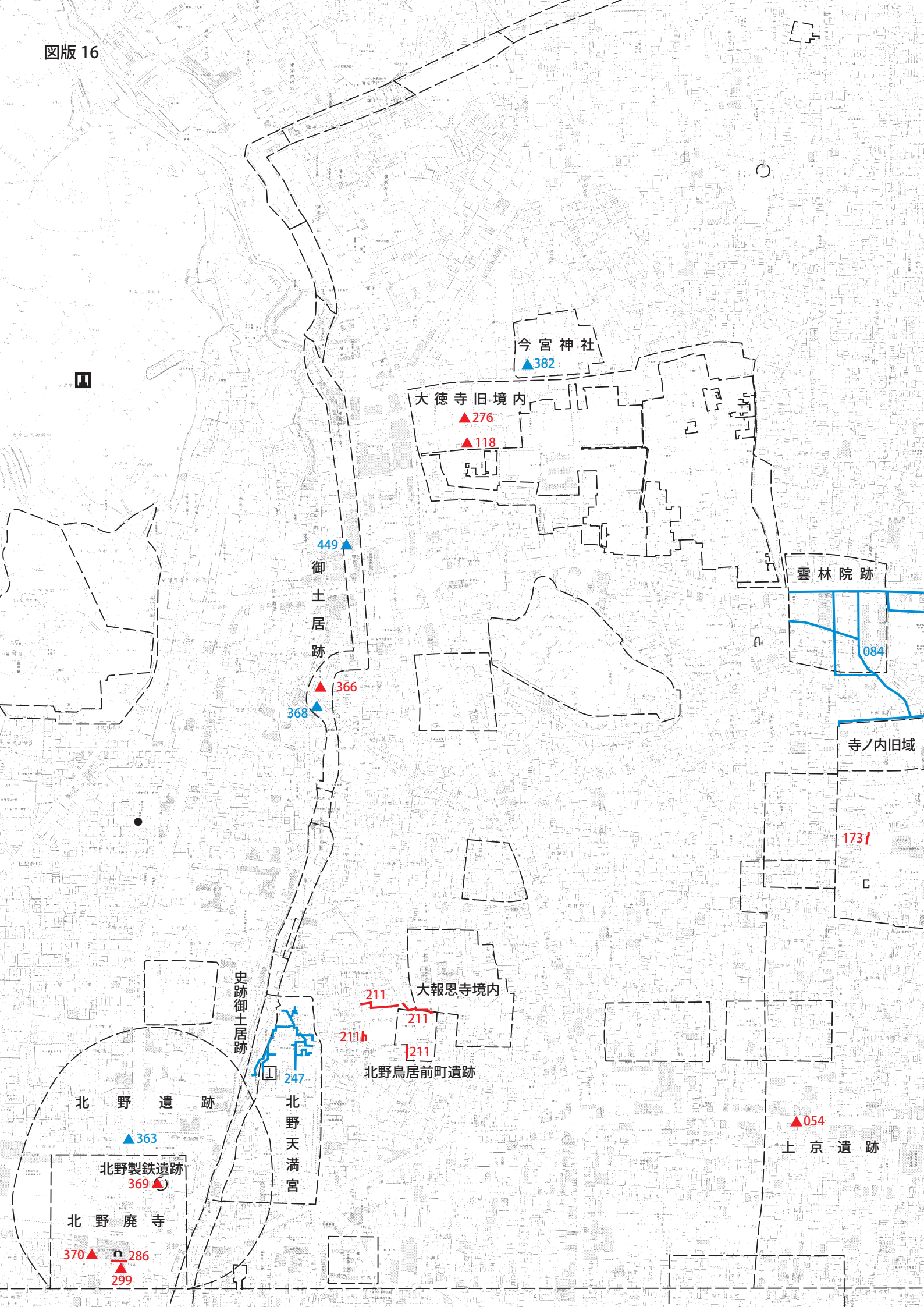
▲ 140

▲ 179

▲ 259

▲ 123

075



今宮神社
▲382

大徳寺旧境内
▲276
▲118

449 ▲
御土居跡
▲366
368 ▲

雲林院跡
084

寺ノ内旧域
173

史跡御土居跡
247
北野天満宮

211
211
211
大報恩寺境内
北野鳥居前町遺跡

北野遺跡
▲363
北野製鉄遺跡
369 ▲
北野廃寺
370 ▲
▲286
▲299

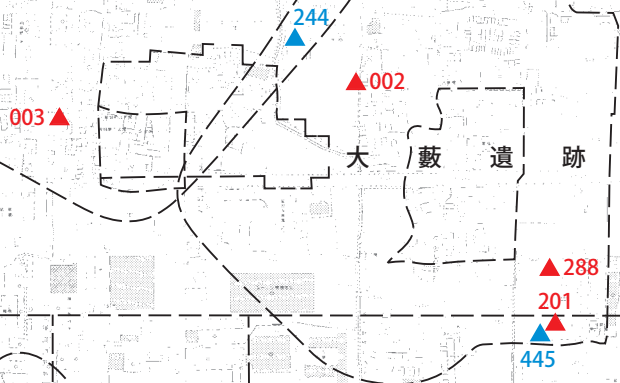
▲054
上京遺跡

下津林遺跡

中久世遺跡

大藪遺跡

長岡京跡



久我殿遺跡

▲194 ▲238

▲414

神川神社

316

▲200 ▲019

▲109

曆田遺跡

038

130

▲257

久我東町遺跡

▲198

▲444
長黒遺跡

羽束師志水町遺跡

399

桂川関連遺跡

311

304

▲437

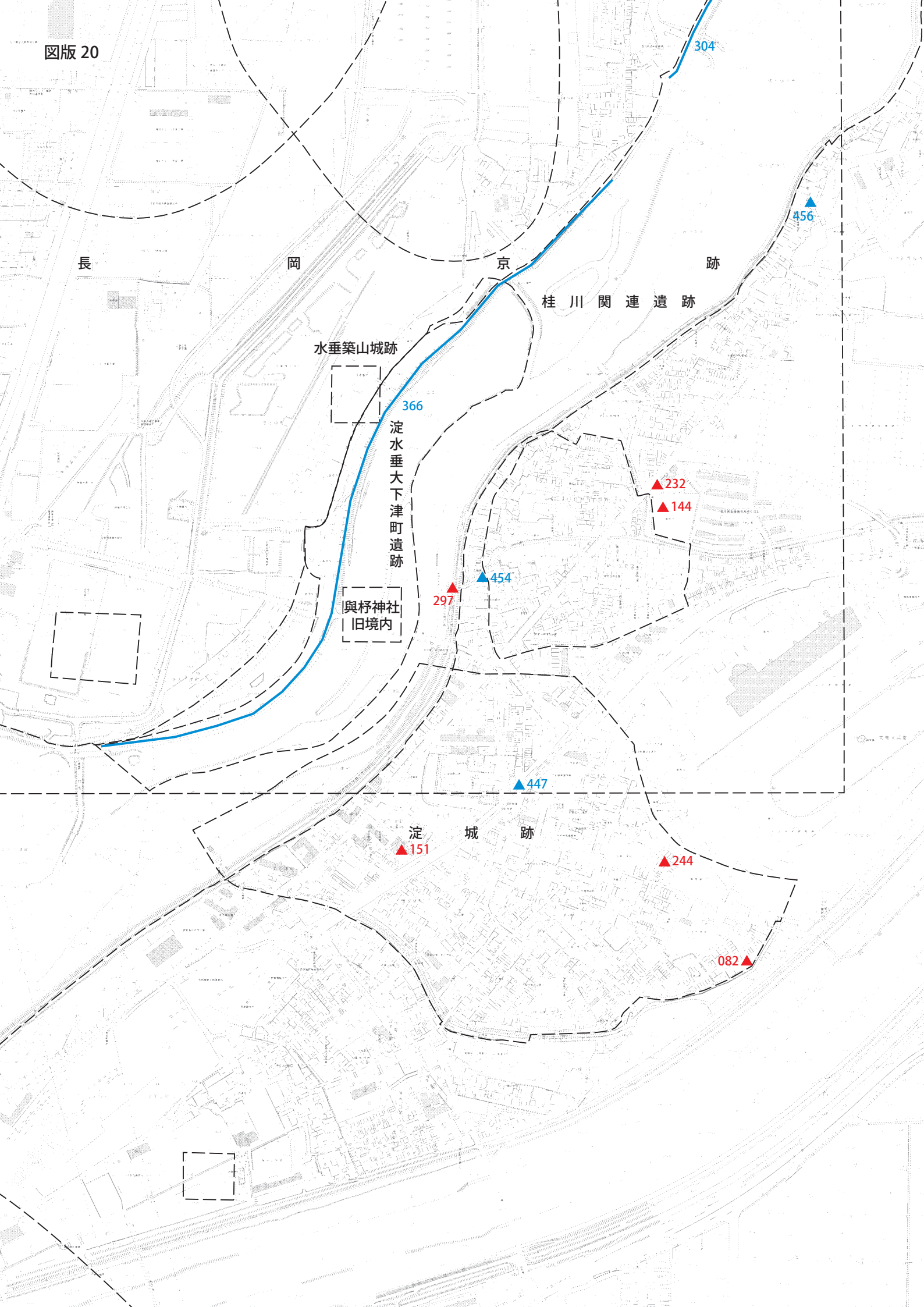
長

岡

京

跡

卍



長

岡

京

跡

桂川 関連 遺跡

水垂築山城跡

366

淀水垂大下津町遺跡

與杼神社
旧境内

▲297

▲454

▲232

▲144

▲447

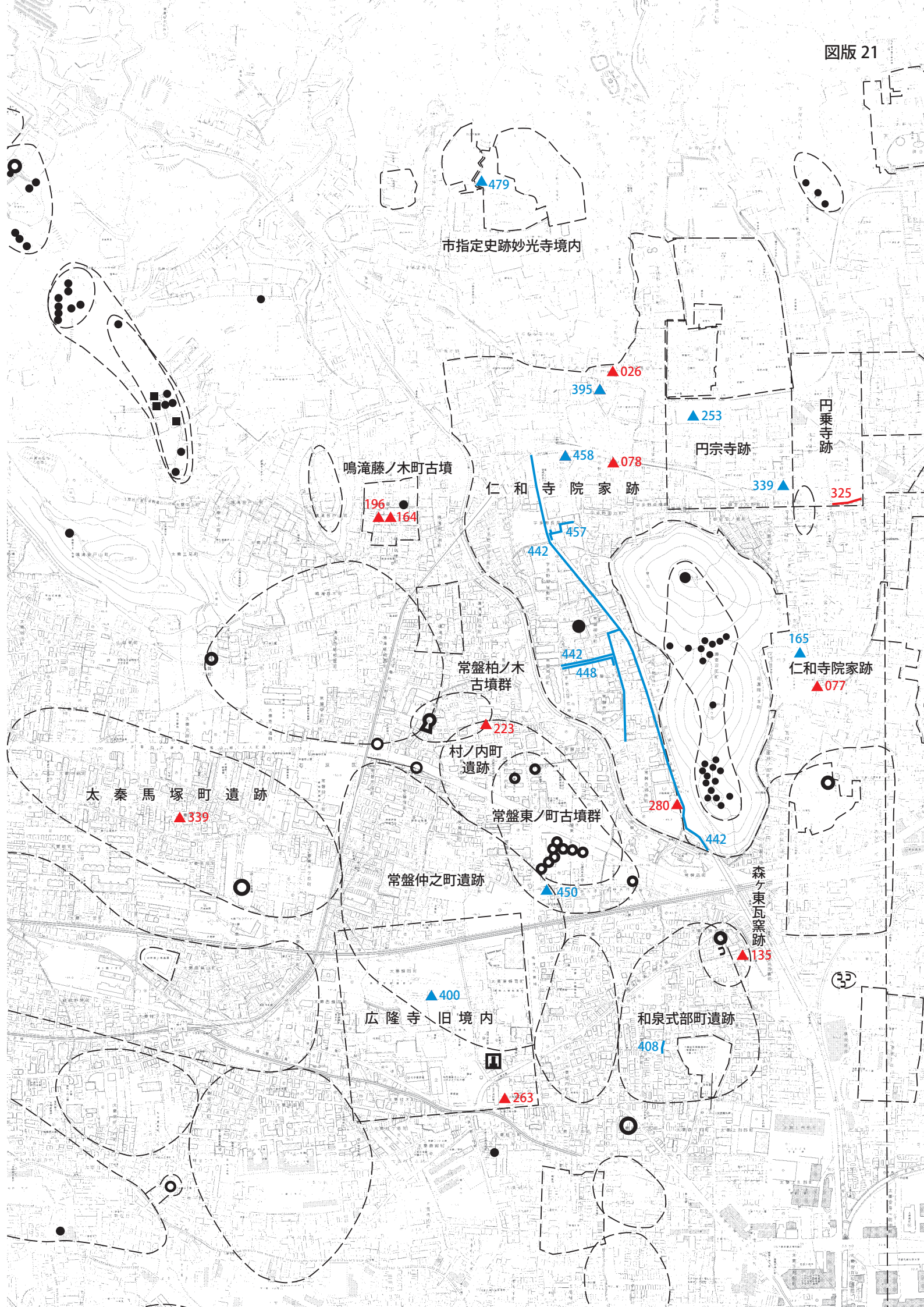
▲151
淀城跡

▲244

▲082

304

▲456





▲035

大雲寺跡

▲365

岩倉忠在地遺跡

栗栖野瓦窯跡

▲150

▲417

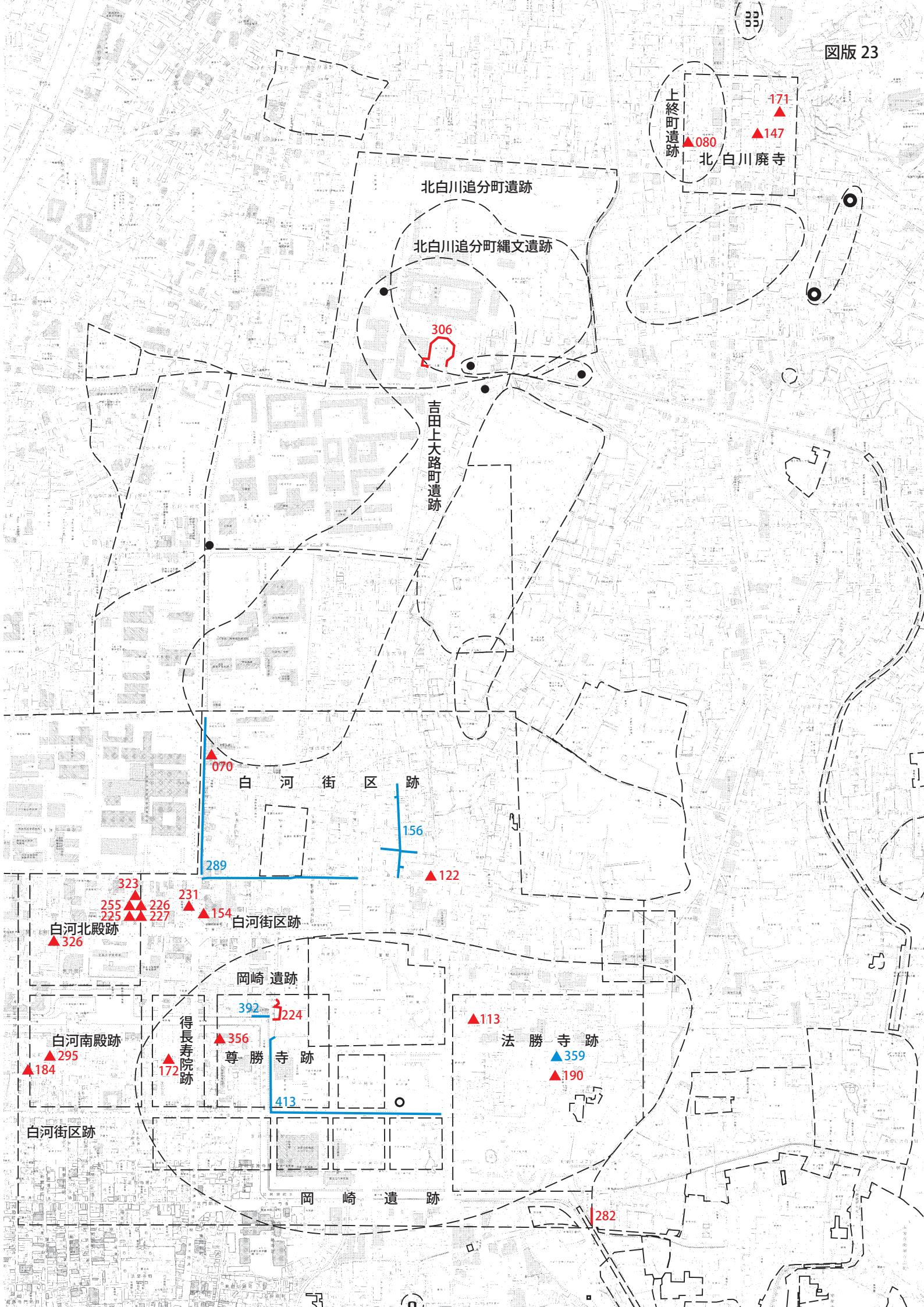
松ヶ崎廃寺

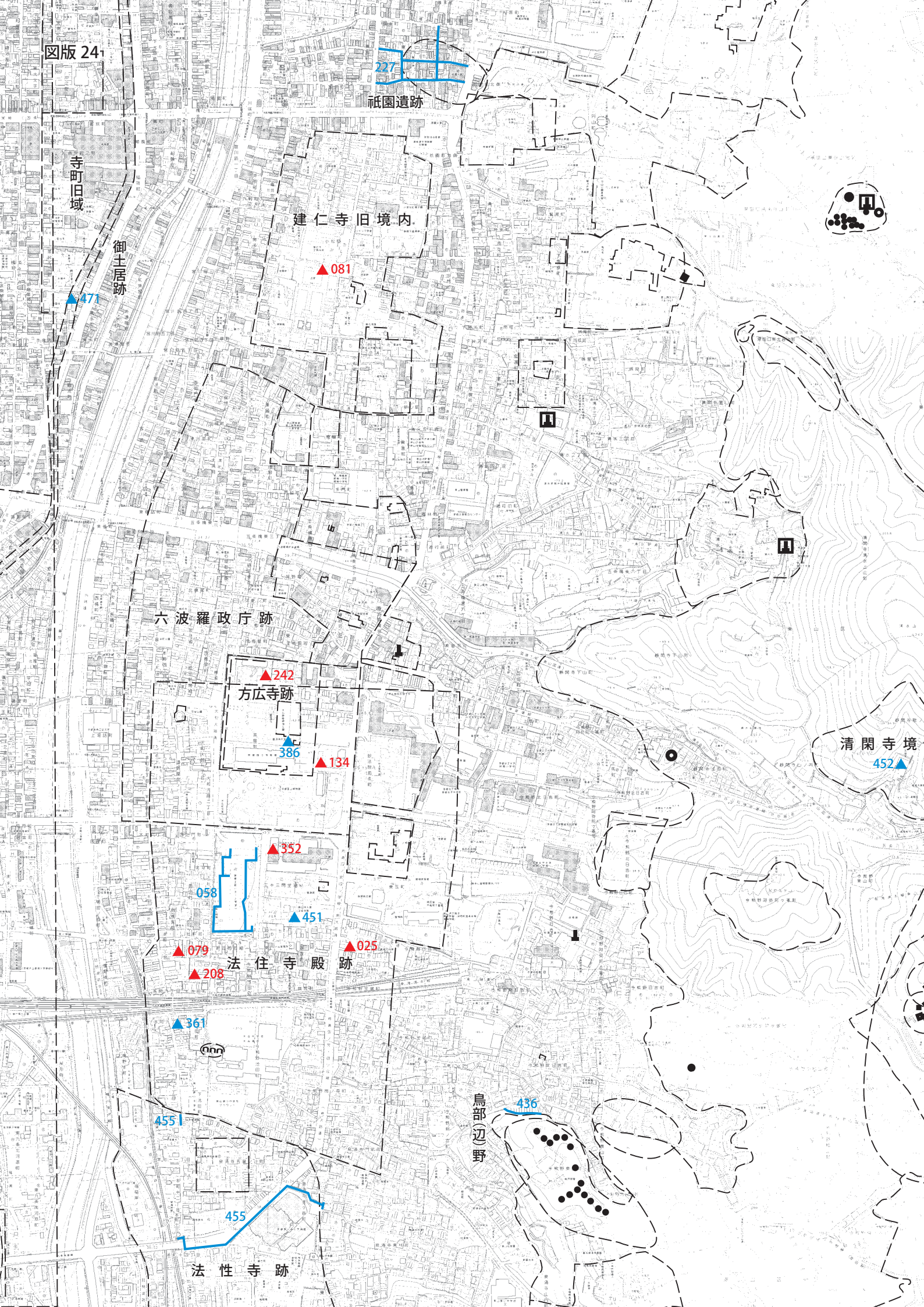
芝本瓦窯跡

▲068

245

植物園北遺跡





227

祇園遺跡

寺町旧域

御土居跡

建仁寺旧境内

▲081

六波羅政庁跡

▲242

方広寺跡

▲134

▲352

058

▲451

▲079

▲208

法住寺殿跡

▲025

▲361

455

455

法性寺跡

鳥部(辺)野

436

清閑寺境

▲452

南野古墳群

223

上ノ段町遺跡

075▲

嵯峨遺跡
▲240
▲083

128▲

▲111

063

076▲

嵯峨折戸町遺跡

182▲

▲094

臨川寺境内

嵯峨北堀町遺跡

459

嵯峨遺跡

▲230

植物園北遺跡

▲376

▲396

▲029

▲289

▲260

▲438

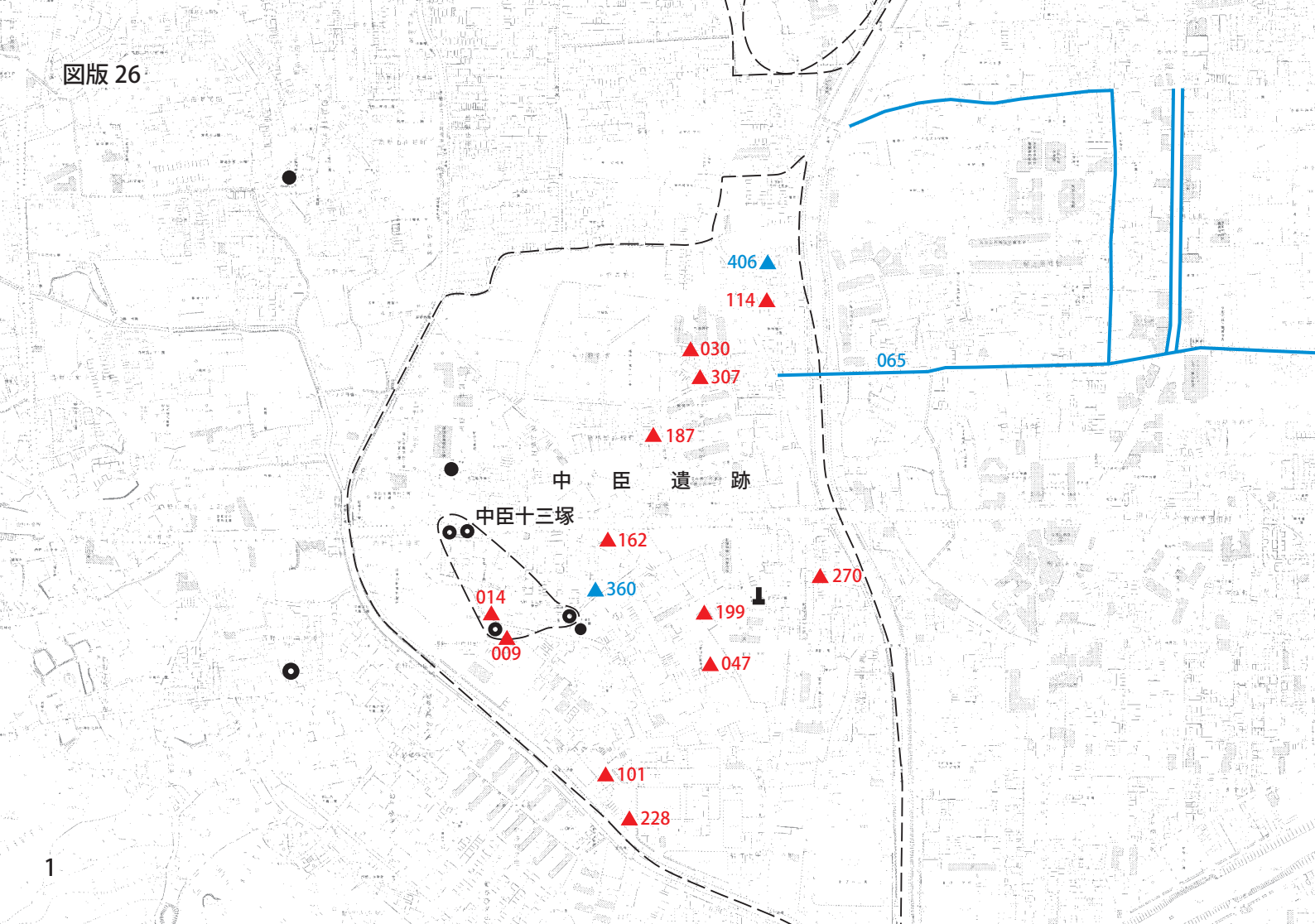
▲068

芝本瓦窯跡

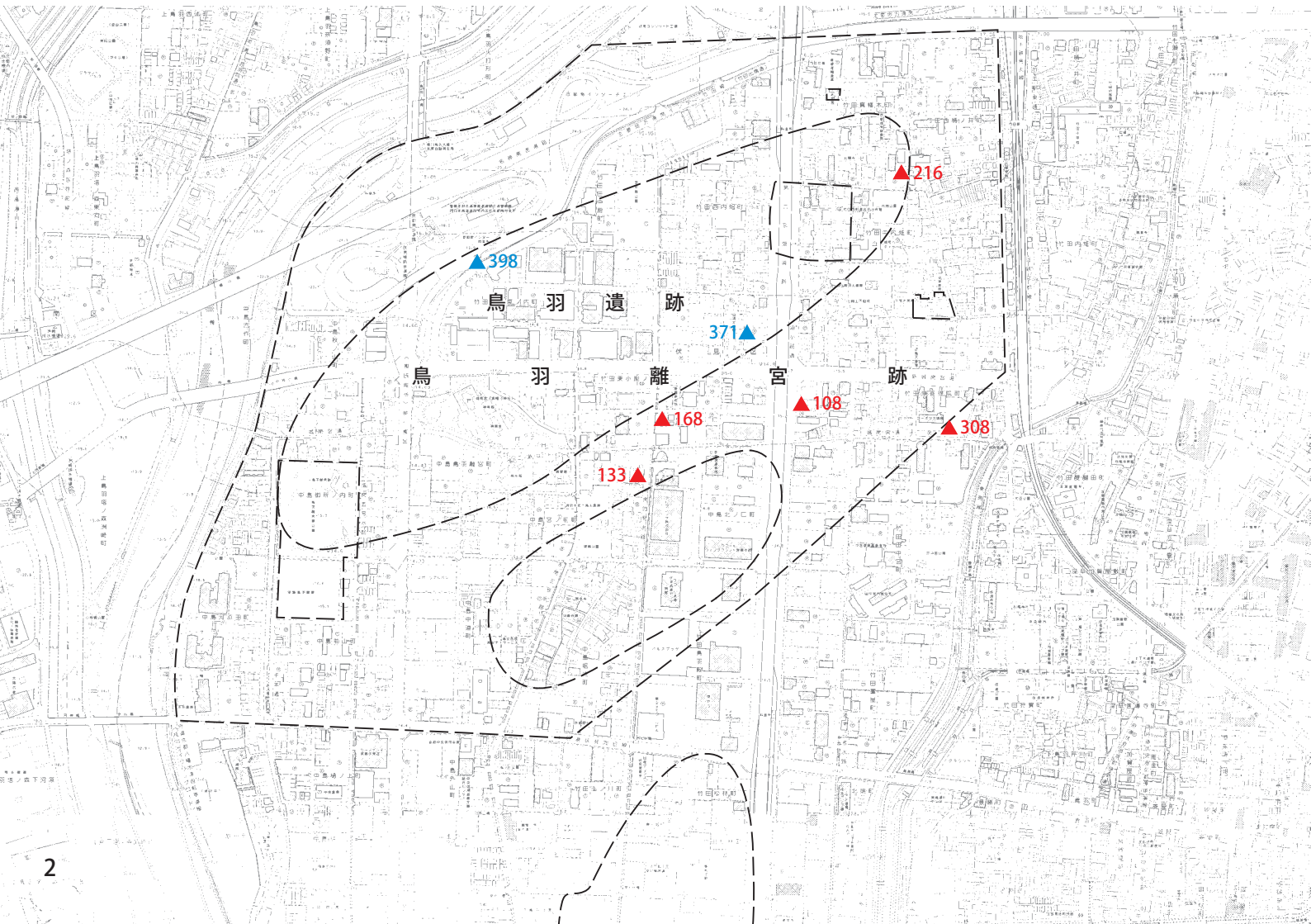
245

▲064

▲049

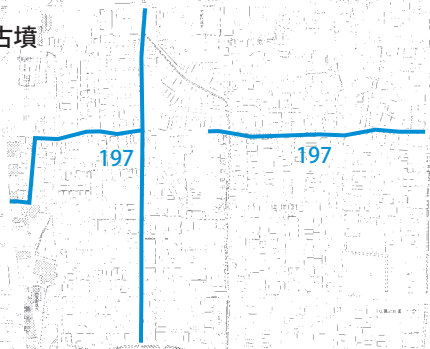


1



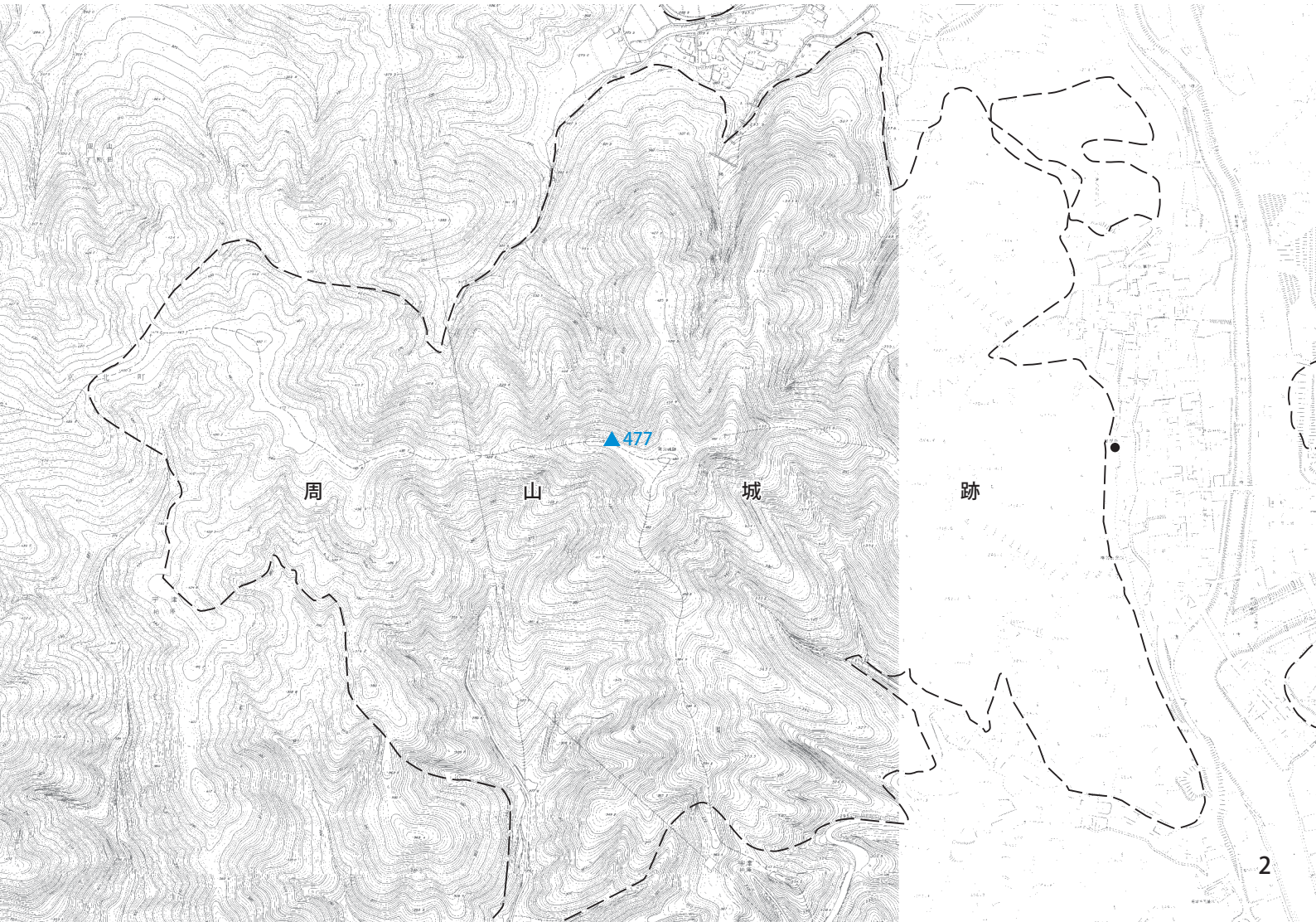
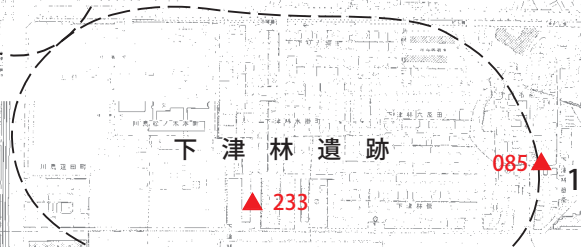
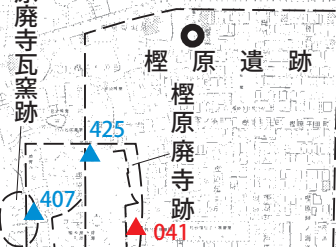
2

328 ▲
山田車塚古墳



革嶋館跡

榎原廃寺瓦葺跡



公家町遺跡
法成寺跡

154
111

▲362

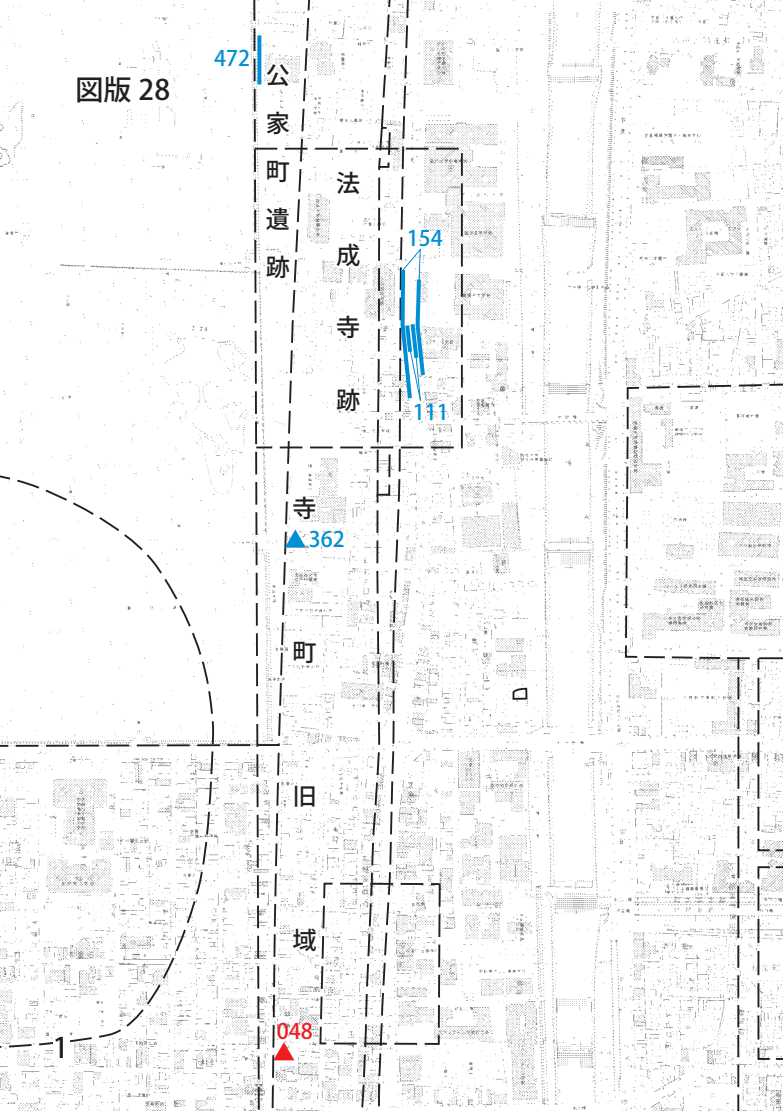
寺

町

旧

城

▲048



370

北花山遺跡

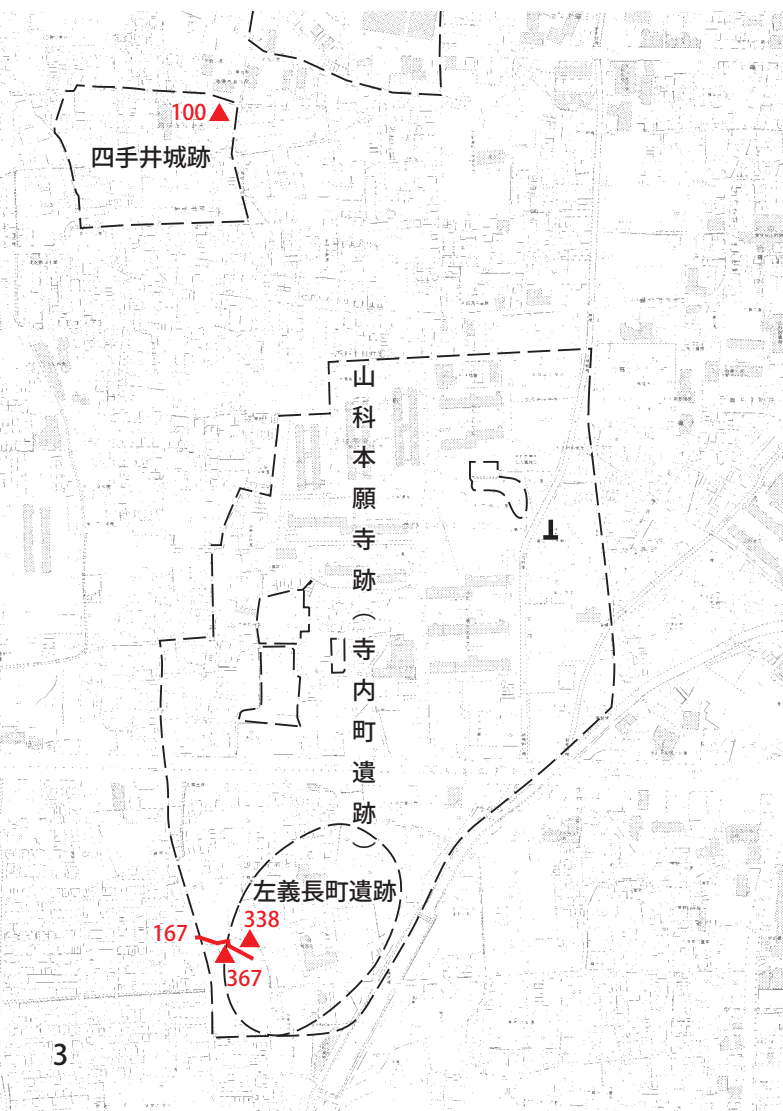
鳥部(辺)野

373

清閑寺境内

▲452

2



▲100

四手井城跡

山科本願寺跡(寺内町遺跡)

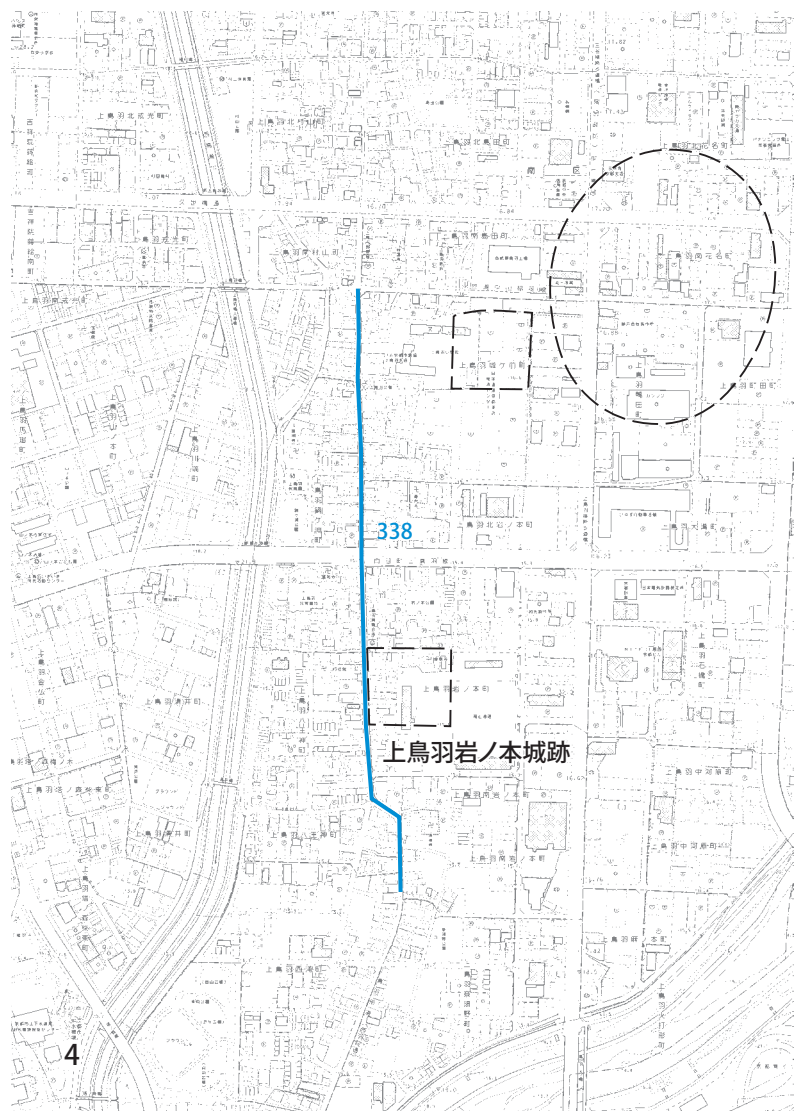
左義長町遺跡

▲167

▲338

▲367

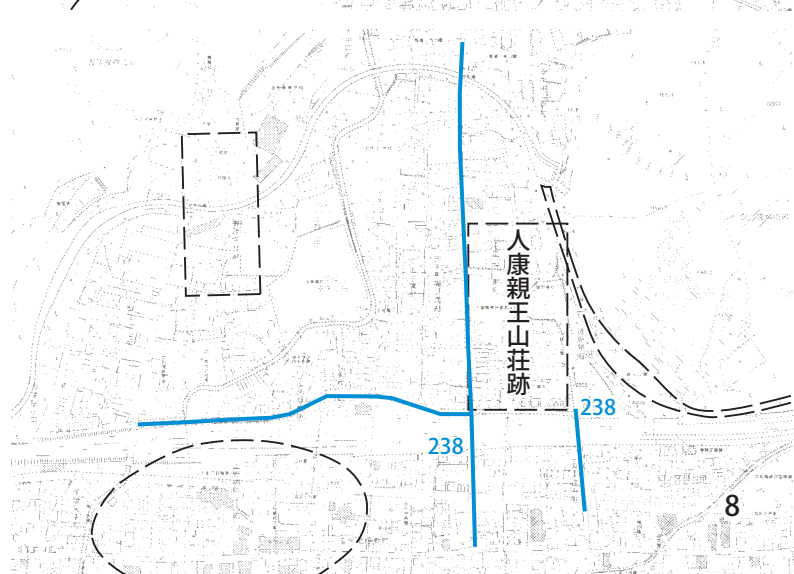
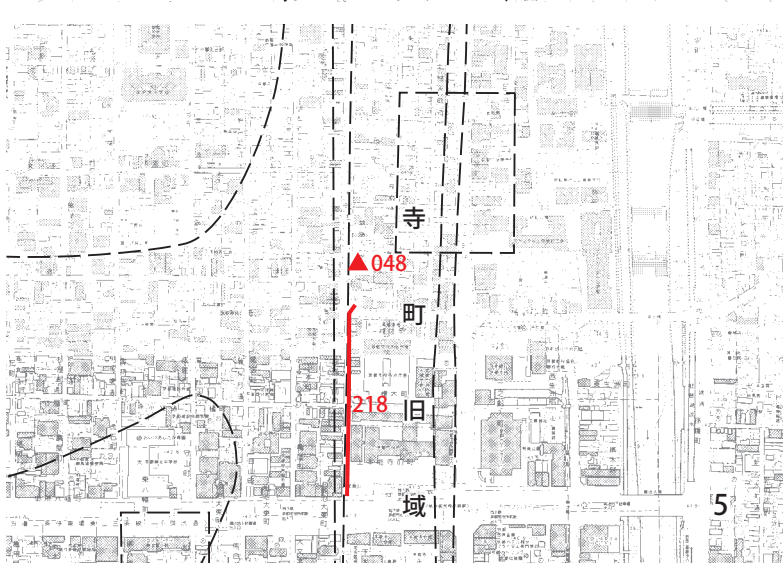
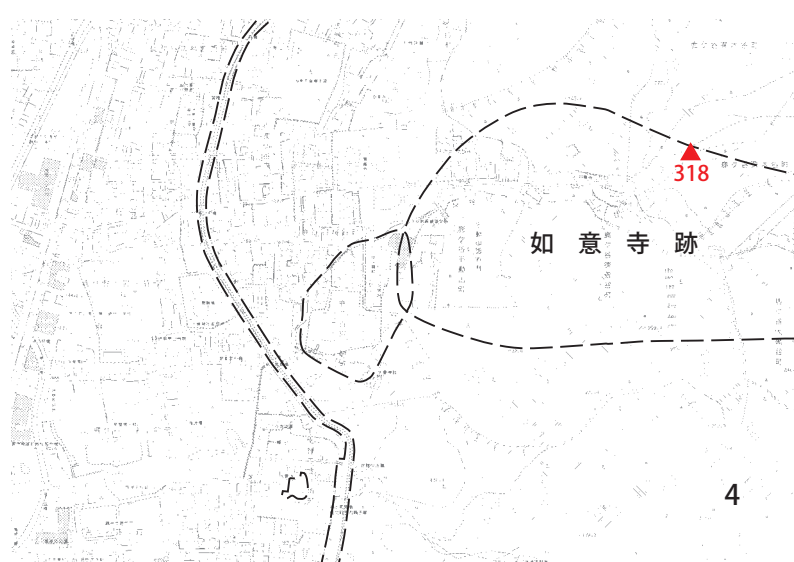
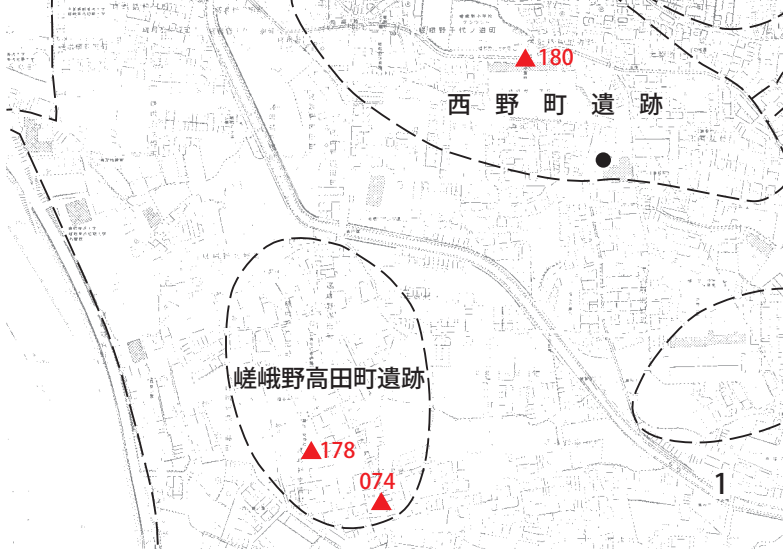
3



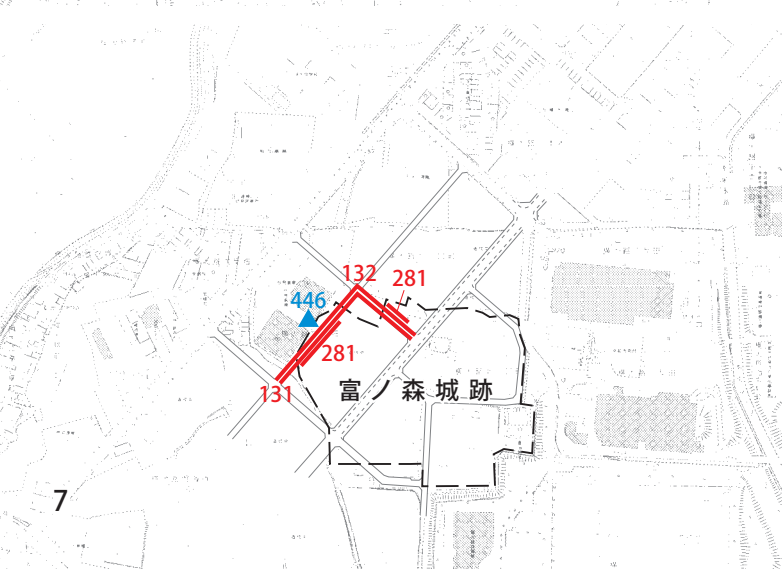
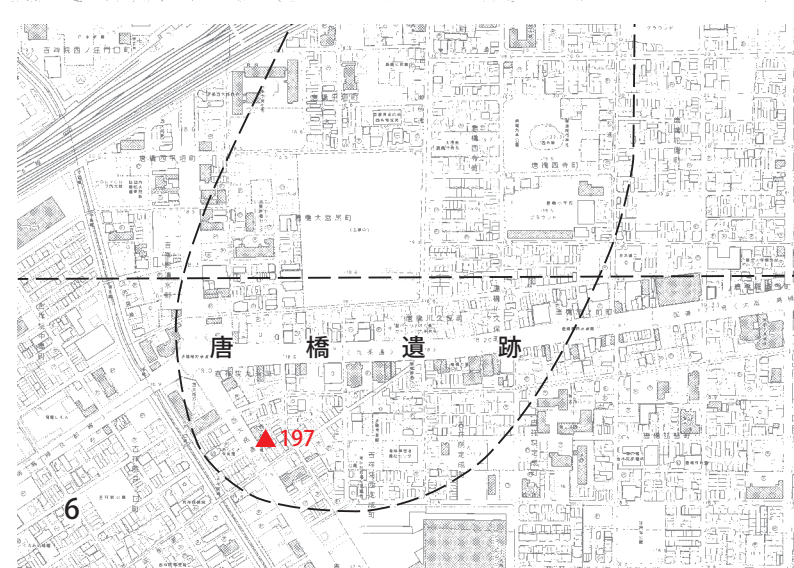
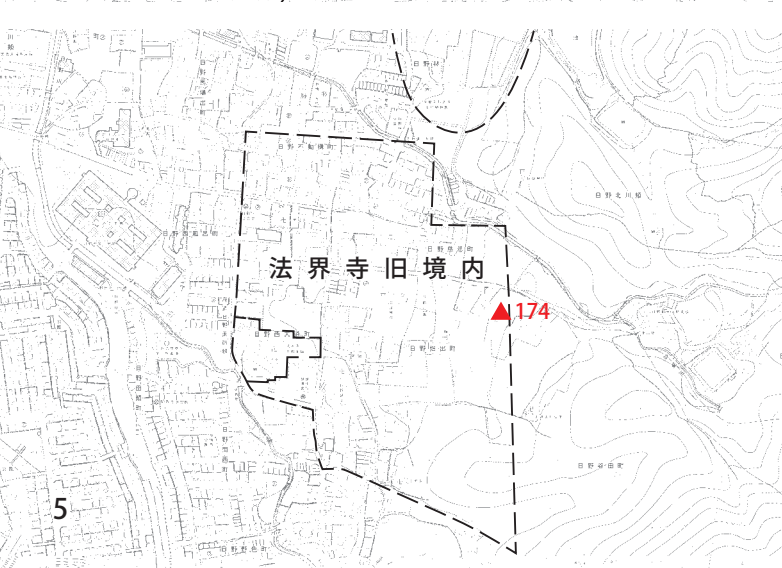
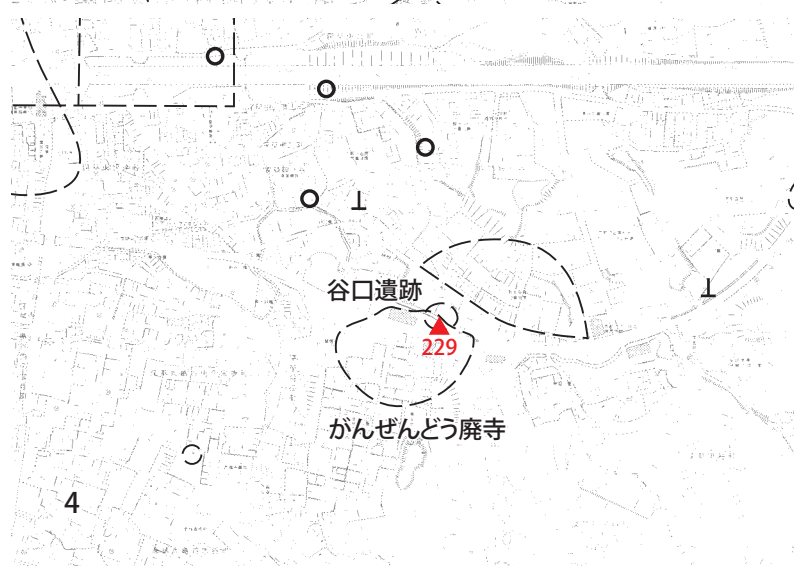
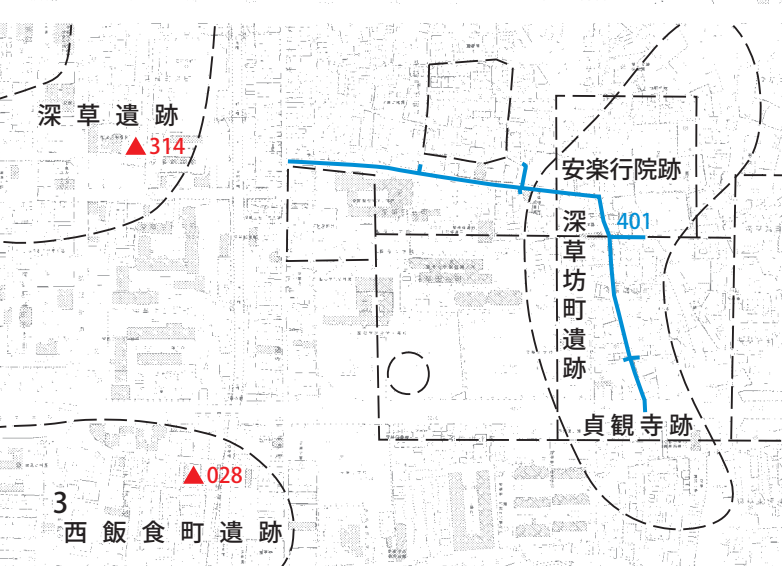
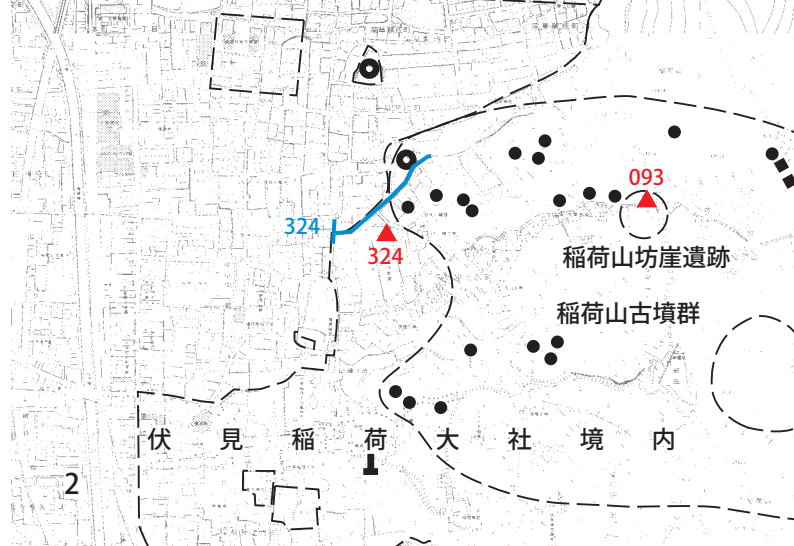
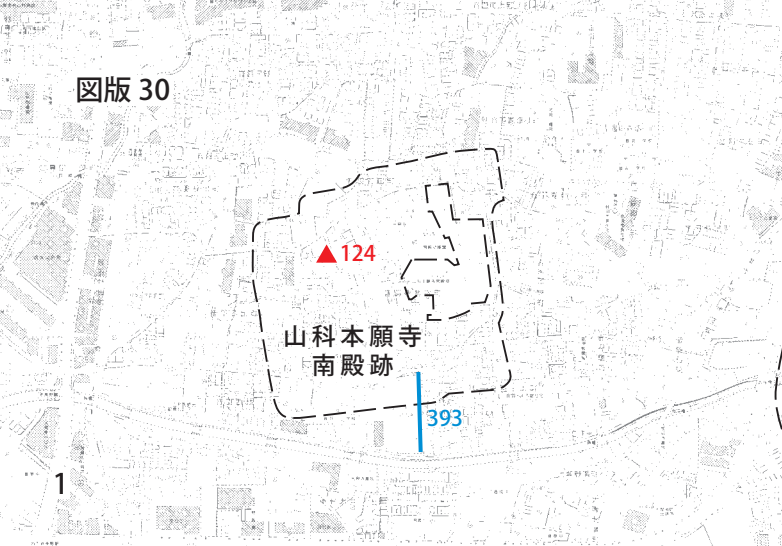
338

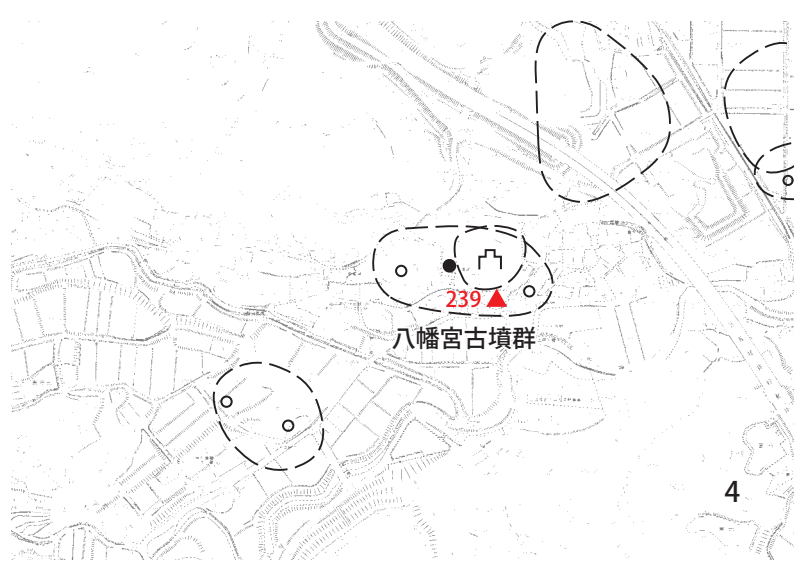
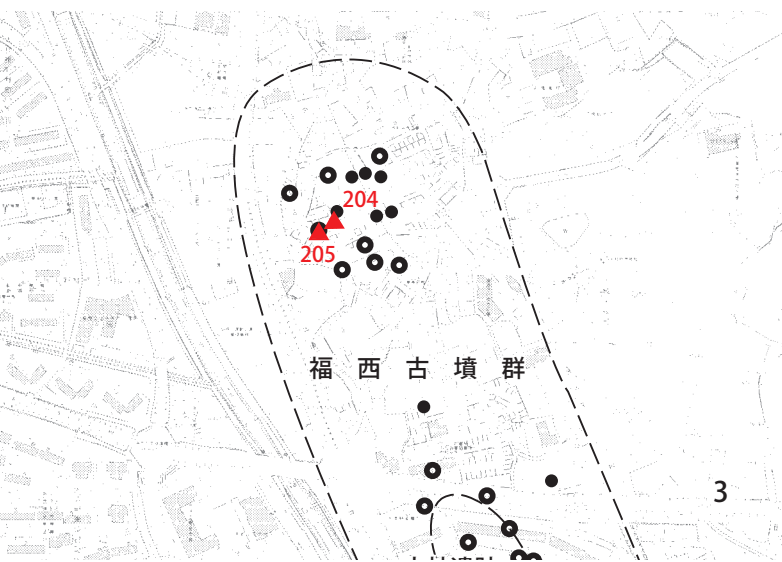
上鳥羽岩/本城跡

4



図版 30







No.5 北壁断面オルソ写真 (1 : 20)

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく れいわろくねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和6年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・佐藤拓・八軒かほり・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2025年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょうごじょう 平安京左京五条 いちぼうはちちょうあと 一坊八町跡、 ほんりゅうじ かま あと 本隆寺の構え跡	きょうとしななかぎょうくみぶかよう 京都市中京区壬生賀陽 ごしよちょう 御所町56-1、58-1、59	26104	1 465	35度 01分 27秒	135度 45分 08秒	2024/3/28 ～4/10 2024/5/23 ～6/5		共同住宅 建設
へいあんきょうさきょうごじょう 平安京左京五条 さんぼうしちちょうあと 三坊七町跡	きょうとししもぎょうくあやのこうじどおり 京都市下京区綾小路通 堀川西入妙満寺町 571-2	26106	1	35度 00分 01秒	135度 44分 42秒	2024/9/18 ～10/2		共同住宅 建設
へいあんきょうさきょうろくじょう 平安京左京六条 さんぼうしちちょうあと 三坊七町跡、 からすまあやこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	きょうとししもぎょうくごじょうどおり 京都市下京区五条通 しんまちひがしいるひかしきざりやちょう 新町東入東鋸屋町160	26106	1 712	34度 58分 36秒	135度 46分 26秒	2024/4/15		共同住宅 建設
へいあんきょうさきょうはちじょう 平安京左京八条 しぼうきゅうちょうあと 四坊九町跡	きょうとししもぎょうくかみのちょう 京都市下京区上之町 ちない 地内	26106	1	34度 57分 22秒	135度 46分 05秒	2024/6/14		河川改修 工事
ししていしせき 市指定史跡 みょうこうじけいだい 妙光寺境内	きょうとし うきょうく うたの 京都市右京区宇多野 かみのたにちょう 上ノ谷町20	26108	C939	34度 57分 56秒	135度 37分 10秒	2023/6/8 ～2024/7/4		河川改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京五条 一坊八町跡、 本隆寺の構え跡	都城跡、 平城跡	平安時代前期～ 鎌倉時代	溝、ピット、土坑	土師器		平安時代前期～ 鎌倉時代の遺構面を確認		
平安京左京五条 三坊七町跡	都城跡	平安時代後期	溝	土師器		綾小路関連遺構を検出		
平安京左京六条 三坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	都城跡、 集落跡	平安時代中期～ 後期	ピット	土師器		平安時代遺構面の 残存を確認		
平安京左京八条 四坊九町跡	都城跡	近代	護岸石垣			高瀬川護岸石垣の 現況を記録		
市指定史跡 妙光寺境内	史跡 (市指定)	近世	基壇礎石			印金堂跡で東柱の 礎石1基を確認		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせきしょうさいぶんぷちようさほうこく れいわろくねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和6年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・佐藤拓・八軒かほり・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2025年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しよくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしかきぎょうくしもかも 京都市左京区下鴨 きたしほちよう 北芝町41-5の一部	26103	146	35度 01分 27秒	135度 45分 08秒	2024/5/14		個人住宅 建設
むろまちどのあと 室町殿跡 はな ごしよ (花の御所)	きょうとしかみぎょうくむろまちどむり 京都市上京区室町通 かみたちりりさがるうらつきちちよう 上立売下る裏築地町 93-7、93-4の一部	26102	230	35度 00分 01秒	135度 44分 42秒	2024/9/9 ~11		個人住宅 建設
きたしらかわはいじ 北白川廃寺	きょうとしかきぎょうく 京都市左京区 きたしらかわたいどうちよう 北白川大堂町22	26103	397	34度 58分 36秒	135度 46分 26秒	2024/7/9		個人住宅 建設
てらまちきゆういき 寺町旧域	きょうとしなかがぎょうく 京都市中京区 かみほんのうじまえちようほか 上本能寺前町他 地内	26104	170	34度 57分 22秒	135度 46分 05秒	2024/9/6 ~11/28		電線共同溝 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
植物園北遺跡	集落跡	弥生時代～ 古墳時代	土坑					
室町殿跡 (花の御所)	邸宅跡	室町時代	ピット	土師器		室町時代の包含層が 良好に残存		
北白川廃寺	寺院跡	飛鳥時代	基壇、掘込地業			金堂基壇土及び掘込 地業を確認		
寺町旧域	寺院跡	近代	石組溝			妙満寺西限の石垣及び 京都電気鉄道敷設に伴う 石垣を確認		

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和6年度

発行日 2025年3月31日
発行 京都市文化市民局
編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
住所 〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488
分庁舎地下1階
TEL. (075) 222-3130
印刷 奥田印刷株式会社
TEL. (075) 441-7060